

授業名	哲学的人間学特論Ⅰ	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 必修	
担当教員名	◎野口 周一			
開講期				
授業の概要	本講義のテーマは「民衆の教育経験」である。それは人々が教育をどのように受けたのか、また教育を受けたことがその後の人生にどのような影響を与えたのか、ということを考えるために用いた言葉と考える（大門正克氏）。本講義の前半は壺井栄の名著『二十四の瞳』を読み、小豆島の寒村を舞台にした小学校1年生の生活から、その当時の問題点を浮き彫りにし、後半は大門氏の著作を手掛かりに考えていく。なお、自分で考え、発表することを重視する。 フィードバックの方法は授業時に行う。			
授業の到達目標	1、戦争と学校体験の視点から「民衆の教育思想」について、具体例をあげて説明できること。 2、日本史における近代史の部分がある程度説明できるようになること。 単位認定の最低基準は80％である。			
履修条件	特になし。	成績の 評価方法・基準	『二十四の瞳』『民衆の教育経験』の講読をとおして、子どものおかれた環境がどのようなものであったか、それを化する文章化することに80％の評価をしたい。また感想を述べていただくところを20％の評価とする。	
テキスト	壺井栄 『二十四の瞳』 大門正克『民衆の教育経験』			
参考書	その都度、明示したい。			
学生への要望	講義への主体的な参加を望む。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係	特に「人間生活について総合的な視野を持ち」、「広い分野の知識を統合して」、自らが出会った問題に対処し得る能力を養うことを目的とする。			
オフィスタイム	火曜、水曜のお昼休み。教職課程推進室。			
アクティブラーニング実施内容	テキストを講読しつつ、問題点はその都度対応し、学習する。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講義ガイダンス及び『二十四の瞳』を読む（1）	授業の進め方について説明する。講読では教育勅語とは何かを考える。	予習・復習	90
2	『二十四の瞳』を読む（2）	御真影とは何か、について考える。	予習・復習	90
3	同上（3）	国定教科書とは何か、について考える。	予習・復習	90
4	同上（4）	忠君愛国とは何か、について考える。	予習・復習	90
5	同上（5）	子どもの悲しみとは何か、児童労働について考える	予習・復習	90
6	同上（6）	女に生まれたこと、について考える。	予習・復習	90
7	同上（7）	大石先生の悲しみとは何か、わが子を失うことについて考える。	予習・復習	90
8	同上（8）	大石先生の悲しみとは何か、教え子を失うことについて考える。	予習・復習	90
9	『民衆の教育経験』を考える（1）	就学と進路をめぐる動向について。	90	90
10	同上（2）	国家と学校の望む子ども像について。	予習・復習	90
11	同上（3）	村のこども像の輪郭について。	予習・復習	90
12	同上（4）	都市の子ども像の輪郭について。	予習・復習	90
13	同上（5）	教育の社会的機能と社会移動について。	予習・復習	90
14	同上（6）	戦時下の小国民について。	予習・復習	90
15	同上（7）	学童疎開について。	予習・復習	90

授業名	教育学的人間学特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員名	◎野口 周一		
開講期			
授業の概要	本講義では木村素衛（きむら・もともり、1895―1946）という教育哲学者に学ぶ。木村は師の西田幾多郎に嘱望され、それを決して裏切ることのない珠玉の著作を残した。木村はカント、フィヒテを中心とするドイツ観念論の哲学研究から出発し、彼自身の造語となる「表現愛」の理論を展開した。木村の理論は難解であるが、娘の張さつき氏による『父・木村素衛からの贈りもの』（未来社、2002年）というエッセイがある。これを手がかりに木村の哲学を読み解いていきたい。 課題に対するフィードバックの方法は授業時及び試験終了時に行う。		
授業の到達目標	1 木村素衛の思索と行動を通じて、教育学的人間論とは何か、自問自答できること。 2 木村素衛の信州の教師たちにかけた愛情と「表現愛」を系統的に理解できること。 単位認定の最低基準は80％である。		
履修条件	特になし。	成績の 評価方法・基準	張さつき氏の『父・木村素衛の贈りもの』の講読を通して、その思索と行動を理解することを目指すことに80％の評価をしたい。また感想を述べていただくところを20％の評価とする。
テキスト	特に使用しない。コピーをお渡しいたします。		
参考書	その都度、明示はしていきたい。		
学生への要望	講義への主体的な参加を望む。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係	特に「人間生活について総合的な視野を持ち」、「広い分野の知識を統合して」、自らが出会った問題について対処し得る能力を養うことをことを目的とする。		
オフィスタイム	火曜、水曜のお昼休み。教職課程推進室。		
アクティブラーニング実施内容	テキストを講読しつつ、問題点はその都度対応し、学習する。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	導入および張氏の「黄色いバラの花」を読む。	授業の進め方について説明する。また木村と信州との関わり方について考えていく。	予習・復習	90
2	「サナギ」を読む。	サナギの意味を考える。	予習・復習	90
3	「記念碑」を読む。	なぜ四つの碑があるのか考える。	予習・復習	90
4	「ふるさと橋立」を読む。	木村のふるさとである橋立について考える。	予習・復習	90
5	「京都での生活」を読む。	木村と京都との出会いについて考える。	予習・復習	90
6	「青春」を読む。	木村の愛と闘病について考える。	予習・復習	90
7	「京都帝国大学入学」を読む。	西田との出会い、学問への情熱について考える。	予習・復習	90
8	「結婚」を読む。	木村の結婚について考える。	予習・復習	90
9	「広島時代」を読む。	「一打の鑿」について考える。	予習・復習	90
10	「信州と父・その出会いの頃」を読む。	信濃教育会との関わり、教育学への道について考える。	予習・復習	90
11	「京大教育学へ」を読む。	「教育哲学」構築へ、「本当の教育とは」について考える。	予習・復習	90
12	「戦いの中で」を読む。	「初等教育を大切に」、「教え子の出征」、「教育者を育てる」について考える。	予習・復習	90
13	「終戦後の日々」を読む。	「信州での講演」、「戦後の教育について考える」について考える。	予習・復習	90
14	「終焉」を読む。	「風邪をおして信州へ」について考える。	予習・復習	90
15	総括	木村の「国家における文化と教育」についても考えたい。	予習・復習	90

授業名	健康生活特論Ⅰ	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎紺野 信弘			
開講期				
授業の概要	人間の健康について、英文専門書の翻訳を通して学習する。翻訳の過程で疫学的な考え方についての講義も行う。集団の健康を扱うのに必要な統計の手法についても学ぶ。[課題に対するフィードバックの方法] 講読した英文を和訳し提出させる。それによって英文の意味が定着する。			
授業の到達目標	人間の健康、特に人間集団の健康を知る上での疫学的考え方の重要性を学ぶ。【単位認定方法と最低基準】出席を重視します。提出を求められた英文の翻訳レポートは必ず提出すること。【デプロマポリシーと授業科目の関連】①知識の獲得とその理解、②総合的な学習経験と創造的思考の獲得			
履修条件	大学院修士課程の院生	成績の 評価方法・基準	英文講読の和訳の提出60点、レポート提出40点 合計100点満点	
テキスト	特にありません。授業に必要な印刷物は配布します。			
参考書	国民衛生の動向 Healthy women, healthy lives. a harvard medical school book ISBN 978-0-7432-1774-3			
学生への要望	授業では、パソコンを使用することがあるので、パソコンは常に持参すること。			
位置付け・水準	ありません。			
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマポリシーの一つに、「広い分野の知識を統合して、専攻分野の特定の問題に対する解決策を示すことができる」がある。本講義では学部で学んだ知識をさらに深めて、修士論文の執筆等に役立てるようにする。必要な文献の引用法などについての教授する。			
オフィスタイム	アポイントメントを取ってもらえば都合の良い時間を設定します。			
アクティブラーニング実施内容	小人数の授業なので、アクティブラーニングの予定はない。			
実務家教員の経歴	ありません。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	健康の概念	健康とはなにかを、公衆衛生学の立場から、あるいはWHO憲章、日本国憲法の生存権から考える。	健康とはなにかについて調べる	60
2	成人の健康	生活習慣病とはなにか、またそのリスクと予防について考える。健康日本2 1と健康日本2 1（二次）について考える。	生活習慣病について考察する	60
3	疫学（1）	疫学とは。疫学の歴史。個人の健康から集団の健康へ。	疫学の概念について調べる	60
4	疫学（2）	疫学の種類。疫学の利用	良く使われる疫学について調べる	60
5	保健統計（1）	集団の健康評価に必要な保健統計について。人口静態統計と人口動態統計について。	人口静態・動態統計の違いを調べる	60
6	保健統計（2）	人口ピラミッド。合計特殊出生率。年齢調整死亡率。保健統計からみた少子高齢化。	わが国の合計特出生率について	60
7	保健統計（3）	疫学研究に必要な統計の基礎。統計ソフトIBM-SPSSについて。	統計ソフトIBM-SPSSの利用法の学習	60
8	保健統計（4）	SPSSの実際。SPSSを用いてデータの解析を行う。	SPSSをサンプルデータを用いて実際に使用してみる	60
9	高齢者の健康（1）	老化の概念。	老化の概念について考察する	60
10	高齢者の健康（2）	加齢による生体の生理的变化。健康と生活の質	加齢に伴う骨・筋の変化について学習する	60
11	女性の健康（1）	英文講読"Healthy women, healthy lives"米国ハーバード大学医学部から出版されている「女性の健康的な生き方」についてのテキストをもとに"健康"について考える	与えられた部分の和訳を行う	60
12	女性の健康（2）	上記テキストの中にある、"看護師の健康研究とは"について英文和訳をしながら学習する。	英文和訳の継続	60
13	女性の健康（3）	"健康研究"を講読しながら疫学について解説、学習する。	和訳部分を解釈し意味の理解に努める	60
14	健康生活と毒性学	化学物質の安全性。毒性物質の体内動態。農薬の毒性について理解を深める。	量反応関係について理解を深める	60
15	総括講義	これまでの講義をまとめ"健康"について理解を深める。	これまでの講義を参考にして、もう一度「健康」について振り返り考察する	60

授業名	人間生体特論Ⅰ	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎西山 慶治			
開講期				
授業の概要	人体を構成する基本的構造と機能を学ぶため、細胞、組織、器官並びに系統別レベルで学修します。この学修によりヒトが進化して現在の構造と機能を獲得する過程で、人体に具現化された自然の法則を学びます。授業の中間（8回目終了時）に小問のレポートを課し、内容をフィードバックします。これには人体解剖（38年間の教授暦）と機能形態学を基盤に指導する。ナンバリング 1、3			
授業の到達目標	人体について構造と機能を理解し、さらに人類の進化を学修することによりヒトの形態と機能を概説できる。内容の7割を理解することを希望します。			
履修条件	大学院に籍をおき、人類の進化に興味を抱くこと	成績の 評価方法・基準	理解度の確認レポート（1回目40%、2回目30％、3回目30％） 合計100％(100点)	
テキスト	講義プリントを配布して使用			
参考書	シンプル解剖生理学、入門人体解剖学、他			
学生への要望	人体の構造と機能を学び、ヒトの存在について考える。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	解剖学総論	人体とは、自然の法則が人体を借りて具現化されたものである。その法則を人体の基本構造から学ぶ。	人体の基本的形態、特徴、進化、系統、器官、組織、細胞などの基本的用語を確認する。	60
2	細胞学	生命の最小単位である細胞について、その構造と機能を学ぶ。	細胞の構造と機能、遺伝子の働きを復習する。	90
3	組織学総論	人体を構成する上皮組織、支持組織、筋組織並びに神経組織について学ぶ。	人体の4つの組織の概念を調べる。	30
4	骨格系Ⅰ	人体の支柱である骨格の組織構造と役割、発生、機能・経年変化、骨の連結を学ぶ。	骨の構造、組織、働き、連結、発生を調べる。	60
5	骨格系Ⅱ	各骨格の名称と形状を学び、各部位での役割を理解して人体の特徴を学ぶ。	主要な骨の名称と形状を学び、関節の動きを考える。	60
6	筋系	骨格筋の概略を学び、運動器としての役割を理解する。	筋肉の種類、筋収縮、主要な筋の作用を調べる。	60
7	消化器系Ⅰ	消化器の各部位の構造を学び、消化機能の概略を理解する。	消化器の各部の位置、名称、形、役割をまとめる。	90
8	消化器系Ⅱ	消化器の主要部位の組織構造と機能を学ぶ。	消化腺の名称、位置、役割をまとめる。	60
9	呼吸器系	呼吸器の各部位の構造を学び、呼吸機能の概略を理解する。	呼吸器系の主要部位の名称、位置、形態、働きを調べる。	60
10	泌尿・生殖器系	尿の生成と排泄を担う器官の構造と機能を学ぶ。生殖器の構造、性差、発生並びにその機能を学ぶ。	泌尿・生殖器の主要部位の名称、形状、役割をまとめる。	60
11	脈管系、内分泌系	心臓を中心とした循環系の構造と役割を学ぶ。ホルモンを使って情報を伝達する内分泌系の構造と働きを学ぶ。	体液の循環、心臓の位置、構造、全身の主要血管を調べる。	90
12	神経系Ⅰ	中枢神経系の脳と脊髄の位置、構造、機能について学ぶ。	脳と脊髄の形状、位置、働きを調べる。	60
13	神経系Ⅱ	末梢神経の脳神経と脊髄神経並びに自律神経について学ぶ。	末梢神経の主要なものの名称と分布を調べる。	30
14	感覚器系	人体の情報入力器官である感覚器の構造と機能を学ぶ。	5感の感覚器の名称、形、働きをまとめる。	60
15	発生学	人体の発生と形成を学び、人類の特徴を理解する。	人体の発生と成長並びに老化を考える。	30

授業名	家政学原論Ⅰ	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 必修	
担当教員名	◎安田 純子			
開講期				
授業の概要	「家政学とは何か」という家政学全体を展望しうる視野を持ってその専門性を発揮していくことは家政学を学ぶ者に求められる専門的資質です。家政学原論（Philosophy of Home Economics)の目標とするところは、家政学とはどのような学問であるかを説明することです。そのために、家政学の目的、対象、方法、独自性などを考察し、定義（理念）を明確にし、学問として備えるべき要件や領域を明示することを要します。これに関連して、歴史的変遷や展開過程、世界的な学問の動向などを理解し、本学の家政学、特に家政哲学の理解を通して、家政学の学問としてのあり方を探究し、さらには現代的意義についても考えていきます。最終授業で全体を振り返り、まとめをします。			
授業の到達目標	本学の家政哲学を深く理解し、本学の家政学、特に家政哲学を深く理解していること。 単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。			
履修条件	大学院（修士課程）	成績の 評価方法・基準	発言力（20％）、レポート（80％）	
テキスト	随時、紹介します。			
参考書	関口富左編著『家政哲学』家政教育社 関口富左編著『人間守護の家政学』家政教育社 O.F.ボルノー、須田秀幸訳『実存主義克服の問題』未来社 O.F.ボルノー、小島威彦訳『人間の棲家』めいせい出版 日本家政学会 家政学原論部会 編『やさしい家政学原論』建帛社			
学生への要望	事前に資料や参考文献などに目を通しておくことが望ましい。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム	月曜日13:00～16:30 木曜日9:30～12:30 場所は、創学館4F No.1研究室			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 家政学への接近	家政学を知ること 家政学原論とは何か、家政学における原論の意味と必要性を考える。	講義資料について復習する。	60
2	家政学の発祥と変遷（1）	家政学の展開過程について、近代家政学の発祥地とされるアメリカ家政学を中心に、特にその思想の源流とされるエレン・リチャーズの思想を通して解説する。	講義資料について予習・復習する。エレン・リチャーズのヒューマン・エコロジー思想は家政学を学ぶにあたりどのように役立つかを考える。	60
3	家政学の発祥と変遷（2）	日本における家政学の展開過程について、社会的背景とともに把握する。科学（学問）として家政学が成立するために求められた条件について考える。	講義資料について予習・復習する。『やさしい家政学原論』第4章を読む。	60
4	家政学とは何か（1）	家政学の定義の比較と意味内容の検討をする。そこから関口富左氏（故名誉学園長先生）の定義は、個人や家族に視点があてられていること、その視野は世界にまで向けられ、時間軸は現代に至ることを理解する。	講義資料について予習・復習する。家政学の定義を調べ、特に『家政哲学』において関口氏の定義を熟思する。	60
5	家政学とは何か（2）	家政学の研究目的・研究方法・研究対象について解説する。またその独自性と研究領域について解説し、方向性を検討する。	講義資料について予習・復習する。『やさしい家政学原論』第2章などを参考に検討する。	90
6	家政学確立への模索とその経緯	関口富左氏（故名誉学園長先生）が家政学において、O.F.ボルノーの哲学を独自に展開し、その理念である「人間守護」を主軸とする家政学確立のために『家政哲学』を世に出された経緯を解説する。「家政学確立への模索－哲学を求めて」を読み進め理解を深める。	講義資料について予習・復習する。『家政哲学』第1章を読む。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	O.F.ボルノーにおける人間の住むことの哲学	本学の家政学の哲学的基礎となっている、O.F.ボルノーの「住むこと」の根本的思考（人間学的意味）について、ボルノーの講演録『人間とその家』を通して解説する。	講義資料について予習・復習する。『人間とその家』から考える。ボルノー思想と家政学的視点とは何か。「住むこと」とは何か。＊人間生活の学としての家政学をみる ときのよりどころとして実存的視点の必要について考える。	90
8	家政哲学の内容理解（１）	関口富左氏（故名誉学園長先生）編著による『家政哲学』（家政教育社）における構想を解説し、「人間守護と家政学」について読み進め内容の理解を深める。	講義資料について予習・復習する。『家政哲学』第３章を読み理解を深める。空間性と時間性、合理性と非合理性など。	60
9	家政哲学の内容理解（２）	引き続き、『家政哲学』の「人間守護と家政学」について読み進め、さらに全体的把握に努める。O.F.ボルノーにおける「家の意味」と本学の家政学における哲学的基盤の一つである、サン・テグジュペリの『城砦』から提起された家の人間学的意味について説明し、理解を深める。	講義資料について予習・復習する。『家政哲学』第３章で理解したことをまとめる。	90
10	人間守護の家政学（１）	関口富左氏（故名誉学園長先生）編著による『人間守護の家政学』（家政教育社）における「家政学はどのような学問であるか」を読み、家政学原論の理解を深める。「家・家庭・家族の人間的意思」を読み進める。	講義資料について予習・復習する。『人間守護の家政学』第１章第２節を読み、授業後まとめる。	60
11	人間守護の家政学（２）	引き続き『人間守護の家政学』を読み進める。「家政学の究極目的としての『人間守護』」を読み、人間守護の概念を理解する。	講義資料について予習・復習する。『人間守護の家政学』第２章第１節～第３節を読み、授業後まとめる。	60
12	人間守護の家政学（３）	引き続き『人間守護の家政学』を読み進める。「家政学の定義・対象・方法」を読み、人間守護の家政学の定義と家政学独自の研究方法論を理解する。	講義資料について予習・復習する。『人間守護の家政学』第４章を参考に家政学の定義・対象・方法をまとめる。	90
13	人間守護の家政学（４） 本学家政学における研究方法	引き続き『人間守護の家政学』を読み進める。「家政学の独自性」を読み、二相性を理解する。本学家政学における研究方法―無記性的研究方法、使用価値的研究方法、人間価値創出的研究方法について解説する。	講義資料について予習・復習する。『人間守護の家政学』第５章を参考に家政学の独自性としての二相性についてまとめる。	60
14	人間守護の家政学（家政学の使命と課題）	家政学の研究は人間生活全般に視点が広がり、内容も他領域に散在しつつ発展している。ここでは、家政学諸科目の構造化を整序究明し、人間生活の学として、その内容の総合化、更に、人間生活への還元について理解を深める。	講義資料について予習・復習する。配布資料をもとに家政学が人間生活の学としていかに人間生活に還元するかを考える。	60
15	総まとめ	IFHE（国際家政学会）ポジション・ステートメント及びSDGs（持続可能な開発目標）をうけ、本学の「家政哲学」ならびに本学の家政学における「人間守護」の理念に基づく学問研究を進めていくことが今後ますます重要になることを確認する。	講義資料について予習・復習する。配布資料をもとに家政学の研究課題について考えをまとめる。	90

授業名	生活学原論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 必修
担当教員名	◎安田 純子		
開講期			
授業の概要	人間の生活内容はその社会的背景と連動して著しく変化してきました。多くの社会的構造と機能の変化は、生活の場に深く関わってきています。この変化の進行と同時に社会・経済・環境など様々な問題が浮かび上がっており、家族や個人の生活について経済的・社会的・地域的レベルを考慮した研究が必要となっています。本授業では、生活学の目的、対象、方法、意義を明確にし、学として生活とは何かを探究していきます。生活学を紐解くにあたり、川添登著『生活学の提唱』を通して生活学の系譜をたどり、日本における生活学の原点ともいえる今和次郎の「生活学」の内容を理解します。生活学は何を問題として、どのようなアプローチによって分析しようとするのかについて考えていきます。続いて、時間的変遷（過去の正確な把握）を踏まえ、生活の変容、つまり、生活を家族、生活様式、労働、文化、高齢化社会、危機管理、情報社会、資源・環境との調和の面から捉え、生活はどのような要因によっていかに変化してきたかを考察していきます。そして日本人の生活に家政学の研究がどのようにに関わり、貢献しているかを探究するとともに、人間生活学としての本学家政学の内容を理解します。更に、「多様化」・「ワーク・ライフ・バランス」・「持続可能」などのキーワードをもとにこれからの生活を展望します。 最終授業で全体に対するフィードバックをし授業内容の定着をはかります。		
授業の到達目標	生活とは何かを探究し、生活学の目的、対象、方法、意義について認識できること。 単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。		
履修条件	大学院（修士課程）	成績の 評価方法・基準	受講態度と発言力（20％）、レポート（80％）
テキスト	随時、資料を配布または提示します。		
参考書	川添登著『生活学の提唱』ドメス出版、日本家政学会編『日本人の生活』建帛社、今和次郎『今和次郎集第5巻生活学』ドメス出版、佐藤真弓『生活と家族』一藝社 その他随時、紹介します。		
学生への要望	事前に資料や参考文献などに目を通しておくことが望ましい。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム	月曜日13:00～16:30 金曜日13:00～16:00 場所は、創学館4F No.1研究室		
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 生活とはー生活を考える	「生活」のとらえ方 生活とは何かー衣生活・食生活・住生活において、人間生活について、機能的役割・人間関係・意義・変化という観点から考察していく。”生活”の解明には、総合的・学際的アプローチを要求される。	講義資料について復習する。配布資料をもとに考える。＊様々な生活論	60
2	生活学とは さまざまな生活の要素	・経済学の観点からの労働を、休養・娯楽・教養の諸領域からの観点から捉え直し、総体として扱う生活学、生活の質の分析までも含めた生活研究であることを確認する。 ・時間・空間・人間・衣・食・住・お金などの生活要素と家族の関わりについて追究する。	講義資料について予習・復習する。配布資料を読みまとめる。	60
3	生活学の対象と方法	生活学は何を問題とし、どのようなアプローチによってそれを分析していくのか。 ・対象は、日常生活であり、身近なもの、具体的なものであること、生活者サイドの学問であり、その研究は複数の個別科学の協力のもとに、総合的な視点からのアプローチによって進められるものであることを確認する。	講義資料について予習・復習する。配布資料などをもとに対象と方法を確認する。	60
4	家政学と生活学（1）	川添登氏の『生活学の提唱』における「家政学と生活学」から、隣接科学である家政学の検討と批判を通した生活学のあり方についての考えを検討する。家政学を女性の学・生活者の学・民間の学とする考えを検討する。	講義資料について予習・復習する。『生活学の提唱』 p.233~p.245	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	家政学と生活学（2）	ひき続き、川添登氏の『生活学の提唱』における「家政学と生活学」について読み進め、生活学のあり方についての考えを検討する。	講義資料について予習・復習する。『生活学の提唱』 p.233~p.245 家政学と生活学についてまとめる。	90
6	生活学の系譜① 考現学（1）	今和次郎の「生活学」ともいえる「考現学」について、出生、動機と背景、考現学以前、方法の学、野外科学などから理解する。 *生活改善 民家研究	講義資料について予習・復習する。『生活学の提唱』 p.133~p.148	60
7	生活学の系譜② 考現学（2）	ひき続き、考現学について理解を深める。	講義資料について予習・復習する。『生活学の提唱』 p.133~p.148 考現学についてまとめる。	90
8	生活学の系譜③ 生活学の提唱—今和次郎の現代的意義（1）	生活学の出自、考現学から生活学へ、生活学の可能性、生活学の方性、国民学としての生活学、について理解する。	講義資料について予習・復習する。『生活学の提唱』 p.187~p.215 *『生活学』 p.11~p.108	60
9	生活学の系譜④ 生活学の提唱—今和次郎の現代的意義（2）	引き続き、生活学の可能性、方向性などについて、理解を深める。	講義資料について予習・復習する。『生活学の提唱』 p.187~p.215 *『生活学』 p.11~p.108 今和次郎の生活学についてまとめる。	90
10	生活の変容① 日本人の生活（1）	・変容する家族、消費生活様式の変遷（家族観・家族・教育・ジェンダー・衣食住生活・戦後日本の都市化と近代化・消費経済 など。）	講義資料について予習・復習する。『日本人の生活』第1章・第2章を参考に考察する。	60
11	生活の変容② 日本人の生活（2）	・生活文化の伝承と創造、日本型高齢化社会における生活・多様化する生活、ワーク・ライフ・バランス など。	講義資料について予習・復習する。『日本人の生活』第3章・第4章と配布資料を参考に考察する。	60
12	生活の変容③ 日本人の生活（3）	・情報社会と家庭生活、生活の危機管理（震災に学ぶ） ・資源・環境とライフスタイル、持続可能な生活 など。	講義資料について予習・復習する。『日本人の生活』第5章～第7章を参考に考察する。	60
13	シビル・ミニマム	都市化社会において、市民が生活していくうえで最低限必要な生活（環境）基準であるシビル・ミニマムについて、具体的には生活の社会化に伴って必要とされる社会保障・社会資本・社会保健について理解する。*ナショナルミニマム	講義資料について予習・復習する。シビル・ミニマムとは何か事前に調べてみる。	60
14	生活の外部化と危機 人間生活学としての家政学 生活学の立場	生活の外部化の問題、利便性・効率性に振り回される生活スタイルについての危機、持続可能な社会において質の高い生活の実現に貢献する人間生活の学としての家政学の重要性を理解する。人間を中核とし、その居場所を家庭とみる本学の家政学が、その対象を家を中心とし、地域社会、国、世界に及ぶ人間生活学であることを理解する。 *立場—生活のなかで人間を見て、人間を通して生活を見つめ、人間にとっての生活（生きることの）意味を探究すること。	講義資料について予習・復習する。生活の外部化や持続可能とはどのようなことか考える。また、『日本人の生活』などを参考にして、生活学の立場、人間生活の学としての家政学を考えまとめる。	90
15	新しい生活様式の創造 生活の未来	学として生活を見ることは、身近な生活から、諸事象を分析・整理し、探究してきた歴史を踏まえて、いかに変化してきたかだけではなく、生活者として今後いかに生活していくかということを模索することであり、家政学に携わる者として人間生活の幸福に寄与する探究であることを理解する。	講義資料について予習・復習する。『日本人の生活』第8章「新しい生活様式の創造」を参考にして、生活学のこれからを考える。	60

授業名	生活文化史特論Ⅰ		配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員名	◎福島 寅太郎			
開講期				
授業の概要	生活とは「衣食住」という言い方に示されるように同じことがくりかえされ、同じものが再生産され、同じように利用され大きく変化しないことである。つまり日常茶飯事というごくあたりまえの暮らしのことである。授業では「冠婚葬祭」という日本人の一生の節目、節目にくりかえされてきた人生儀礼をとりあげながら、その意味を考え、そこから日本人の生き方の価値観を探ることとする。			
授業の到達目標	日本人の一生の節目にくりかえし行なわれてきた人生儀礼・冠婚葬祭を学ぶことによって日本人の生きることの意味を知ることができる。殊に人生儀礼は宗教的要素がとりいれられているため聖俗とともに生きてきた日本人の特質をすることができる。 単位認定の最低基準は:は「内容の7割以上を理解していること」 DPとの関係:研究能力、研究課題			
履修条件	大学院修士課程1年		成績の 評価方法・基準	レポートを前期に一本、後期に一本提出してもらいます。各50点で100点で評価する。
テキスト	使用しない。発表の資料をあらかじめ渡しておく。			
参考書	必要に応じ紹介。			
学生への要望	問題意識を常に持ち、身の回りの暮らしに絶えず関心を持ってください。殊に人生儀礼に注意をはらうようにしてください。発表の資料をあらかじめ渡しておきますので、よく予習しておいてください(1時間ぐらい時間をかけて)。また授業をふまえて、その内容をまとめておくこと(1時間)。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	老いの民俗1	長寿の民俗をとりあげます。沖縄のカジマヤーの祝い（97歳の祝い）を見ることにします。そこでは長寿を祝うと同時に97歳の年寄りを死の世界に送りこむことが行われます。それ単なる死ではなく再生を意味し、長寿が人を超えることをあらわします。		1.5
2	老いの民俗2	88歳、つまり米寿の祝いをとりあげます。さここには米にかかわる数の呪力、そして仏教のミロク信仰をみることができます。稲作民である日本人の米と年齢の関係を考えます。		1.5
3	老いの民俗3	還暦、古希、喜寿、米寿などの長寿の祝いは歳祝いであり、厄を払う意味もあります、またこれらの歳祝いには必ず贈答が行われますが、それは長寿のあやかる、長寿の霊をもらうという意味もあります。		1.5
4	老い民俗4	長寿者の葬式の際に配られる長寿銭、民話の中にみられる若水を飲んで若返る年寄りの話など長寿者の死を積極的に扱い、老いからの若返りに積極的意味を見出すことの背景を考えます。		1.5
5	誕生の民俗1	この世に誕生したばかりの赤ん坊は靈的にあの世につながっていました。誕生後の産育儀礼は赤ん坊をこの世の存在にするために行われます。しかも、その儀礼は意図的に境界で行われます。		1.5
6	誕生の民俗2	赤ん坊をこの世にもたらした産神はどのような神なのでしょう。殊に出産のケガレを嫌わない産神の特徴は神社に祀られる氏神や家の神とは全く異なるものです。		1.5
7	誕生の民俗3	出産の直後に供えられる産飯は赤ん坊に魂を付着するために行われます。あの世の存在である赤ん坊が人間として認められるには身体の成長と同時に魂も必要であったのです。		1.5

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	誕生の民俗 4	出産のための産小屋は出産のケガレを避けるために作られたといわれてきました。しかし、そこには新しい生命の誕生にともなう神秘性や産婦へのやさしい心遣いもみられます。		1.5
9	育児の民俗 1	産祝い、セツチン参り、宮参り、食い初め、初節句、初誕生などの儀礼から子どもがどのようにして社会に受け入れられていくかを考えます。殊に魂の強化と贈答関係に注目します。		1.5
10	育児の民俗 2	七五三、七つ子参りなど七歳の頃に多様な儀礼が行われます。それは七歳の頃が子どもから大人への第一段階とみなされていたからです。七歳の社会的意味と宗教的意味を考えます。		1.5
11	成人の民俗 1	成人儀礼の歴史を古代の天皇、貴族、中世と近世の武家儀礼から概観するとともに、それらの儀礼が庶民の成人儀礼にどのような影響をあたえたかを考えます。		1.5
12	成人の民俗 2	成人儀礼の中に袴着やフンドシ祝い、腰巻祝いなど身体にあらたに着物や飾りをつけることがあります。これは身体装飾の成人儀礼であり、性差を明確にする意味がありました。		1.5
13	成人の民俗 3	お歯黒（カネツケ）も身体装飾の成人儀礼です、十五カネは15歳の時に歯を黒く染めることです。お歯黒は女性のみに行われ、結婚式よりも派手に行われました。		1.5
14	成人の民俗 4	13歳の時に虚空菩薩に参る十三参りは13歳が厄であることと仏教が習合して生まれた成人儀礼です。しかも、子どもにとって初めての旅の経験でもありました。子どもは初めて世間を知るのです。		1.5
15	成人民俗 5	一人前とは大人として決められた労働量や仕事量ことであり、これをこなすことが社会で大人として認められることでした。機械化以前の社会では労働を交換して共同労働をしなければ社会は維持できなかったのです。		1.5
16	結婚の民俗 1	ヨバイは前婚約的自由交渉といい若者組や娘組の存在があって初めて可能でありました。また自由恋愛も若者組や娘組の存在が必要でした。若者組と娘組が結婚を媒介する上で大切な役割を果たしていたのです。		1.5
17	結婚の民俗 2	日本における古い結婚形態は婿入り婚でした。婿が嫁方に来ることによって結婚が成立し、それからしばらくの間、婿は妻訪いをし、それから嫁の婿方への引き移りが行われるのです。一時的な妻訪いであり、母系制とは関係ありません。		1.5
18	結婚の民俗 3	婿入り婚の後に生まれたのが嫁入り婚であり、式と同時に嫁は婿方に引き移ります。これは婿入り婚のように妻訪いができなくなったために生まれた結婚形態と考えられます。しかし、文化の系統の違いからの説明が可能かもしれません。		1.5
19	結婚の民俗 4	嫁入りの際、火を燃やしたり、火をまたぐ儀礼がみられます。それは境界を越える花嫁の危機的状況を象徴的にクリアする意味があるのではないかと考えられています。また歴史的に遡ると渡来系の人々や武士の世界でうまれたとも考えられています。		1.5

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	結婚の民俗 5	三々九度の盃、披露、実家帰り、水祝儀などの儀礼から嫁と嫁の実家との関係、婿と未婚の若者との関係を考えると同時に新夫婦がどのようにして社会的承認を得ていくのかを考えます。		1.5
21	死の民俗 1	死の直後、死者の名を呼ぶ魂呼びが行われました。これは死によって身体を離れた魂を呼び戻し再生を願う意味があります。つまり死と生の区別は魂の動きと密接に関係していたのです。		1.5
22	死の民俗 2	死者の傍らに寄り添い、飲み食いをしたり、死者を何日間も見に行ったりすることは、古代に見られたモガリの風習の名残りとみなされています。つまり、死者の再生を願った儀礼なのです。死の決定の意味を考えます。		1.5
23	死の民俗 3	北枕、刃物を死体の上に置くこと、猫が死体をまたがないようにすることなどには死者への恐怖と別の魂が死体に入ることへの不安がみられます。生から死への移行は大変な危機の状況であるという考えがみられます。		1.5
24	死の民俗 4	仮死状態での体験を臨死体験といいます。その背景には死後の魂の移動が考えられます。しかも、臨死体験には川が流れていたり、花が咲いていたり、先祖がいたりと他界のイメージが色濃く見られますが、注目したいのはそれが生者に語られることです。		1.5
25	死の民俗 5	死のケガレは伝染すると考えられ、それに対処するためにいろいろな呪術や儀礼が行われました。耳ふたぎ餅やひっぱり餅などはその具体例ですが、このような対処の民俗から死のケガレの本質を考えてみます。		1.5
26	死の民俗 6	葬式は組合や講などの地域の互助組織によって行われました。この互助組織は葬家を助ける経済的意味がありましたが、同時に死への対処という呪術的意味や死の社会的確認などの意味もありました。		1.5
27	死の民俗 7	死後の死者供養は魂に対して行われます。四十九日、彼岸、盆、正月などに行われる死者供養などを経ることによって死者の魂は清浄となり、個性を失っていくのです。		1.5
28	先祖祭祀 1	日本の先祖は個人名ではなく「先祖さん」とわれるように漠然としたものでした。そこには父系、母系という系譜を明確にするという理念的な先祖祭祀をみることができません。		1.5
29	先祖祭祀 2	現在、仏壇が先祖祭祀の重要な場になっていますが、かつては仏壇以外にも家の中には先祖を祀る臨時の場がありました。しかも、仏壇はかつて家の外の仏堂であったともいわれています。		1.5
30	脳死	臓器の移植にともない脳死があらたに死と認められるようになりました。法律による死の決定です。それは言い換えれば新しい社会的死の決定であります。かつての社会的死がオープンであったことと比較してみます。		1.5

授業名	生活文化史特論Ⅱ		配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員名	◎桑野 聡			
開講期				
授業の概要	大学院生として各自の専門研究領域を客観的に位置づけられる視野を持つために、歴史学・文化史の立場から現代的・社会的問題の所在を考える。ヨーロッパ文化（欧米文化）を例に院生各自の研究に対応した課題を取り上げながら、文化の形成・変容・継承の問題を考える。近代文明が多数の地域文化の融合の上にヨーロッパ文化を共通要素として形成されていることに着目し、その問題点を考えると共に、私たちの未来に関わる諸問題を検討する機会を作りたい。 講読時の討論や課題に対してコメントや修正点の提示を行うことでフィードバックする。			
授業の到達目標	問題を見つける姿勢・討論する力・調べる方法と技術などを身につける。			
履修条件	本学大学院生	成績の 評価方法・基準	授業時の討論（５０％）と小課題（５０％）	
テキスト	桑野聡「欧米諸国における生活と文化」（関口富左編著『人間守護の家政学』家政教育社 1999年）264～276頁			
参考書	O.ブルンナー／平城照介ほか訳「『全き家』と旧ヨーロッパの『家政学』」（『ヨーロッパ―その歴史と精神』岩波書店 1974年）151～189頁 飯塚信雄『男の家政学－なぜ〈女の家政〉になったか』朝日選書 1986年			
学生への要望	①自分自身の研究テーマをきちんと説明できる姿勢をもつこと。 ②新聞やニュースを見る日常生活の姿勢をもつこと。 ③議論に積極的に参加する主体性をもつこと。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム	火曜Ⅴ時限目。			
アクティブラーニング実施内容	授業内に討論を多く盛り込み、意見交換を行います。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	参加院生の研究テーマを確認し、授業の進め方を検討する。	異文化理解のための議論を展開するためのウォーミングアップをする。	60
2	講読1－①	村田哲朗「文化の多様性」をテキストに、文化と文明について討論する。	日本人が考える「文化」「文明」の考え方を理解する。	60
3	講読1－②	村田哲朗「文化の多様性」を踏まえて、各自の研究との関連テーマで討論を実施する。	文化の多様性とは、価値観の多様化を意味することを理解する。	60
4	講読2－①	桑野聡「欧米諸国における生活と文化」をテキストに通読し、問題点の洗い出しを行う。	日本人として西洋文化・文明に対する自分の考えを整理する。	60
5	講読2－②	第1章「欧米文化の歴史的役割」を手掛かりに、日本人にとってのヨーロッパについて考える。	近代化の歴史と西洋文化・文明の不可分な関係を理解し、歴史を見る立ち位置を考える。	60
6	講読2－③	第2章「中世ヨーロッパ貴族の生活文化」を手掛かりに、中世ヨーロッパの貴族の誕生について考える。	高校世界史の基礎知識を確認しておく。	60
7	講読2－④	中世の理想像である「騎士」と騎士道について考える。	イメージとしての騎士と中世の実像を区別し、理解する。	60
8	講読2－⑤	貴族の彫像、とりわけ横臥像を例に、中世貴族の死生観や家門意識について考える。	ヨーロッパ観光で訪れることの多い教会の重要な構成要素として貴族の彫像を考える。	60
9	講読2－⑥	西洋料理が成立する以前の中世の食事について考える。	大航海時代以前の中世ヨーロッパの食文化をイメージしてみる。	60
10	講読2－⑦	「宮廷風恋愛」として知られる中世の恋愛について考える。	レディ・ファーストとされる西洋文化の異なる側面と構造的特徴を理解する。	60
11	講読2－⑧	第3章「近世ヨーロッパ貴族の生活文化」を手掛かりに、ヨーロッパの文明化の問題を考える。	中世後期から近代化という概念が意味する文化の変容を理解する。	60
12	講読2－⑨	啓蒙主義と近世の貴族の問題を考える。	人間が平等であるという考え方は何故成り立つのかを考えてみる。	0
13	講読2－⑩	近世の「家政学」について考える。	現在の家政学とは異なる前近代ヨーロッパにおける家政学の概念を理解する。	60
14	講読2－⑪	第4章「国際化と異文化理解のための視点」を手掛かりに、近代における異文化理解について考える。	文化融合と文明化の意味を考え、この理解が時として差別や対立を生んできたことを理解する。	60
15	まとめ	半期の講義をまとめ、各自の研究テーマとの関係から異文化理解について検討する。	自分の研究テーマの社会的価値や他者から見た時の問題を話し合う。	60

授業名	生活経済学特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎長谷川 貴弘			
開講期	後期			
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 本講座の目的は、経済学においてより生活と密接につながっている分野について学修し、学究能力を深めることである。 〔授業全体の内容の概要〕 具体的には、経済学の基礎的事項（インフレーションとデフレーション、GNPとGDP等）、一家庭の経済生活である「家計」の歴史、家計経済の最近の傾向・今後の動き、さらにはライフサイクルの変化と各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債等について採り上げる。 なお、内閣府での勤務経験を活かし、講義の中で統計資料の見方、活用の仕方について採り上げ、家計調査を中心とする統計資料を読み解く能力を高め、気づきの点をレポートにまとめる能力を養うことを目標とする。 〔課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法〕 講義時にコメントにてフィードバックを行う。			
授業の到達目標	〔達成目標（授業終了時の達成課題）〕 経済学が生活と密接した学問であることを理解した上で、経済データを読み取る能力と気づきの点についてレポートにまとめる能力を身に付けていること。 〔単位認定の最低基準〕 授業内容の7割程度を理解していること。			
履修条件	特になし。	成績の 評価方法・基準	各回の課題30点、レポート70点で評価する。	
テキスト	教員が毎回資料・プリントを配付する。			
参考書	重川純子「生活経済学」放送大学教育振興会、2016年 他教員が紹介する。			
学生への要望	授業内容をよく把握し、積極的に発言すること。毎回の課題にしっかり取り組むこと。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム	月曜日 4コマ目 木曜日 4コマ目 食品経営学研究室			
アクティブラーニング実施内容	全授業回において、受講生に質問し、その回答に対してコメントを行う。また、いくつかのテーマについてディスカッションも行う。			
実務家教員の経歴	内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	生活経済学とは何か①	授業の進め方、評価方法について説明する。 古代から現代までの生活経済を概観し、生活経済学の位置付けについて学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
2	生活経済学とは何か②	日本における戦後の経済生活とその変化について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
3	生活経済学とは何か③	国内総生産（GDP）と国民総生産（GNP）が意味するもの、その違いについて学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
4	生活経済学とは何か④	インフレーションとデフレーション、経済体制（市場経済と計画経済）について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
5	家計研究史①	世界と日本の家計研究史について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
6	家計研究史②	世界と日本の家計研究史について学修する。（前回の続き）	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
7	家計をめぐる法則①	エンゲル係数と、エンゲルの法則をめぐる議論について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
8	家計をめぐる法則②	ぜいたく品と必需品の違い、消費者物価指数について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
9	ライフサイクルと経済①	ライフサイクルの概念及びその歴史的変化について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
10	ライフサイクルと経済②	ライフサイクルの中のライフステージの各段階における経済状況の変化及びそれにかかる費用について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
11	ライフサイクルと経済③	家計の収入・支出の種類について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	ライフサイクルと家計①	単身世帯と2人以上の世帯の家計	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
13	ライフサイクルと家計②	離婚の経済とひとり親世帯の家計について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
14	ライフサイクルと家計③	高齢者世帯の家計について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
15	授業内容のまとめ	これまでの学修内容を振り返り、疑問に思った点等についてディスカッションを行う。	ディスカッションを通じて明らかとなった課題に対処し、レポートをまとめること。	60

授業名	教育政策科学特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎山本 裕詞			
開講期				
授業の概要	本講義では、戦後日本の教育政策の変遷を確認しながら、それが人々の生活に与えた影響を分析する。特に、近年の教育政策の急激な変化に注目する際には、家庭や地域の教育機能も含めて、次世代の育ちを支援するための、あるべき教育政策となっているかを批判的に考察していく。 また、最終の授業において、授業全体のフィードバックを行う。			
授業の到達目標	1.戦後日本の教育政策史を知り、政策の意図を理解し、説明することができる。 2.戦後日本の教育政策について、自ら課題を設定し、課題解決の為に資料を入手することができる。 3.自ら設定した課題について、先行研究を探し、それを批評することができる。 4.近年の教育政策について、論理実証的に評価し、説明することができる。 単位認定の最低基準は、上記1～4の目標が、総合的に7割以上達成できたと見込めることとする。			
履修条件	教育政策について、主体的に探究する意欲を持ち、自律的に学習する方法を会得したいと強く願っている者。	成績の 評価方法・基準	授業の中で義務付ける課題研究の発表内容を中心（70％）に、課題レポート（30％）と総合して評価する。	
テキスト	用いない。			
参考書	教育法令研究会編『教育基本法の解説』文部省1947年、五十嵐頭・伊ヶ崎暁生編著『戦後教育の歴史』青木書店1970年、堀尾輝久著『現代教育の思想と構造』岩波書店1971年、山本冬彦編著『教育の戦後思想-その批判と継承-』農山漁村文化協会1995年、井深雄二著『現代日本の教育改革-教育の私事化と公共性の再建-』自治体研究社2000年等、必要に応じて授業内に提示する。			
学生への要望	講義と演習とを組み合わせた授業形式となるので、自主的な学習姿勢を持つことが授業履修の前提となる。課題認識に基づいて、その分析対象の選定を自ら行い、分析し、発表する。そして、発表結果の講評に基づく課題意識の深まりが、次の授業までの探求内容となっていくような、学びの循環をつくっていききたいと思う。したがって、どこまでも学生自身の主体的な学びの姿勢を貫いてほしい。			
位置付け・水準	修士課程選択科目			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、問題解決力、倫理観・社会的責任			
オフィスタイム	月曜日の1時間目及び2時間目。教職課程推進室 1（図書館3階）			
アクティブラーニング実施内容	各回の受講生の発表について、その都度、その方法、内容等についてディスカッションを行うアクティブラーニングの手法をとる。そして、ディスカッションの結果を受けて、授業内容を見直すことがある。			
実務家教員の経歴	授業担当者には、中等教育（神奈川県立新羽高等学校、白根開善学校）や発達障害児教育（フリースクール飛翔）での教員経験がある。履修者には文献講読が課されるが、発表の際のディスカッションにおいては、授業担当者の教職実践者としての経験を踏まえた考察も加えられる。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	シラバスを共有しながら、本講義の目的、授業の進め方、学習者が事前学習として学習しておくべき資料・先行研究の探索・入手方法、成績評価方法等について確認する。	復習 事前調査	120
2	教育勅語と教育基本法	我が国における戦前の教育体制から戦後のそれへの変遷について、「教育勅語と教育基本法」の比較を通じて理解を深める。 学習者は、事前に「教育勅語」と「旧教育基本法」についての基礎的知識を整理し、授業の冒頭で発表する。発表内容を確認した上で、不足部分を補いながら、その歴史的意義について考察を深め、今日に継続している論争点を紹介する。	復習 事前調査	120
3	政治的中立と国家の教育責任 1. 教育委員会①	教育委員会制度の変遷についての事実を確認することを通して、「教育における政治的中立性」と「国家の教育責任」の内実が変質していることを理解し、その意義を考察していく。学習者は、事前に旧「教育委員会法」について調べ、現行の教育委員会制度との違いをまとめ、授業の冒頭で発表する。授業者は学習者の発表内容を確認した上で、必要に応じて解説し、情報を補いながら、今日に継続している論争を紹介する。	復習 事前調査	120
4	政治的中立と国家の教育責任 2. 教育委員会②	前回の授業で紹介された教育委員会制度に関する諸論争について、学習者は自己の見解をまとめて発表する。授業者は学習者の理解度に応じて、検討すべき課題を指摘するので、それを踏まえて学習者は、課題解決に向けての課題研究計画の作成を開始する。	復習 事前調査	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	政治的中立と国家の教育責任 2. 教育委員会③	学習者は、前回の授業から作成を開始した課題研究計画の発表を行うとともに、研究の進捗状況を報告する。授業者は、必要に応じてアドバイスをを行い、特に授業者の作成した先行研究一覧の妥当性を評価し、改善点を指摘する。	復習 事前調査	120
6	政治的中立と国家の教育責任 3. 教育公務員特例法①	教育公務員特例法成立過程における「政治的中立と国家の教育責任」について、研究計画のモデルを示し、研究構想を発表する。学習者は、それと進行中の自己の課題研究との比較をした結果を自己評価し、必要に応じて改善・修正を行う。	復習 事前調査	120
7	政治的中立と国家の教育責任 3. 教育公務員特例法②	モデルとして作成された研究計画モデルに基づいて、授業者が研究発表のデモンストレーションを行う。学習者は、自身の研究についての進捗状況の報告と、必要に応じて課題を発表する。	復習 事前調査	120
8	政治的中立と国家の教育責任 4. まとめと討論	学習者は研究計画に基づいて進めてきた自己の研究発表を行う。授業者は講評を行う。また、「教育における政治的中立と国家の教育責任」について、明確になった点を整理する。	復習 事前調査	120
9	新旧教育基本法における「教育行政」の比較	学習者は事前に平成18年以降の教育行政の参考書数点における「教育行政」の記述を収集し、比較分析して授業に望む。授業者によって解説される新法立法過程の議論を踏まえ、比較分析結果について総括する。	復習 事前調査	120
10	戦後日本の教育政策の変遷と 国民への影響 ①	授業者は戦後の政治的動向一般の変遷とオーバーラップさせながら、第9回までの学びを総括し、学習者は、次の3点について仮説を考察する。 1. 旧教育基本法の成立が国民に与えた影響 2. 旧教育委員会法が廃止され地方教育行政の組織及び運営に関する法律が成立したことの国民への影響 3. 教育基本法が全部改正されたこと	復習 事前調査	120
11	戦後の教育政策が国民に与えた と思われる影響①	学習者は「旧教育基本法の成立が国民に与えた影響」について、第10回に立てた仮説の検証結果を発表する。授業者は発表内容を講評し、必要に応じて修正・補足を行う。	復習 事前調査	120
12	戦後の教育政策が国民に与えた と思われる影響②	学習者は「旧教育委員会法が廃止され地方教育行政の組織及び運営に関する法律が成立したことの国民への影響」について、第10回に立てた仮説の検証結果を発表する。授業者は発表内容を講評し、必要に応じて修正・補足を行う。	復習 事前調査	120
13	戦後の教育政策が国民に与えた と思われる影響③	学習者は「教育基本法が全部改正されたこと」について、第10回に立てた仮説の検証結果を発表する。授業者は発表内容を講評し、必要に応じて修正・補足を行う。	復習 事前調査	120
14	戦後の教育政策が国民に与えた と思われる影響④	授業者によって「戦後の教育政策が国民に与えたと思われる影響①～③」を総括する。	復習 事前調査	120
15	総まとめ	授業の総まとめと、近年の教育政策における原理上の課題を指摘する。	復習 レポート作成	360

授業名	社会福祉学特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎村田 清			
開講期				
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、ジェントルティーチングなどの社会福祉の理論を学び、社会福祉の法制度がどのように整備・改正されてきたのかを踏まえて、社会福祉の現状と課題について理解する。さらに、児童家庭福祉。高齢者福祉、障害者福祉、地域福祉などの各領域について、実践に基づいた考察・研究を深める			
	〔授業全体の内容の概要〕 資料に基づいて講義をし、文献、映像、写真などを参考に理解を深め、質疑や討論を行って社会福祉の全体像を把握する。			
	〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 社会福祉の理論を理解し、福祉援助者として必要な基礎的知識・技術や倫理性を習得する。			
授業の到達目標	〔授業の目的・ねらい〕 ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、ジェントルティーチングなどの社会福祉の理論を学び、社会福祉の法制度がどのように整備・改正されてきたのかを踏まえて、社会福祉の現状と課題について理解する。さらに、児童家庭福祉。高齢者福祉、障害者福祉、地域福祉などの各領域について、実践に基づいた考察・研究を深める			
	〔授業全体の内容の概要〕 資料に基づいて講義をし、文献、映像、写真などを参考に理解を深め、質疑や討論を行って社会福祉の全体像を把握する。			
	〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 社会福祉の理論を理解し、福祉援助者として必要な基礎的知識・技術や倫理性を習得する。			
履修条件	大学院生	成績の 評価方法・基準	レポート(50)、授業態度や研究意欲等（50）により総合的に評価する。	
テキスト	特に指定しない			
参考書	国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会発行）			
学生への要望	社会福祉の理念や意義を理解し、地域社会での人々の支えあいの在り方を学んでほしい。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション、社会福祉とは何か	オリエンテーション、社会福祉の基礎概念と現代社会について学習する。		0
2	社会福祉の歴史と変遷	社会福祉の歴史とその移り変わりについて、我が国と諸外国のあらましを学習する		0
3	社会福祉をめぐる近年の動向	高齢化・少子化の進展と時代の変化に対応した法律や制度の改正について学習する。		0
4	社会福祉基礎構造改革とノーマライゼーション	ノーマライゼーションやリハビリテーション理念の浸透や現代社会に影響を与えている社会福祉理論について学習する。		0
5	子ども家庭福祉の現状と課題	次世代育成や子育て支援・少子化対策など子供家庭福祉の現状と課題について学習する。		0
6	高齢者福祉の現状と課題	介護保険やさまざまな高齢者福祉サービスについて理解を深める。		0
7	障害者福祉の現状と課題	障害児者の福祉について、我が国の障害者施策や、ソーシャルインクルージョンの考え方を理解し、今後の障害者福祉を展望する。		0

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	地域福祉の現状と課題	地域の住民福祉の現状や社会福祉協議会の活動を学び、日常生活支援事業など地域の新しい支え合いについて学習する。		0
9	社会福祉サービス利用者の権利擁護	社会的に弱い立場にある人の人権を守る制度や思想について、また非暴力の支援理論であるジェントルティーチングを学習する。		0
10	社会福祉の行政組織と関係機関	社会福祉を担う行政組織や関係機関の役割や業務の内容について学習する。		0
11	社会福祉サービスの担い手	社会福祉サービスを担う専門職や従事者の現状と業務の内容について学習する。		0
12	社会福祉援助技術と援助の原則	社会福祉サービスを実施する理論や方法と基本的な原則について学習する。		0
13	社会福祉施設等の社会資源	社会福祉サービスを実際に行う施設や地域の社会資源、ネットワークについて学習する		0
14	社会福祉専門職の倫理と行動規範	社会福祉専門職の諸団体における倫理綱領等を通して求められる援助者の態度や理念について学ぶ。		0
15	まとめ	社会福祉の理念や制度についてまとめを行い、人間の地域生活や支えあうコミュニティのあり方を考える。		0

授業名	児童福祉特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎宇治 和子			
開講期				
授業の概要	戦後、戦災孤児などの問題を解決するためにスタートした児童福祉に関する社会的支援は、時代の移り変わりとともに求められるものが変化し、今やその内容は複雑かつ多岐にわたっています（児童虐待や少子化対策など）。この授業では、児童福祉の歴史的な流れをおさえながら、その時々で求められたものを検討しつつ、整えられた制度や機能、体制、実施状況などを理解していきます。そして今後、子どもたちにどのような支援が必要かを考えていきます。 各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます。			
授業の到達目標	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・児童福祉の歴史的変遷、現在の制度や機能、体制、実施状況、今後の課題などについて理解できる ・児童福祉領域で起こる諸問題を自分なりの視点で分析できる			
履修条件		成績の 評価方法・基準	積極的な授業参加（30％）と、授業内課題やレポートの提出（70％）により評価します。	
テキスト	教科書は使わず、資料を配布します。			
参考書	授業の中で、随時紹介します。			
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム	授業の前後に質問を受け付けます（研究室836）。			
アクティブラーニング実施内容	ディスカッション・プレゼンテーションなど			
実務家教員の経歴	この授業は、子ども家庭福祉の現場で臨床心理士・公認心理師として実務経験のある教員が担当します。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	児童福祉とは	・この授業についてのオリエンテーションを行う ・児童福祉について概説する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
2	児童福祉の歴史	・孤児の問題について説明する ・孤児の育ちをどのように保障するかについてディスカッションを行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
3	児童福祉法について	・子どもへの支援の変化、展開について説明する ・児童福祉法に基づく施設等について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
4	子どもの権利条約について	・子どもの人権、権利保障の重要性について、国内外の実例をあげながら説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
5	子ども虐待について 1	・虐待の発見の歴史について説明する ・児童虐待防止法（制定当初の様子）について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
6	子ども虐待について 2	・児童相談所の機能や役割について説明する ・家庭裁判所と親権の問題について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
7	子ども虐待について 3	・虐待された子どもの傷つきを臨床心理学的に説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
8	子ども虐待について 4	・児童虐待の実例を基に、この問題についてディスカッションを行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
9	ドメスティック・バイオレンスについて	・DVの発見の歴史について説明する ・DV防止法とその支援について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
10	母子保健について	・母子保健法、乳幼児健康診査、子育て支援新制度と保育サービスについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
11	子育て支援について 1	・現代社会と少子化対策について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
12	子育て支援について 2	・多様化する家族（貧困・ひとり親・ステップファミリーなど）への支援について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
13	子育て支援について 3	・多様化する家族（障害・難病など）への支援について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
14	子どもへの支援 1	・非行問題、児童自立支援施設の役割について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
15	子どもへの支援 2	・若者の性をめぐる問題について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60

授業名	障害者福祉特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員名	◎未定		
開講期			
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 障害者福祉制度は大きく変わりつつあります。ノーマライゼーションなどの理念に基づいた変化の内容と、障害者総合福祉法など新しい制度やシステムを学び、一人ひとりをかけがえのない存在として尊重し、生活を支える障害者の支援の実施を理解します。ジェントルティーチングやティーチプログラムといった援助理論についても研究を深めます。 〔授業全体の内容の概要〕 講義資料に基づいて研究します。関連文献や映像に触れて理解を深め、障害者福祉の現状や課題についてともに考察します。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 障害者の生活実態を理解し、ともに生きる社会の実現についての考え方をまとめます。		
授業の到達目標	〔授業の目的・ねらい〕 障害者福祉制度は大きく変わりつつあります。ノーマライゼーションなどの理念に基づいた変化の内容と、障害者総合福祉法など新しい制度やシステムを学び、一人ひとりをかけがえのない存在として尊重し、生活を支える障害者の支援の実施を理解します。ジェントルティーチングやティーチプログラムといった援助理論についても研究を深めます。 〔授業全体の内容の概要〕 講義資料に基づいて研究します。関連文献や映像に触れて理解を深め、障害者福祉の現状や課題についてともに考察します。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 障害者の生活実態を理解し、ともに生きる社会の実現についての考え方をまとめます。		
履修条件	大学院 1年生	成績の 評価方法・基準	学習態度・意欲（５０）、レポート（５０）など総合的に評価します。
テキスト	特に使用しない		
参考書	国民の福祉と介護の動向		
学生への要望	意欲ある学習態度をもって、ノートをとり、問題意識をもって研究を深める。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション、障害者福祉の視点	授業についてオリエンテーション。 現代社会と障がい者、障がい者親や障がい者と家族及び地域社会など、障がい者福祉の視点について学ぶ。		0
2	障害者福祉の歴史と新たな展開	諸外国や我が国の障がい者福祉のあゆみと、障がい者福祉の新たな展開について学習する。		0
3	障害者福祉の基本的理念	現代における障がい者福祉の基本理念について、ノーマライゼーション、リハビリテーション、ソーシャルインクルージョンなどさまざまな理論を通して学習する。		0
4	障害者福祉における支援の実践	障がい者支援の実践について、ソーシャルワークのさまざまなアプローチやエンパワーメントの視点、ジェントルティーチングに基づく実践について学習する。		0
5	障害の概念と定義	障がいの概念や定義、社会における障がい者の理解や受け止め方について、法律的な定義や国際的な障がい分類を通して学習する。		0
6	障害者の生活ニーズや支援の視点	障がい者の様々な特性や生活ニーズを理解し、社会福祉の援助方法や理論、援助活動の実践について、学習する。		0

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	障害者福祉に関する法体系及び障害者施策	我が国の障がい者福祉の法体系やさまざまな障がい者施策及び実施期間について学習する。		0
8	障害者福祉のサービス体系	障がい者自立支援法の制定から障がい者総合支援法への改正など法体系の変遷と福祉サービスの内容について学習する。		0
9	障害者の生活保障	障がい者の生活を支える経済的な支援制度や雇用や教育の課題について学習する。		0
10	障害者福祉にかかわる専門職	社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士等の専門職のソーシャルワークやケアワークの等の業務について学び、障害者支援に係る専門職の役割や実際について理解を深める。		0
11	障害者ケアマネジメントとケアプラン	さまざまな障がい者のケアマネジメントにおける方法や展開過程を学び、障がい者の個別支援計画や援助の実際について理解を深める。		0
12	障害者の社会参加と文化・スポーツ	障がい者の文化、スポーツや福祉レクリエーションへの参加や社会的活動の現状について理解する。		0
13	障害者の権利擁護	成年後見制度や日常生活支援事業、苦情解決制度、運営適正化委員会等、障がい者の権利を守る制度やシステムについて学ぶ。		0
14	障害者支援の事例研究	事例を通して障害者支援の実際を学ぶ。		0
15	まとめ	障害者福祉の課題と今後の方向についてまとめを行う。		0

授業名	介護福祉特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎廣野 正子			
開講期				
授業の概要	日本では2025年までに後期高齢者人口が急増し、単独世帯の高齢者や認知症高齢者の増加が予測される。国高齢者が住み慣れた地域での暮らしを継続できる社会の実現に向けて様々な政策が進められている。本授業では医療介護政策の一つである「地域包括ケア体制」について、福島の現状に触れながら学んでいく。 授業目標 １．後期高齢者人口の急増と多死時代到来への施策を理解する。 ２．福島県、および、各県の地域包括ケアの取り組みについて理解する。 ３．認知症高齢者、難病、緩和ケアに対する地域包括ケアシステムを理解する。			
授業の到達目標	日本では2025年までに後期高齢者人口が急増し、単独世帯の高齢者や認知症高齢者の増加が予測される。国高齢者が住み慣れた地域での暮らしを継続できる社会の実現に向けて様々な政策が進められている。本授業では医療介護政策の一つである「地域包括ケア体制」について、福島の現状に触れながら学んでいく。 授業目標 １．後期高齢者人口の急増と多死時代到来への施策を理解する。 ２．福島県、および、各県の地域包括ケアの取り組みについて理解する。 ３．認知症高齢者、難病、緩和ケアに対する地域包括ケアシステムを理解する。			
履修条件		成績の 評価方法・基準	課題レポート：70 授業での発表：30	
テキスト	特に使用しない			
参考書	授業で随時紹介			
学生への要望	近い将来、後期高齢者が急増し、多死時代が到来することに関心を持って授業に臨んでください。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 高齢者の健康問題と支援に関する制度	授業ガイダンス 高齢化の進展と要介護高齢者の状況 高齢者の健康問題の特徴 高齢者の保健・医療・福祉サービスに関する制度		0
2	〃	〃		0
3	超高齢化社会に向けての医療介護政策	超高齢化に向けての医療介護政策の展望 地域包括ケアの推進、理念と目標 地域包括ケアシステムの構造		0
4	〃	〃		0
5	地域包括ケア体制への取り組み（1）	各県における地域包括ケアシステムへの取り組み 福島県、および、震災後仮説住宅等における地域包括システムへの取り組み		0
6	〃	〃		0
7	地域包括ケア体制への取り組み（2）	在宅医療推進と介護との連携強化 退院支援・在宅復帰・療養支援の実際 他職種による連携とケアカンファレンス		0
8	〃	〃		0
9	認知症高齢者への地域包括ケア体制	地域における認知症の医療・ケア体制の状況 認知症施策推進の5ヵ年計画（2013～2017） 認知症高齢者への地域包括ケアシステムの構築		0
10	〃	〃		0
11	難病患者への地域包括ケア体制	難病の在宅療養者への医療・ケア体制の状況 療養者・家族の医療・介護へのニーズの実態 難病の在宅療養者への地域包括ケアシステムの構築		0
12	〃	〃		0
13	緩和ケアの地域包括支援体制	福島県県北地域の在宅緩和ケア地域連携バスの実際 他地域の地域緩和ケアネットワークの現状と課題 緩和ケアを必要とする療養者への地域緩和システムの構築		0
14	〃	〃		0
15	授業のまとめ	地域包括ケア体制構築に向けて解決すべき課題 授業のまとめ		0

授業名	科学的衣生活特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 必修
担当教員名	◎瀬谷 真理子		
開講期			
授業の概要	快適な衣生活を営んでいくために、ヒトと被服、それを取り巻く環境との関連性を人文・社会・自然など相互に関連性を持たせながら総合科学的な視点で幅広く学ぶことにより、豊かな衣生活とはどのようにあるべきか理解する。衣生活における現代的課題を把握し、よりよい生活者としての視点を養う。生活を科学し、豊かな衣生活とは何かを考えることは、SDGsの目指す方向と重なるものがあり、暮らしを科学する視点で現代的課題を捉え、実践していく力を養う。また、福島県立高等学校での指導経験を活かして、衣生活分野における基礎的知識と衣生活全般における総合科学的な観点を育む。レポートやプレゼンテーションに対し、コメント等によるフィードバックを行う。		
授業の到達目標	1. 被服の変遷を理解するとともに、被服の持つ機能・役割について理解し、快適な衣生活とはどうあるべきか考えることができる。 2. 被服材料の性質について理解し、手入れや保管について理解できる。 3. 豊かな衣生活を営むためのあり方について、科学的な視点で考え理解を深めることができる。 単位認定の最低基準は、上記1～3の総合的な評価が達成度7割以上であること。		
履修条件	上記対象学生	成績の 評価方法・基準	①課題レポート・ノート：40％ ②期末レポート/小テスト：60％ として①から②の総合評価で60％以上を合格とする。
テキスト	随時、資料を準備して配付		
参考書	「ビジュアル衣生活論」建帛社「消費者の視点からの衣生活概論」菅井清美・諸岡晴美 編著 井上書院、「衣生活概論」矢部章彦ほか		
学生への要望	衣生活における現状と課題を考えながら受講し、授業内容を実生活に反映させること。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム	家政学館4F 被服学研究室 月曜日1限		
アクティブラーニング実施内容	文献調査内容のプレゼンテーション、伝統文化の継承に向けた分析に向けた製作物の試作		
実務家教員の経歴	瀬谷：福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、1級衣料管理士取得、教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス～被服着用目的と被服の機能～衣生活文化の変遷～	被服の着用目的と機能は、時代、社会、文化の変遷に伴いながら変化する。被服の起源や被服の着用目的の変遷を学び、現在の衣生活について問題点を抽出する。特に、被服着用の主要な3つの目的（①生理物理的、②心理的、③社会的）を文化的変化、価値観・意識の変化の視点から考察し、今後の衣生活を展望する。	本日の講義の復習をする。自分自身の衣生活における問題点を抽出し、次回発表の準備をする。	60
2	衣服のかたちの変遷1～西洋の服装史より～	衣服がどのように変遷してきたのか西洋の服装史から確認するとともに現代の服装とのつながりについて考察する。	西洋の服装史から関心のある衣服について取り上げ、レポートにまとめるとともに次回発表の準備をする。	60
3	衣服のかたちの変遷1～西洋の服装史より～	衣服がどのように変遷してきたのか西洋の服装史から確認するとともに現代の服装とのつながりについて考察する。	西洋の服装史から関心のある衣服について取り上げ、レポートにまとめるとともに次回発表の準備をする。	60
4	衣服の形の変遷3～和服の変遷～	日本における和服文化の特色と和服の変遷について理解を深めながら現代の服装とのつながりについて考察する。	日本における和服文化や服装史から関心のある衣服について取り上げ、レポートにまとめるとともに次回発表の準備をする。	60
5	装いと健康 担当：西山	着装するヒトとして快適性を捉えるには人体とそれに密着する衣服との関わり、さらに人体・衣服・環境の相互のつながりを把握し、考察する。	本日の講義の復習をする。また、課題を捉え考察してレポートにまとめる。	60
6	動きやすさと衣服 担当：西山	衣服による身体への拘束について、被服の運動機能性の観点から理解を深めるとともに健康との関係性について考察する。	本日の講義の復習をする。また、課題を捉え考察してレポートにまとめる。	60
7	衣服の素材と加工 担当：西山	衣料品は、各種素材から構成されていることを理解し、原料について資源という観点から考察を深める。	本日の講義を復習する。また、様々な被服の原料について考察してレポートにまとめる。	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	豊かな衣生活の構築に向けて～糸と織物の関係①～	簡易な織機を活用して、布の成り立ちについて、縦糸、横糸を確認しながら布を折る体験を行うことで、衣生活を豊かに彩ることにに向けて理解を深める。	課題をレポートにまとめるとともに作品を完成させる。	60
9	豊かな衣生活の構築に向けて～糸と織物の関係②～	簡易な織機を活用して、布の成り立ちについて、縦糸、横糸を確認しながら布を折る体験を行うことで、衣生活を豊かに彩ることにに向けて理解を深める。	課題をレポートにまとめるとともに作品を完成させる。	120
10	豊かな衣生活の構築～伝統文化の継承と創造①～	豊かな衣生活の構築のためには、日本古来からの伝統文化を認識するとともに継承に向けた取り組みが求められる。その一つとして、「染色」の文化を学び、体験により考察につなげる。	「伝統文化の継承と創造」をテーマに、レポートを作成するとともに作品を完成させる。	60
11	豊かな衣生活の構築～伝統文化の継承と創造②～	豊かな衣生活の構築のためには、日本古来からの伝統文化を認識するとともに継承に向けた取り組みが求められる。その一つとして、「染色」の文化を学び、体験から考察を行う。	「伝統文化の継承と創造」をテーマに、レポートを作成するとともに作品を完成させる。	60
12	豊かな衣生活の構築～伝統文化の継承と創造③～	豊かな衣生活の構築のためには、日本古来からの伝統文化を認識するとともに継承に向けた取り組みが求められる。その一つとして、「津軽こぎん刺し」の文化を学び、体験により考察につなげる。	「伝統文化の継承と創造」をテーマに、レポートを作成するとともに作品を完成させる。	60
13	豊かな衣生活の構築～伝統文化の継承と創造④～	豊かな衣生活の構築のためには、日本古来からの伝統文化を認識するとともに継承に向けた取り組みが求められる。その一つとして、「津軽こぎん刺し」の文化を学び、体験から考察を行う。	「伝統文化の継承と創造」をテーマに、レポートを作成するとともに作品を完成させる。	60
14	豊かな衣生活の構築～伝統文化の継承と創造⑤～	豊かな衣生活の構築のためには、日本古来からの伝統文化を認識するとともに継承に向けた取り組みが求められる。その一つとして、「津軽こぎん刺し」の文化を学び、体験から考察を行う。	「伝統文化の継承と創造」をテーマに、レポートを作成するとともに作品を完成させる。	120
15	まとめ	衣生活を巡る問題は、生活全般に共通する問題であること、生活者の視点での考察が重要であることを理解し、全体のまとめとしてのレポートを作成する。確認テストも加える。	本日の講義を復習するとともに確認テストでの振り返りを行う。	60

授業名	科学的衣生活演習	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員名	◎西山 加奈		
開講期	後期		
授業の概要	文化的で快適な衣生活を営むため、めまぐるしい発展をとげる科学的技術と近年の衣生活に係る環境問題について学び、実践的演習を通して総合的に理解を深め、科学的知識から豊かな衣生活を実践していく力と指導者としての視点を養う。また、高等学校教員、及び介護福祉士・保育士養成専門学校での家政系教員としての勤務経験を活かし、衣生活分野における教科指導に役立てる人材育成を念頭に置いた構成とする。		
授業の到達目標	[到達目標] 1. 衣生活分野の学問領域について理解する。 2. 先行研究から課題を抽出し、衣生活の研究の理解と深化する。 3. 衣生活における研究テーマの選定方法を理解し、新たな学問探究ができるようにする。 単位認定の最低基準は、上記1～3の総合的な評価が達成度7割以上であること。		
履修条件		成績の 評価方法・基準	①授業態度 30% ②課題（発表、提出物）30% ③理解度（レポートなど）40% ①～③の総合評価60点以上で合格とする。
テキスト	授業毎に配布する。その配布資料に基づいて授業を進める。		
参考書	随時提示		
学生への要望	日常生活の中で衣生活に興味や関心を持ち、探究心をもってより良い衣生活の提案ができるような学びとなるよう、積極的な姿勢で取り組むことを心掛けて欲しい。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム	授業終了後		
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴	家政系教員として介護福祉士・保育士養成専門学校に勤務、高等学校（家庭）に勤務、修士（被服学）、中学校教諭一種免許状(家庭) 取得、高等学校教諭専修免許状(家庭) 取得、2級衣料管理士取得		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本授業の概要及び演習内容の提示。	シラバスで授業内容を確認する	90
2	衣生活の歴史と学問領域	今日に至るまでの衣生活の変革と、学問領域について学ぶ。	近年の衣生活研究について調査する	90
3	衣生活の学問領域(1)	衣服学の分野へのアプローチには被服材料に関する知識は必要不可欠である。この回では被服材料学分野の研究について資料等を用いて学ぶ。	被服材料学の研究を調べる	90
4	衣生活の学問領域(2)	衣服が身体に適合するためには人体の形状を把握し、人体にフィットした衣服パターンを踏まえた組み立てが必要である。この回では被服構成学について資料等を用いて学ぶ。	被服構成学の研究を調べる	90
5	衣生活の学問領域(3)	衣服はよりよい人間らしい生活を支える重要なものである。衣服選択による心理、社会的、審美的機能について資料等を用いて学ぶ。	被服心理学と色彩・意匠学の研究を調べる	90
6	衣生活の学問領域(4)	衣服は微小環境であり、衣服は健康を左右する重要な要素である。衣服に関する研究方法を学ぶための基本的知識について理解を深める。	被服衛生学の研究を調べる	90
7	研究の方法について	前回までの学修した内容をもとに、日本家政学会等の先行研究を理解し、衣生活分野での論文作成手法を理解する。	先行研究の調査方法を理解する	90
8	研究の方法について	先行研究の調査及び問題点の抽出から、現在の衣生活の問題点を明らかにする。	興味ある分野の先行研究を集める	90
9	研究の方法について	上記調査をもとに、各自の衣生活をキーワードとして、次週の発表内容を作成する。	興味ある分野の先行研究を集める	90
10	研究の方法について	先行研究調査からえられた研究の手法を取り入れて、衣生活をキーワードに発表を行う。 研究手法としての評価を討論する。	興味ある分野の先行研究を集め、発表原稿を作成する	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	衣生活の今日的なテーマと研究方法について	最新の衣生活の課題と研究の方法を学ぶ。	最新課題を抽出しまとめる	90
12	衣生活のこれからを考える	衣生活の果たす役割を考える。	衣生活の役割を理解する	90
13	研究への応用及び研究計画の作成方法	これまでの学修から可能とされる研究内容を選出し、研究計画、計画の妥当性等評価する。また、研究計画の作成方法を学ぶ。	研究計画を立てる	90
14	まとめ（１）	これまでの演習で修得した内容を元に、レポート制作に取り組む。	レポートの製作	90
15	まとめ（２）	レポートの提出内容確認。プレゼン及び討論。本講座の総括をおこなう。	レポートの製作	90

授業名	科学的衣生活実験	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎西山 加奈			
開講期	前期			
授業の概要	衣生活に関する調査研究や実験研究の理念と適正な企画方法を学ぶ。研究対象としては、代表的な先行研究を数種選択し、モデル試行する。さらに、結果の解析・検討を実施した結果に基づき、テーマを探索し研究を試行する。研究結果を論文にまとめることにより、実験研究の進め方の理解を深める。また、企業における企画開発や研究開発部門での勤務経験を活かし、研究方法や論文の書き方などを適切に指導する。			
授業の到達目標	調査研究（実験研究）をデザインし、調査あるいは実験を推進し、得られたデータを解析・評価し、これらをレポート(論文)にまとめることができる。			
履修条件	特になし	成績の 評価方法・基準	課題：４０点 レポート：６０点	
テキスト	必要に応じた参考資料を配布する。			
参考書	日本家政学会誌，日本繊維製品消費科学会誌，ほか関連学会誌			
学生への要望	常日頃から、問題意識と探究心を持ち、関連論文を多数読み込み、質の良い論文を見分ける能力を養うこと。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム	火曜日（Ⅱ時限）：N o 2 被服学研究室 水曜日（全日）：N o 2 被服学研究室			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本授業の概要や目標，講義の進め方や評価方法などを説明する。	本日の授業内容をまとめ，問題点をピックアップする。	60
2	ガイダンス	本授業の概要や目標，講義の進め方や評価方法などを説明する。	本日の授業内容をまとめ，問題点をピックアップする。	60
3	日本家政学会誌調査（１）	日本家政学会誌に掲載されている論文を選択し，読み合わせをする。実験方法や実験結果，考察などを読み込み，実験研究のデザインや進め方を理解する。	選択した論文を再度読み，不明点などをピックアップする。	60
4	日本家政学会誌調査（１）	日本家政学会誌に掲載されている論文を選択し，読み合わせをする。実験方法や実験結果，考察などを読み込み，実験研究のデザインや進め方を理解する。	選択した論文を再度読み，不明点などをピックアップする。	60
5	日本家政学会誌調査（２）	日本家政学会誌に掲載されている論文を選択し，読み合わせをする。調査方法や調査結果，考察などを読み込み，調査研究のデザインや進め方を理解する。	選択した論文を再度読み，不明点などをピックアップする。	60
6	日本家政学会誌調査（２）	日本家政学会誌に掲載されている論文を選択し，読み合わせをする。調査方法や調査結果，考察などを読み込み，調査研究のデザインや進め方を理解する。	選択した論文を再度読み，不明点などをピックアップする。	60
7	日本繊維製品消費科学会誌調査（１）	日本繊維製品消費科学会誌に掲載されている論文を選択し，読み合わせをする。調査方法や調査結果，考察などを読み込み，調査研究のデザインや進め方を理解する。	選択した論文を再度読み，不明点などをピックアップする。	60
8	日本繊維製品消費科学会誌調査（１）	日本繊維製品消費科学会誌に掲載されている論文を選択し，読み合わせをする。調査方法や調査結果，考察などを読み込み，調査研究のデザインや進め方を理解する。	選択した論文を再度読み，不明点などをピックアップする。	60
9	日本繊維製品消費科学会誌調査（２）	日本繊維製品消費科学会誌に掲載されている論文を選択し，読み合わせをする。調査方法や調査結果，考察などを読み込み，調査研究のデザインや進め方を理解する。	選択した論文を再度読み，不明点などをピックアップする。	60
10	日本繊維製品消費科学会誌調査（２）	日本繊維製品消費科学会誌に掲載されている論文を選択し，読み合わせをする。調査方法や調査結果，考察などを読み込み，調査研究のデザインや進め方を理解する。	選択した論文を再度読み，不明点などをピックアップする。	60
11	調査（実験）研究のテーマの選択	テーマの選定をする。	テーマの選定を考える。	60
12	調査（実験）研究のテーマの選択	テーマの選定をする。	テーマの選定を考える。	60
13	調査（実験研究）のテーマの選択	テーマの選定をする。	テーマの選定を考える。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	調査（実験研究）のテーマの選択	テーマの選定をする。	テーマの選定を考える。	60
15	調査（実験）研究のデザイン・進め方	テーマにそった調査（実験）研究の企画デザインを作成する。	関連論文の文献調査を実施する。	60
16	調査（実験）研究のデザイン・進め方	テーマにそった調査（実験）研究の企画デザインを作成する。	関連論文の文献調査を実施する。	60
17	調査（実験）研究のデザイン・進め方	テーマにそった調査（実験）研究の企画デザインを作成する。	関連論文の文献調査を実施する。	60
18	調査（実験）研究のデザイン・進め方	テーマにそった調査（実験）研究の企画デザインを作成する。	関連論文の文献調査を実施する。	60
19	調査（実験）研究の推進	調査（研究）を実施し、結果を求める。	選択したテーマにそって調査研究を進める。	60
20	調査（実験）研究の推進	調査（研究）を実施し、結果を求める。	選択したテーマにそって調査研究を進める。	60
21	調査（実験）研究の推進	調査（研究）を実施し、結果を求める。	選択したテーマにそって調査研究を進める。	60
22	調査（実験）研究の推進	調査（研究）を実施し、結果を求める。	選択したテーマにそって調査研究を進める。	60
23	調査（実験）研究の推進	調査（研究）を実施し、結果を求める。	選択したテーマにそって調査研究を進める。	60
24	調査（実験）研究の推進	調査（研究）を実施し、結果を求める。	選択したテーマにそって調査研究を進める。	60
25	結果の考察	結果を解析し、考察する。	結果を考察し、投稿原稿にまとめる。	60
26	結果の考察	結果を解析し、考察する。	結果を考察し、投稿原稿にまとめる。	60
27	レポート作成	レポートを作成する。	結果を考察し、投稿原稿にまとめる。	60
28	レポート作成	レポートを作成する。	結果を考察し、投稿原稿にまとめる。	60
29	レポートの評価、学会発表、学会誌投稿方法	投稿論文用のスタイルで論文を書くにあたり、引用文献の書き方や著作権について理解を深める	自分の論文をチェックし、問題点・課題を抽出する。	60
30	レポートの評価、学会発表、学会誌投稿方法	投稿論文用のスタイルで論文を書くにあたり、引用文献の書き方や著作権について理解を深める。	自分の論文をチェックし、問題点・課題を抽出する。	60

授業名	科学的食生活特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 必修	
担当教員名	◎金子 依里香			
開講期	前期			
授業の概要	大学の4年間は、管理栄養士、栄養教諭などの資格取得のためのカリキュラムに従って、「食生活の周辺」を「学び、理解して、覚える」ことであった。大学院修士課程においては、「学び、理解して、覚える」からさらに前進し、周知されているテキストレベルの情報を基礎として、日本人の食生活の特徴的な事がらを「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」や「The Washoku Way-Japan's Nuanced Approach to Food」で英文を講読する。併せて、必要に応じて各種学術雑誌等の論文や最新情報を読み解きながらディスカッションする。 【課題に対するフィードバックの方法】 課題提出後、フィードバックの時間を設定し連絡する。			
授業の到達目標	各種学術雑誌等の論文や最新情報を読み解くことにより「食生活の功罪」を科学的側面から「論ずる力」を養うこと、および、英文講読により日本の食生活を海外に伝える力を養うことを目標とする。 【単位認定方法の最低基準】 授業内容の80%を理解していること。			
履修条件	大学院修士課程の学生	成績の 評価方法・基準	①レポート80% ②英文講読20%	
テキスト	資料を配布する。			
参考書	「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」「The Washoku Way-Japan's Nuanced Approach to Food」			
学生への要望	①日々の生活の中で、常に食品に関心を持ってください。 ②食文化などにも関心を持ってください。 ③客観的な立場で考える力を身に付けてください。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム	各授業担当教員研究室、水曜日および木曜日の昼休み			
アクティブラーニング実施内容	なし			
実務家教員の経歴	なし			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	導入：授業の目的	導入として、大学院修士課程においては、「学び、理解して、覚える」からさらに前進し、周知されているテキストレベルの情報を基礎として、各種学術雑誌等の論文や最新情報を読み解き、「食生活の功罪」を科学的側面から「論ずる力」を養うことを目標とすることを理解する。	復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	30
2	「縄文時代」から「江戸時代」の食生活	「縄文時代」から「江戸時代」の食生活の概要を講義を行う。	予習：配布したテキストの事前学習をしてきてください。	60
3	「江戸時代」から「現在」の食生活および「日本の年中行事と行事食」について	「江戸時代」から「現在」の食生活までの概要を講義し、現代の食生活が抱える問題点について討論した。 「日本の年中行事と行事食」について講義を行う。	予習：配布したテキストの事前学習をしてきてください。	60
4	論文講読①	「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」Chapter3 The Formative Period of Japanese Dietary Culture “Annual Observances and Rites of Passage”を講読し、討論する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
5	論文講読②	前回に続き「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」Chapter3 The Formative Period of Japanese Dietary Culture “Annual Observances and Rites of Passage”を講読し、討論する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
6	論文講読③	前回に続き「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」Chapter3 The Formative Period of Japanese Dietary Culture “Annual Observances and Rites of Passage”を講読し、討論する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	世界・日本の食具と食事の作法、食事と宗教との関連	世界・日本の食具と食事の作法、食事と宗教との関連について講義する。	予習：配布したテキストの事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
8	論文講読④	「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」Chapter7 At the Table “Chopsticks and Table Manners”を講読し、討論する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
9	論文講読⑤	前回に続き「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」Chapter7 At the Table “Chopsticks and Table Manners”を講読し、討論した。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
10	論文講読⑥	前回に続き「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」Chapter7 At the Table “Chopsticks and Table Manners”を講読し、討論する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
11	日本の「だし」文化と味覚	東日本と西日本の「だし」の違いが生まれた歴史を学び、さらに味覚について生理学的に学び、理解を深める。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
12	論文講読⑦	「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」Chapter9 On the Menu “Soup and Umami Flavouring”を講読し、討論する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
13	論文講読⑧	前回に続き「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」Chapter9 On the Menu “Soup and Umami Flavouring”を講読し、討論する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
14	論文講読⑨	農林水産省のホームページに掲載されている「The Washoku Way-Japan's Nuanced Approach to Food」を講読し、日本の食生活を海外に伝える力を養うため、日本の食生活について討論する。	予習：配布したテキストの事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
15	論文講読⑩およびまとめ	前回に続き、「The Washoku Way-Japan's Nuanced Approach to Food」を講読し、日本の食生活を海外に伝える力を養うため、日本の食生活について討論しまとめを行う。	予習：配布したテキストの事前学習をしてきてください。 2回～14回までの授業内容について確認し自分の考えを整理してください。	60

授業名	科学的食生活演習	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎伊藤 央奈			
開講期				
授業の概要	健康に暮らすためには望ましい食生活が必須である。その望ましい食生活とは何か論文購読や疫学的な観点から解説する。また院生自らの食生活に関連した論文や雑誌を購読し、プレゼンテーションを行う能力を身に付ける。 【課題のフィードバック】：随時講義の時間内に行う。			
授業の到達目標	・健康に暮らすための望ましい食生活について説明できる。 ・自らの食生活についての問題点を明らかにし、問題解決についてプレゼンテーションすることができる。 【単位認定の最低基準】：内容の7割は理解し、自らの食生活に応用することができる。			
履修条件	大学院修士課程 1年	成績の 評価方法・基準	出席時間が開講時間の2/3以上で、授業の討議態度（20％）ならびにレポート（80％）で評価する。	
テキスト	分かりやすいEBNと栄養疫学 同文書院			
参考書	その都度紹介する。			
学生への要望	日頃、食物や栄養に関心を持つこと。			
位置付け・水準	GH			
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム	水曜日4・5コマ目			
アクティブラーニング実施内容	問題解決についてプレゼンテーションにより発表を行う。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	科学的根拠に基づいた栄養学に（EBN）について	科学的根拠に基づいた栄養学（EBN）について解説する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
2	栄養・健康情報とEBNについて	栄養・健康情報とEBNについて、情報の種類と価値の観点から解説する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
3	栄養疫学について	疫学研究の目的、方法について解説する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
4	疫学のための統計学	疫学研究に必要な統計学について解説する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
5	栄養疫学の実践について	栄養疫学について実践例を挙げて解説する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
6	疫学研究の読み方と進め方	論文の読み方や研究の進め方について解説する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
7	EBNの実例について	生活習慣病予防のEBNについて解説する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
8	疫学で理解する食事摂取基準	食事摂取基準を疫学的観点から解説する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
9	自らの食生活の課題の抽出①	自らの食生活の課題を挙げ、それらの課題解決のために文献を検索し、文献を講読する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
10	自らの食生活の課題解決①	課題解決のための方法をレポートにまとめる。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
11	自らの食生活の課題の抽出②	自らの食生活の課題を挙げ、それらの課題解決のために文献を検索し、文献を購読する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
12	自らの食生活の課題解決②	課題解決のための方法をレポートにまとめる。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
13	食生活に関連した発表①	食生活に関連したトピックスについて院生自らがプレゼンテーションを作成し発表する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
14	食生活に関連した発表②	食生活に関連したトピックスについて院生自らがプレゼンテーションを作成し発表する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
15	食生活に関連した発表③	食生活に関連したトピックスについて院生自らがプレゼンテーションを作成し発表する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20

授業名	科学的食生活実験	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎會田 久仁子			
開講期				
授業の概要	【授業概要】食物と人間生活の関わりについて、実験を通じて科学的に検討するための手法を学ぶ。なお、実験に当たっては既存の手法に捉われることなく、俯瞰的に日常の生活から食に関わる問題点を抽出することで、新しい手法への導き方をディスカッションしながら考えることを目的とする。 【課題に対するフィードバックの方法】 課題提出後、フィードバックの時間を設定し連絡します。			
授業の到達目標	【達成目標】種々学術雑誌等の論文や最新情報を読み解くことにより、実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び、人間生活で起きている食に関する現象について身近なことに置き換えて簡単に再現・証明したり、科学的に「論ずる力」を養うことを目標とする。 【単位認定方法の最低基準】 授業内容の80％を理解していること。			
履修条件	大学院修士課程の学生	成績の 評価方法・基準	①レポート80％ ②英文講読20％	
テキスト	資料を配布する。			
参考書	必要に応じ授業内で案内する。			
学生への要望	①日々の生活の中で、常に食品に関心を持ってください。 ②行事食・家庭料理・食文化などにも関心を持ってください。 ③客観的な立場で考える力を身に付けてください。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム	月曜日 16：20～17：00 栄養指導論研究室			
アクティブラーニング実施内容	毎授業時間における実習内容を学ぶことが、アクティブラーニングとなる。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	伝統食品の科学的検討①	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
2	伝統食品の科学的検討①	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
3	伝統食品の科学的検討②	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
4	伝統食品の科学的検討②	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
5	伝統食品の科学的検討③	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
6	伝統食品の科学的検討③	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
7	伝統食品の科学的検討④	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
8	伝統食品の科学的検討④	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
9	伝統食品の科学的検討⑤	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
10	伝統食品の科学的検討⑤	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30

[illegible]

授業名	食品衛生学特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎澤渡 優喜			
開講期				
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 食品衛生学分野の中で食品微生物学の内容を講義します。特に、微生物制御の原理を理解してもらうことを授業の目的とします。 〔授業全体の内容の概要〕 本特論では「食品微生物学」の内容を扱います。基礎的な微生物学の内容を概説した後、微生物の殺菌、食品の腐敗・変敗とその防止方法、食品の品質管理で行う微生物検査方法について説明します。 〔課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法〕 課題を提出後、コメントや口頭等でフィードバックを行います。			
授業の到達目標	食品の開発や品質管理の場面でも使える知識を修得していること。			
履修条件	なし	成績の 評価方法・基準	授業内での発言やレポート100点	
テキスト	食品の腐敗と微生物（幸書房）3,500円＋税			
参考書	改定 食品微生物学（建帛社）2,100円＋税又はエキスパート管理栄養士養成シリーズ6 微生物学（第3版）（化学同人）2,500円＋税			
学生への要望	教員が一方向的に話をする授業ではなく、受講生にも発言をしてもらう授業です。教員と議論も行います。積極的に自分の考えを発言して下さい。			
位置付け・水準	－			
ディプロマポリシーとの関係	－			
オフィスタイム	時間： 火曜日16:20～17:05、水曜日16:20～17:05、 場所： 家政学館3階 食品衛生学研究室			
アクティブラーニング実施内容	授業は担当教員と議論しながら進みます。			
実務家教員の経歴	食品企業で乳酸菌を利用した商品の研究開発を行っていました。食品企業での経験をもとに微生物制御について講義します。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	導入	身近にある加工食品を題材に、なぜ、腐らないのか？について議論をします。	シラバスをよく読んで講義内容の全体をイメージして下さい。また、加工食品が腐らない理由について自分なりの考えをまとめておいて下さい。	120
2	微生物の基礎① 種類と性質	微生物を細菌類、真菌類（酵母、糸状菌）に分けて、種類と性質について概説します。	学部で習った左記内容を復習しておいて下さい。	120
3	微生物の基礎② 生理	微生物が必要とする栄養分と増殖条件について概説します。	学部で習った左記内容を復習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
4	食品と微生物	食品と微生物の関係を正しく理解するために、発酵、腐敗・酸敗および食中毒の違いを説明します。また、腐敗・酸敗について詳細に説明します。	教科書のp2～9を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
5	食品保蔵① 概論	食品保蔵の原理を説明します。また、実際の加工食品を例にしてハードル理論とバランス理論について説明します。	教科書のp152～155を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
6	食品保蔵② 低温保存	低温条件下での微生物の挙動について説明します。また、低温保存の効果と注意点について説明します。	教科書のp156～162を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
7	食品保蔵③ 包装	食品を包装後、真空、脱酸素、窒素置換又は二酸化炭素置換をした場合の微生物の増殖性について説明します。また、無菌包装食品の製造原理について説明します。	教科書のp163～170を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
8	食品保蔵④ 加熱殺菌（１）	加熱殺菌の種類、加熱殺菌のメカニズム、商業的無機、加熱殺菌の効果および加熱殺菌の注意点について説明します。	教科書のp171～178を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
9	食品保蔵④ 加熱殺菌（２）	加熱殺菌の理論につて説明ます。	教科書のp171～178を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
10	食品保蔵⑤ 食品添加物	保存料および日持向上剤の静菌メカニズムについて、食品添加物使用の注意点について説明します。	教科書のp179～186を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	食品保蔵⑥ 紫外線、電離放射線	紫外線および電離放射線を使用した食品の保蔵方法について説明します。	教科書のp187～191を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
12	食品保蔵⑦ 超高压、オゾン	超高压およびオゾンを使用した食品の保蔵方法について説明します。	教科書のp191～196を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
13	食品における微生物の挙動① 乳・乳製品	乳・乳製品での腐敗・変敗や食中毒の事例、防止策および規格基準について説明します。	教科書のp53～62を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
14	食品における微生物の挙動② 弁当・惣菜・生めん類	弁当・惣菜・生めん類での腐敗・変敗や食中毒の事例、防止策および規格基準について説明します。	教科書のp89～93を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
15	食品微生物の検査方法	食品企業などで行われる一般的な微生物検査方法について説明します。	事前に示した内容を予習しておいて下さい。	60

授業名	調理科学特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 2単位 選択
担当教員名	◎菊池 節子		
開講期			
授業の概要	「調理科学」は、食の分野を多角的に体系化を図る学問である。食品を選択する行為には、加工や調理に加えて、人間の心理や生理、生活や嗜好、その他多くの背景と動機があり、目的にあった確な食品選択が求められている。ここでは、「調理科学」の中でも心理的要因が問われる「おいしさの科学」について論文や事例により読み解きながらディスカッションする。併せて、授業開始時（毎回10～15分程度）に食物や栄養についての英文を購読する。【課題に対するフィードバックの方法】 課題提出後、フィードバックの時間を設定し連絡します。		
授業の到達目標	官能評価の事例を読み解くことにより、科学的側面から「おいしさ」について「論ずる力」を養うこと、および、英文購読により食物や栄養について外交人との「コミュニケーションツール」として活用できることを目標とする。【単位認定方法の最低基準】 授業内容の80%を理解していること。		
履修条件	大学院 人間生活学研究科 修士課程専攻生	成績の 評価方法・基準	英文購読（20点）とレポート（80点）で100点とします。
テキスト	「調理と食品の官能評価」：松本伸子、建帛社 「PRACTICAL ENGLISH FOR DIETITIANS REVISED EDITION」：小川成子、山本厚子、LAURA NIHAN、学研書院(1,188円+税8%)		
参考書	必要に応じて授業内で案内する。		
学生への要望	①日々の生活の中で、常に食品に関心を持ってください。 ②食べ物を五感で味わう習慣をつけてください。 ③食品表示、食器、食空間、食文化などにも関心を持ってください。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の目的	食の業務に携わるためには、種々の食品についての深い知識と、食品の品質を見抜く技能が必要とされる。食品の評価法には、化学的、物理的評価法はもちろんのこと、官能的な評価法があることをまず理解する。「調理科学特論」では、調理や加工に留まることなく、食品の生産、流通、消費のシステムの中で、食品の品質を評価するためのいくつかの方法を解説する。	復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	30
2	事例①：高齢者向けの商品開発と官能評価	高齢者向けの食品開発に当たっては、高齢者の摂食機能を考慮する必要がある。ここでは、口腔の形態と食塊の移動のメカニズムを確認し、高齢者の摂食中の問題点、唾液の性状および食肉の硬さと咀嚼の関係から若年者と高齢者の違いを理解する。	予習：テキストの事前学習をしてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
3	事例②：コンビニ等向けの商品開発と官能評価	コンビニおよびチェーンストアの店頭に並ぶ弁当、おにぎり、惣菜などは2000種類にも及ぶといわれている。他社との差別化を図った多くの新商品を生み出すために、官能評価は不可欠な手法であることを理解する。	予習：テキストの事前学習をしてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
4	事例③：飲料を評価する「のどごし感」の測定方法と官能検査	「のどごし感」は、ビール類の嗜好性と高い相関があるといわれている。ここでは、咽頭部表面筋電図周波数解析を用いた「のどごし感」の測定方法の概要を理解する。	予習：テキストの事前学習をしてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
5	事例④：「味の素」の商品開発と官能評価	「味の素」は日本人が発見した「うま味」によって、この100年間マーケットを世界中の100か国以上に広められ、グローバルな商品となった。官能評価の手法をいち早く実践して商品開発を行ってきた味の素株式会社のため努力を理解する。	予習：テキストの事前学習をしてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	論文購読①	最近の商品開発と官能評価の事例を学術雑誌等からいくつか取り上げ解説する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
7	英文購読①	食物や栄養に関する英文購読をする。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
8	論文購読②	最近の商品開発と官能評価の事例を学術雑誌等からいくつか取り上げ解説する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
9	英文購読②	食物や栄養に関する英文を購読する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
10	論文購読③	最近の商品開発と官能評価の事例を学術雑誌等からいくつか取り上げ解説する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
11	英文購読③	食物や栄養に関する英文を購読する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
12	論文購読④	最近の商品開発と官能評価の事例を学術雑誌等からいくつか取り上げ解説する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
13	英文購読④	食物や栄養に関する英文を購読する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
14	論文購読⑤	最近の商品開発と官能評価の事例を学術雑誌等からいくつか取り上げ解説する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
15	授業の総括	2回から14回の授業内容について討論を行う。	予習：1回目から14回目までの授業内容を確認してきてください。 復習：1回目から15回目までの授業内容について自分の考えを整理してください。	60

授業名	臨床栄養学特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎大西 弘太郎			
開講期				
授業の概要	生活習慣病の成因・治療・予防について栄養学の立場から分析・理解する。とくに心血管疾患に重点をおく。 国際誌に掲載されたインパクトの高い英語論文を輪読する。			
授業の到達目標	単位認定の最低基準：英語原著論文の大意を理解できるようになること。			
履修条件	大学院修士課程1年	成績の 評価方法・基準	小テスト (20%) レポート (80%)	
テキスト	特になし			
参考書	特になし			
学生への要望	英語論文の輪読を行う。基礎となる英文医学用語の習得に努めること。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム	月曜日：13:00～16:00。 火曜日：13:00～16:00。 木曜日：13:00～16:00。			
アクティブラーニング実施内容	随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。			
実務家教員の経歴	医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。 実務経験：医師として医療機関に勤務している。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	非感染性疾患とその予防	平均寿命と健康寿命 人口動態の変遷 非感染性疾患(NCD)の概念と位置づけ 高血圧とその予防 高血圧と栄養学	健康寿命、疾病構造、生活習慣病などについて予習・復習をしましょう。	120
2	英文講読 1	Miura K(, Nagai M, Ohkubo T. Epidemiology of hypertension in Japan: where are we now? Circ J. 2013;77:2226-31.	日本における高血圧症の位置付けについて予習・復習をしましょう。	120
3	英文講読 2	Miura K(, Nagai M, Ohkubo T. Epidemiology of hypertension in Japan: where are we now? Circ J. 2013;77:2226-31.	日本における高血圧症の位置付けについて予習・復習をしましょう。	120
4	英文講読 3	Miura K(, Nagai M, Ohkubo T. Epidemiology of hypertension in Japan: where are we now? Circ J. 2013;77:2226-31. Christensen K, et al.	日本における高血圧症の位置付けについて予習・復習をしましょう。	120
5	英文講読 4	Miura K(, Nagai M, Ohkubo T. Epidemiology of hypertension in Japan: where are we now? Circ J. 2013;77:2226-31. Christensen K, et al.	日本における高血圧症の位置付けについて予習・復習をしましょう。	120
6	英文講読 5	He FJ, Li J, Macgregor GA. Effect of longer term modest salt reduction on blood pressure: Cochrane systematic review and meta-analysis of randomised trials. BMJ. 2013;346:f1325.	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性、特に減塩について予習・復習をしましょう。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	英文講読 6	He FJ, Li J, Macgregor GA. Effect of longer term modest salt reduction on blood pressure: Cochrane systematic review and meta-analysis of randomised trials. BMJ. 2013;346:f1325.	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性、特に減塩について予習・復習をしましょう。	120
8	英文講読 7	He FJ, Li J, Macgregor GA. Effect of longer term modest salt reduction on blood pressure: Cochrane systematic review and meta-analysis of randomised trials. BMJ. 2013;346:f1325.	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性、特に減塩について予習・復習をしましょう。	120
9	英文講読 8	He FJ, Li J, Macgregor GA. Effect of longer term modest salt reduction on blood pressure: Cochrane systematic review and meta-analysis of randomised trials. BMJ. 2013;346:f1325.	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性、特に減塩について予習・復習をしましょう。	120
10	英文講読 9	Kanauchi M, Kanauchi K. Diet quality and adherence to a healthy diet in Japanese male workers with untreated hypertension. BMJ Open. 2015;5:e008404.	高血圧症の治療における食事療法の重要性、特にダイエットを続けられるコツについて予習・復習をしましょう。	120
11	英文講読 1 0	Kanauchi M, Kanauchi K. Diet quality and adherence to a healthy diet in Japanese male workers with untreated hypertension. BMJ Open. 2015;5:e008404.	高血圧症の治療における食事療法の重要性、特にダイエットを続けられるコツについて予習・復習をしましょう。	120
12	英文講読 1 1	Kanauchi M, Kanauchi K. Diet quality and adherence to a healthy diet in Japanese male workers with untreated hypertension. BMJ Open. 2015;5:e008404.	高血圧症の治療における食事療法の重要性、特にダイエットを続けられるコツについて予習・復習をしましょう。	120
13	英文講読 1 2	注目されている最新の研究、論文未定	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性について予習・復習をしましょう。	120
14	英文講読 1 3	注目されている最新の研究、論文未定	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性について予習・復習をしましょう。	120
15	まとめ	総合討論 レポート提出	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性について予習・復習をしましょう。	120

授業名	公衆栄養学特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員名	◎星 千歳		
開講期			
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 地域や集団の栄養問題を把握し、適切な公衆栄養プログラムを計画、実施、評価するための知識と技能などについて学習し、実際の現場でのとらえ方や課題について把握できるようにする。 〔授業全体の内容の概要〕 公衆栄養の概念、地域診断と公衆栄養マネジメント、公衆栄養プログラムの展開について解説する。また、保健所に勤務した経験をもとに実際の現場での活動内容や課題について講義する。 【課題に対するフィードバックの方法】 随時、授業内でフィードバックを行う。		
授業の到達目標	〔達成目標〕 地域や集団の栄養問題をアセスメントし、適切な公衆栄養プログラムを計画、実施、評価するための知識と技能を修得する。 【単位認定の最低基準】 授業内容の7割を理解していること。		
履修条件	大学院 人間生活学研究科 修士課程 1年	成績の 評価方法・基準	出席時間が開講時間の2/3以上で、レポート等（100点）で評価する。
テキスト	サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 公衆栄養学 第11版 第一出版		
参考書	特になし		
学生への要望			
位置付け・水準	GH		
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム	月曜日5コマ、木曜日5コマ 食生活・栄養研究室		
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴	福島県の職員（管理栄養士）として保健所と病院に勤務		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	公衆栄養の概念	公衆栄養学の定義を理解し、公衆栄養学の意義・目的を認識する。また、公衆栄養活動の視点および方向性について解説する。	終了後、授業内容を復習する。	20
2	公衆栄養の概念	公衆栄養活動は、生態系保全、地域づくり、ヘルスプロモーション、疾病予防などとの密接なかわりについて基本的な事項について解説する。	終了後、授業内容を復習する。	20
3	地域診断と公衆栄養マネジメント	公衆栄養マネジメントの基本的な考え方やその必要性について解説する。	終了後、授業内容を復習する。	20
4	地域診断と公衆栄養マネジメント	公衆栄養マネジメントの過程について解説する。	終了後、授業内容を復習する。	20
5	地域診断と公衆栄養マネジメント	公衆栄養マネジメントを適切に展開するために求められる公衆栄養アセスメントの目的や方法について解説する。	終了後、授業内容を復習する。	20
6	地域診断と公衆栄養マネジメント	公衆栄養アセスメント（地域診断）のための情報源と情報収集の方法について解説する。	終了後、授業内容を復習する。	20
7	地域診断と公衆栄養マネジメント	公衆栄養プログラムにおける目標設定の方法について解説する。	終了後、授業内容を復習する。	20
8	地域診断と公衆栄養マネジメント	公衆栄養プログラムの計画立案について解説する。	終了後、授業内容を復習する。	20
9	地域診断と公衆栄養マネジメント	公衆栄養プログラムの評価の意義と方法について解説する。	終了後、授業内容を復習する。	20
10	公衆栄養プログラムの展開	地域特性に対応したプログラムの展開と地域集団の特性別プログラムの展開について解説する。	終了後、授業内容を復習する。	20
11	公衆栄養プログラムの展開	地域診断から目的と目標を設定し、事業計画を作成し、評価するPDCAサイクルに基づきレポートを作成する。	終了後、授業内容を復習する。	20

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	公衆栄養プログラムの展開	地域診断から目的と目標を設定し、事業計画を作成し、評価するPDCAサイクルに基づきレポートを作成する。	終了後、授業内容を復習する。	20
13	公衆栄養プログラムの展開	地域診断から目的と目標を設定し、事業計画を作成し、評価するPDCAサイクルに基づきレポートを作成する。	終了後、授業内容を復習する。	20
14	公衆栄養プログラムの展開	地域診断から目的と目標を設定し、事業計画を作成し、評価するPDCAサイクルに基づきレポートを作成する。	終了後、授業内容を復習する。	20
15	公衆栄養プログラムの展開	地域診断から目的と目標を設定して、事業計画を作成し、評価するPDCAサイクルに基づきレポートを作成する。	終了後、授業内容を復習する。	20

授業名	栄養教育特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎岡部 聡子			
開講期	後期			
授業の概要	日本における栄養問題に関連した文献を検索し、課題を抽出する。英語論文にも触れ、英訳して内容を把握することそして、論文に必要な構成要素について理解する。			
授業の到達目標	日本における栄養問題について理解し、研究方法について手順を述べることができる。 単位認定の最低基準は、「論文作成の方法論を7割理解していること。」			
履修条件	修士課程 1 年生	成績の 評価方法・基準	文献検索と英語論文翻訳：60点 論文形式で自分の意見をまとめる：40点	
テキスト	佐々木敏著、「栄養データはこう読む！」、女子栄養大学出版			
参考書	Pub Med、google scholar で検索した論文、中村丁次が紐解くジャパンニュートリッション			
学生への要望	積極的に授業に臨むこと。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係	課題探求力、創造的思考力			
オフィスタイム	水曜日1コマ、5コマ			
アクティブラーニング実施内容	受講生間で、互いの文献紹介や意見交換をしながら授業を進行していきます。各回で各自が自分の意見を伝え、相手の意見を聞く場となります。			
実務家教員の経歴	看護師・管理栄養士として医療機関に勤務			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進め方や評価方法の説明、論文検索の仕方	講義の内容をまとめる	120
2	日本の栄養における課題を探る	教科書を読み、栄養データの見方を学ぶ。	文献・資料を読む	180
3	日本の栄養における課題を探る	教科書を読み、栄養データの見方を学ぶ。	文献・資料を読む	180
4	海外の栄養課題について探る	文献・資料を集め読みこむ。	文献・資料を読む	180
5	海外の栄養課題について探る	文献・資料を集め読みこむ。	文献・資料を読む	120
6	海外の英語論文の要約	文献の和訳、要約。	文献・資料を読む	120
7	海外の英語論文の要約	文献の和訳、要約。	文献・資料を読む	120
8	海外の英語論文の要約	文献の和訳、要約。	文献・資料を読む	180
9	海外の英語論文の要約	文献の和訳、要約。	文献・資料を読む	120
10	栄養調査の方法を学ぶ	食物摂取頻度調査を知る。	文献・資料を読む	120
11	栄養調査の方法を学ぶ	国内の食物摂取頻度調査結果を紐解く。	論文を書く	600
12	栄養調査の方法を学ぶ	海外の食物摂取頻度調査結果を紐解く。	論文を書く	600
13	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	論文の書き方を学び、文章をまとめる。	論文を書く	300
14	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	論文の書き方を学び、文章をまとめる。	論文を書く	120
15	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	自身の研究計画の発表をし、他者の研究計画についても共有する。	論文を書く	120

授業名	生活統計学演習	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 1単位 選択	
担当教員名	◎未定			
開講期				
授業の概要	実社会で生じる様々な問題の原因を探索し解決する際には多変量解析などの手法が有効である。また様々な製品は一定の規格を満たすよう生産されるが、個々の製品は基準値からのずれを有する。これらのずれを管理し一定の品質で供給するには統計学の知識が必要となる。本演習では統計学を理解するための数学、基本的な統計処理、多変量解析などを学ぶことにより、統計学を実際の問題に応用できるよう学修する。 フィードバックとして、課題の実施内容・結果に対し具体的な指摘をする。			
授業の到達目標	本演習では統計学の手法を適用できるようになることを目的とする。具体的な目標は（１）統計学に必要な数学を理解すること、（２）実験・調査や生産管理で用いられる統計学の考え方を理解すること、（３）統計処理ソフトを用いて基本的な仮説検定や適合度の検定を行うことができること、である。 単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること			
履修条件	なし。	成績の 評価方法・基準	成績評価は課題によるものとし、配点の配分は、課題Iを50%、課題IIを50%とする。	
テキスト	前半は、テキストを PDF として Web 上で配信する(同PDFの印刷物を授業時に配布する)。 後半は、印刷物を授業時に配布し、テキストとして使用する。			
参考書	・前野 昌弘, 三國 彰, 図解でわかる統計解析, 日本実業出版社 ・涌井 良幸, 涌井 貞美, 図解でわかる多変量解析, 日本実業出版社 ・縣 俊彦 やさしい栄養・生活統計学、南江堂 ・宮城重二、健康・栄養・生活の統計学、光生堂			
学生への要望	事前に配布資料に目を通しておき、理解できない部分を確認しておくこと。自ら参考書等にあたり、筆算による確認や統計処理を行ってみること。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション 石原・諏訪	本時の前半では、本演習で行う目的・内容・単位数・成績評価方法など説明を行う。後半では次回以降の授業の準備として単位と次元について学ぶ。	復習として日常で用いる単位の次元を調べてみること。	30
2	統計数学基礎Ⅰ（指数関数・数列と極限・和と和の記号） 石原	統計処理を正しく実行するには、基礎的な数学を理解しておく必要がある。統計処理の基礎である正規分布を理解する上で必要な指数関数や多数のデータを扱う上で必要な数列と和について学ぶ。	指数法則をもとに正の冪と負の冪が乗算と除算に対応していることを再度確認すること。	30
3	統計数学基礎Ⅱ（確率） 石原	統計の基礎には確率の概念がある。確率の概念を理解するために場合の数（順列と組合せ）を学ぶ。次に確率変数を導入し、確率の考え方を理解する。	順列と組合せ具体例をあげ、それぞれの場合の数を計算してみること。	45
4	統計数学基礎Ⅲ（平均値・分散・標準偏差） 石原	基本的な統計量として平均値や標準偏差がある。これまで学んだ確率変数や確率の概念を用い、平均値の計算方法を学ぶ。さらに統計処理で重要な分散と標準偏差を理解し、具体的な計算方法を学ぶ。	平均値の性質や標準偏差の性質を整理すること。	30
5	統計数学基礎Ⅳ（ベクトルと行列） 石原	実際の統計処理ではデータをベクトルや行列により表現することが多い。統計処理を正しく行うためには、ベクトルや行列についての基礎事項を理解しておく必要がある。本時ではベクトルおよび行列の基礎事項について学ぶ。	ベクトルおよび行列の基本的な性質（和や積）の定義を再確認すること。	45
6	統計数学基礎Ⅴ（行列の演算・逆行列・固有ベクトル・固有値） 石原	行列の形式で表現されたデータからの特徴量などを抽出するために、行列の対角化が行われることが多い。対角化を理解するためには固有値や固有ベクトルの理解が欠かせない。そこで本時では、行列の演算に必要な逆行列および固有ベクトルと固有値について、これらの量がどのような意味を有するのか学ぶ。	2行2列の行列の任意のベクトルへの作用が、固有値と固有ベクトルにより特徴づけられることを、図示してみること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	不偏標準偏差・相関係数 石原	中心極限定理により、統計学において正規分布は特別な意味をもつ。正規分布を特徴付ける平均値と標準偏差は、データの平均値と不偏標準偏差を計算することによって得られる。ここでは不偏標準偏差の意味とその算出方法を学ぶ。また分散を拡張した共分散を学び、さらに関係性の指標として重要な相関係数を学ぶ。本時では受講生自身によりこれらの諸量をコンピュータを用いて算出することで、偏差や相関の意味を確認する。	コンピュータでランダムな列を生成し、平均値・不偏標準偏差を算出してみることに。	45
8	課題Ⅰ 石原	これまでに学んだ統計処理を実行するために必要な数学について修得状況を確認し、不十分な点について詳説することで、統計処理を行う上での基礎を確実なものとする。	課題を実施して不明瞭であった点について、確認をすること。	60
9	仮説検定Ⅰ 諏訪	パラメトリック仮説検定の基本的考え方を学ぶ。パラメトリックとは母数(平均、標準偏差など分布を規定するもの)があるということである。仮説検定は統計学、栄養・生活統計学の中で最も重要な分野である。帰無仮説、有意水準(危険率)、棄却、両側検定などの用語の意味について学ぶ。	各用語の意味について、およびなぜそのような手法を用いるのかについて、確認しておくこと。	30
10	仮説検定Ⅱ 諏訪	パラメトリック仮説検定の2回目として、平均値の差の検定(対応のある場合、対応のない場合)、比率の差の検定(χ^2 乗検定)等について学ぶ。	授業後に再度これらの検定法を行い、定着させること。また、どのような場合にこの手法を用いることができるのか考えること。	60
11	仮説検定Ⅲ 諏訪	パラメトリック仮説検定の3回目として、3群以上の平均値の同時比較ができる一元配置分散分析について学習する。例えば4地区でビタミンCの摂取量を調査し、地区により摂取量に差があるかどうかを検定する場合などに用いられる。栄養学や家政学の実務、研究において有効な検定法である。	授業後に再度これらの検定法を行い、定着させること。平均値の差の検定と一元配置分散分析の用法の違いを覚えること。	60
12	仮説検定Ⅳ 諏訪	ノンパラメトリック仮説検定。母集団の分布型について、仮定を設けない手法である。ここでは、ウィルコクソンの検定と、クラスカル・ウォリス検定について学ぶ。	ノンパラメトリックとパラメトリックの違いについて理解しておくこと。	60
13	疫学・保健統計Ⅰ 諏訪	疫学は集団の健康レベル(疾病現象)を測定し、その原因を解明するとともに予防対策を立案し、その効果を評価する、というすべての過程であると考えられている。疫学調査では各種の数値指標の計算法の理解と習熟が要求されるが、今回学んだ生活統計学が実際どのような場面に利用されるかを学習する。例えばクロス集計における χ^2 乗検定の利用などがそれにあたる。	自分の将来の仕事で予防対策を立てることを想像し、どのようなデザインで解析すればよいのかを考えてみる。	30
14	疫学・保健統計Ⅱ 諏訪	保健統計では、人口統計、人口動態・動態統計、粗死亡率、年齢調整死亡率などさまざまな用語が使用される。これらの用語を解説しながら保健統計の理解を深める。	様々な保健統計用語の定義や意味の違いについて、再確認しておくこと。	30
15	まとめ (課題Ⅱ) 諏訪	栄養・生活統計学演習のまとめとして「実際の例題」を解き、これまで学んだ統計用語の理解を深める。また、自分の専攻分野で研究テーマを立案し、統計を活用した計画を作成し、発表する。	状況に応じて適切な手法を選んで解析ができるように整理しておくこと。	60

授業名	食物栄養学特別講義Ⅰ		配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 1単位 選択
担当教員名	◎諏訪 雅貴			
開講期	前期			
授業の概要	運動生理学と食物・栄養の分野で、最近発展を遂げ、あるいは注目を集めているテーマについて、講義する。その場で質疑応答指導により相互に確認してフィードバックし、より理解を深める。			
授業の到達目標	運動生理学の分野で、最近発展を遂げ、あるいは注目を集めているテーマについて、考察し理解を深める。授業内容の80%以上の理解を求める。			
履修条件	修士課程		成績の 評価方法・基準	試験100%
テキスト	配付資料を用いる。			
参考書	運動生理学20講 第3版 朝倉書店			
学生への要望	常に世の中の動きに関心を持ち、特に運動・栄養・健康に関して、その関連分野について自ら追求し、深く学ぶ姿勢を身に付けてください。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム	月曜日3-5 限 場所 家政学館3階 生理学・食品衛生学研究室			
アクティブラーニング実施内容	特になし			
実務家教員の経歴	実務経験：企業にて、運動指導、体力づくり活動を活動を行った経験をもとに講義します。 実務経歴：企業の医務職運動トレーナーとして勤務			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	これからの授業内容、どのようなテーマについて深く掘り下げるのかについて説明し、検討する。	次回の授業に向け、指定した文献や書籍を読み込んでください。	30
2	骨格筋の構造と機能	骨格筋の構造と機能についての基本知識から最新の知見についてまでを学ぶ。	次回の授業に向け、指定した文献や書籍を読み込んでください。	30
3	筋力と筋パワー	筋力と筋パワーについての基本知識から最新の知見についてまでを学ぶ。	次回の授業に向け、指定した文献や書籍を読み込んでください。	30
4	運動と筋ATP代謝	運動と筋ATP代謝についての基本知識から最新の知見についてまでを学ぶ。	次回の授業に向け、指定した文献や書籍を読み込んでください。	30
5	運動時のホルモン分泌	運動時のホルモン分泌についての基本知識から最新の知見についてまでを学ぶ。	次回の授業に向け、指定した文献や書籍を読み込んでください。	30
6	運動時の糖質・脂質・蛋白質代謝	運動時の糖質・脂質・蛋白質代謝についての基本知識から最新の知見についてまでを学ぶ。	次回の授業に向け、指定した文献や書籍を読み込んでください。	30
7	運動と呼吸・心循環	運動と呼吸・心循環についての基本知識から最新の知見についてまでを学ぶ。	次回の授業に向け、指定した文献や書籍を読み込んでください。	30
8	運動と認知機能	運動と認知機能についての基本知識から最新の知見についてまでを学ぶ。	次回の授業に向け、指定した文献や書籍を読み込んでください。	30
9	運動と骨代謝	運動と骨代謝についての基本知識から最新の知見についてまでを学ぶ。	次回の授業に向け、指定した文献や書籍を読み込んでください。	30
10	運動時の栄養摂取・水分補給	運動時の栄養摂取・水分補給についての基本知識から最新の知見についてまでを学ぶ。	次回の授業に向け、指定した文献や書籍を読み込んでください。	30
11	運動と生活習慣病	運動と生活習慣病についての基本知識から最新の知見についてまでを学ぶ。	次回の授業に向け、指定した文献や書籍を読み込んでください。	30
12	運動と発育発達	運動と発育発達についての基本知識から最新の知見についてまでを学ぶ。	次回の授業に向け、指定した文献や書籍を読み込んでください。	30
13	トップアスリートの特性	トップアスリートの特性についての基本知識から最新の知見についてまでを学ぶ。	次回の授業に向け、指定した文献や書籍を読み込んでください。	30
14	トレーニングとコンディショニング	トレーニングとコンディショニングについての基本知識から最新の知見についてまでを学ぶ。	次回の試験に向け、これまでに読み込んだ文献や書籍を復習してください。	30
15	まとめと試験	この講義で学んだテーマについての試験を行い、全体のまとめを行う。	試験内容を見返してください。	30

授業名	科学的住生活特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 必修	
担当教員名	◎山形 敏明			
開講期				
授業の概要	住生活に時間の概念や動線計画、機能分類等の科学的分析法が導入されたのは、戦後のことです。その主目的は、女性の家事労働軽減にありましたが、今日、家庭電化製品等により、家事に要する時間は大幅に短縮されました。一方、この戦後の大きな目的がごく短期間に達せられたために、住生活の科学的分析法は不十分のまま、という好ましくない結果をもたらしました。 これからの住生活は、住まいが社会における原点、という普遍性を踏まえた上で、医学や環境学、色彩学等のあらゆる学問と有機的に連携しながら向上させなければなりません。本講義は、住生活における科学的分析法の成り立ち、及び次代に要求される手法を学ぶことを目的とします。 レポートはコメントによるフィードバックを行います。			
授業の到達目標	単位認定最低基準：「授業内容を7割理解し、住生活における科学的分析法の成り立ちの理解し、研究内容に適した分析手法を利用できるようになること」。			
履修条件	修士課程1年	成績の 評価方法・基準	レポート70％、プレゼンテーション30％	
テキスト	適宜プリント及び資料配付			
参考書	「今和次郎と現考学」河出書房新社 「ダ イニング キッチンはこうして誕生した」技報堂出版			
学生への要望	新聞等のニュースから、現代の住生活及び住まいにおける問題点を考えて下さい。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係	人間生活について総合的な視野を持ち、専攻分野に関する高度に専門化された知識で生活研究者として研究を進めることができる。 高度の専門性を要する職業等に必要な高度で卓越した能力を身につけている。 知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養がある。 広い分野の知識を統合して、専攻分野の特定の問題に対する解決策を示すことができる。			
オフィスタイム	水曜日13:00～16:10 本館3階 No.1住居学研究室			
アクティブラーニング実施内容	作成した課題について、プレゼンテーション・ディスカッションを実施			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講義のガイダンス	今後の講義の目的や内容について説明します。	授業内容について復習	60
2	住居論についての考察	わが国の戦後の住まいを方向付けた既往研究（今和次郎や西山卯三他）について、考察します。同時にこれらが、科学的検証に基づいて行われたものであることを確認します。	授業内容について復習	60
3	住まい計画における空間比	住宅のモジュールについて理解した上で、住まいにおける各室（各機能）がどのような構成（面積）比で成り立っているか、過去の論と照らしながら考えます。	授業内容について復習	60
4	空間分析	まず、空間分析の目的を学びます。次に、空間分析を行う場合、研究の視点をどこに置くか、視点の相違による分析方法の違いについて、事例を用いて考えます。さらに、住宅雑誌等から幾つかの事例を選択調査し、空間分析の手法を実際に学びます。	レポート準備	60
5	空間分析の手法Ⅰ	前講義に引き続き、住宅雑誌等から幾つかの事例を選択調査し、空間分析の手法を実際に学びます。	レポート準備	60
6	空間分析の手法Ⅱ	前講義に引き続き、住宅雑誌等から幾つかの事例を選択調査し、空間分析の手法を実際に学びます。	授業内容について復習	60
7	空間分析の手法Ⅲ	前講義に引き続き、住宅雑誌等から幾つかの事例を選択調査し、空間分析の手法を実際に学びます。これらをデータとしてまとめ、レポートを作成します。	授業内容について復習	60
8	子ども室の在り方Ⅰ	戦後の住まいにおいて、最も力点が置かれた空間として子ども室があげられます。しかし、近年、幾つかの事件から問題点が指摘されています。本講義では、問題の根底を考えながら、年齢、色彩、発達心理、空間構成、空間認知等の多方面からその在り方を考察します。	授業内容について復習	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	子ども室の在り方Ⅱ	前講義に引き続き、子どもの年齢、色彩、発達心理、空間構成、空間認知等の多方面から子ども室の在り方を考察します。	授業内容について復習	60
10	夫婦室の在り方	戦後の住まいにおいて、力点が置かれた子ども室に比し、夫婦室は軽視されがちでした。本講義では、その重要性について考察します。また、住まいに対する意識は、男女によって著しく異なる、とされていますが、住宅設計及びジェンダーフリーの視点から、男女双方にとっての住まいの理想について考えます。	授業内容について復習	60
11	台所の行方	戦後の台所は食物調達のみの機能から、食事空間の一体化という発展を遂げてきましたが、近年は生活の変化から、両者（食物調達、食事）の機能とも消滅する傾向が報告されています。このことは、現在の生活のみならず人間生活の歴史において、大きな問題であるといえます。これらのことを踏まえて、今後の台所について考察します。	レポート準備	60
12	住宅調査におけるアンケート作成Ⅰ	住宅調査におけるさまざまなアンケート調査について学び、実際に目的別にアンケートを作成します。	授業内容について復習	60
13	住宅調査におけるアンケート作成Ⅱ	前講義に引き続き、住宅調査におけるさまざまなアンケート調査について学び、実際に目的別にアンケートを作成します。	授業内容について復習	60
14	住宅調査におけるアンケート集計	前講義で作成したアンケートの集計を通して、住宅調査における集計方法及び統計について学びます。	レポート準備	60
15	まとめ	これまでの講義を総括します。	レポート準備	60

授業名	科学的住生活演習		配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員名	◎山形 敏明			
開講期				
授業の概要	本演習では、科学的住生活特論で修得した住生活における科学的分析法と次代に即した手法を演習する。事例を通し住生活における今日の問題点及びその背景を探り、それらの解決法をゼミ形式で討論しながら多角的に追求する。レポートは返却せず、コメントによるフィードバックを行います。			
授業の到達目標	本演習で修得した手法を十分理解するとともに活用できるようになること。また、その結果を空間表現または図式化する事ができるようになること。 単位認定最低基準：「内容の8割について理解していること」 ディプロマポリシーとの関係：「生活についての総合的な視野」「広い分野の知識」「問題に対する解決策を示す」			
履修条件	修士課程1年	成績の 評価方法・基準	定期的に課すレポートの評価60%、講義への事前学習と討論内容についての評価40%	
テキスト	使用しない。			
参考書	適宜、紹介する。			
学生への要望	関連の手法を用いた既往論文について十分な予習を行うこと。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係	人間生活について総合的な視野を持ち、専攻分野に関する高度に専門化された知識で生活研究者として研究を進めることができる。 高度の専門性を要する職業等に必要な高度で卓越した能力を身につけている。 知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養がある。 広い分野の知識を統合して、専攻分野の特定の問題に対する解決策を示すことができる。			
オフィスタイム	水曜日13:00～16:10 本館3階 No.1住居学研究室			
アクティブラーニング実施内容	作成した課題について、プレゼンテーション・ディスカッションを実施			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本演習の進め方及び概論を講義し、導引とする。	課題に取り組む	60
2	分析手法の検証（1）	日本建築学会等の文献を基に、科学的住生活特論で学修した科学的分析手法の複数の実例を概観する。	課題に取り組む	60
3	分析手法の検証（2）	（1）での実例について継続して分析する。	課題に取り組む	60
4	分析手法の検証（3）	（1）（2）で得た知見について討論する。	レポート準備	90
5	分析手法の検証（4）	レポートについてのプレゼンテーションを行う。	レポート準備	90
6	分析手法の研究への応用	各自の研究概要についてプレゼンテーションし、2～5回までの講義の中で修得した分析手法をそれらの研究内容に応用することが可能であるか討論する。	課題に取り組む	60
7	分析手法に基づく研究計画の検討	可能とされる分析手法を用いて研究計画を検討し、計画の妥当性を評価する。	課題に取り組む	60
8	住生活における建築防災上の問題点	今日的住生活における建築防災上の問題点について討論する。	課題に取り組む	60
9	住生活における建築防災上の対策	前講義で討論された問題点について、その対策の実情と社会的背景を踏まえて検討されるべき対策について考察する。	課題に取り組む	60
10	住生活における安全のための人間工学（1）	住生活における安全について人間工学的視点から検証する。人間の防災力と群集密度、過緊張と情報処理について科学的分析を試みる。	課題に取り組む	60
11	住生活における安全のための人間工学（2）	安全性能の評価について、イメージ評価、被害想定評価及び線形関数評価の問題演習を行う。	レポート準備	60
12	避難計画における行動特性	危急時における人間の行動特性について解析し、避難計画の考え方について討論する。	レポート準備	60
13	避難流動の解析	避難行動を予測する避難計算の問題演習を行う。	課題に取り組む	60
14	住宅設計の留意点	これまでの講義で修得した内容を元に、住宅設計上の留意点について整理検討する。	課題に取り組む	90
15	まとめ	各自レポートのプレゼンテーションを行う。 本講座の総括をする。	課題に取り組む	90

授業名	科学的住生活実験	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎長田 城治			
開講期				
授業の概要	本授業は、科学的住生活特論および科学的住生活実験で習得した住生活における科学的な分析方法を用い、住生活に関する各種実験・実習を行うことで実証的に住生活を理解する授業です。 自身が考える快適な住生活や居心地の良い住まいはどのようなものかを明確にし、住まいに対する利用者の心情を科学的に数値化し、解決する方策を実験を通して学修します。 最終授業で全体に対するフィードバックを行い、各種実験課題については、授業内で解説して返却します。			
授業の到達目標	①実験の準備や結果の考察をまとめることができたか。 ②安全に実験を行うことが出来たか。 ③快適な住生活や居心地の良い住まいを数値化できたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割を理解していること。			
履修条件	修士課程2年	成績の 評価方法・基準	①各種実験・実習に関するレポート（80％） ②実験ノートの最終提出物（20％）	
テキスト	特になし。 必要に応じてプリントを配布。			
参考書	必要に応じてプリントを配布。			
学生への要望	安全に実験を行い、レポートを必ず期日までに提出すること。 自身の住生活に関する不満や問題点を把握し、それらを改善するための方策を考えること。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム	月曜日9:00～10:30、火曜日9:00～10:30、本館4F No.2 住居学研究室			
アクティブラーニング実施内容	少人数による双方向型授業と各種実験			
実務家教員の経歴	特になし			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本授業の目的や実験・実習の概要について学びます。	授業内容の復習	60
2	【実験1】騒音レベルの調査・実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60
3	【実験1】騒音レベルの調査・実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60
4	【実験1】騒音レベルの調査・実験	騒音計を用いて、学内の騒音レベルを測定する。	実験結果の考察	60
5	【実験1】騒音レベルの調査・実験	騒音計を用いて、学外の騒音レベルを測定する。	実験結果の考察	60
6	【実験1】騒音レベルの調査・実験	騒音計を用いて、学外の騒音レベルを測定する。	実験結果の考察	60
7	【実験1】騒音レベルの調査・実験	調査・実験結果を基に、快適な教室環境を確保するために必要な手段を考察する。	実験ノートをまとめる	120
8	【実験1】騒音レベルの調査・実験	調査・実験結果を基に、快適な教室環境を確保するために必要な手段を考察する。	実験ノートをまとめる	120
9	【実験2】室内の温熱環境実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60
10	【実験2】室内の温熱環境実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60
11	【実験2】室内の温熱環境実験	夏涼しい住宅に関する工夫を住宅模型を用いて実験する。	実験結果の考察	60
12	【実験2】室内の温熱環境実験	夏涼しい住宅に関する工夫を住宅模型を用いて実験する。	実験結果の考察	60
13	【実験2】室内の温熱環境実験	冬暖かい住宅に関する工夫を住宅模型を用いて実験する。	実験結果の考察	60
14	【実験2】室内の温熱環境実験	冬暖かい住宅に関する工夫を住宅模型を用いて実験する。	実験結果の考察	60
15	【実験2】室内の温熱環境実験	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する	実験ノートをまとめる	120
16	【実験2】室内の温熱環境実験	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する	実験ノートをまとめる	120
17	【実験3】室内換気量実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60
18	【実験3】室内換気量実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	【実験3】室内換気量実験	室内換気について住宅模型を用いて実験する。 換気方式の種類ごとに測定し、空気の流れや換気量計算を行う。	実験結果の考察	60
20	【実験3】室内換気量実験	室内換気について住宅模型を用いて実験する。 換気方式の種類ごとに測定し、空気の流れや換気量計算を行う。	実験結果の考察	60
21	【実験3】室内換気量実験	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する。	実験ノートをまとめる	120
22	【実験3】室内換気量実験	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する。	実験ノートをまとめる	120
23	【実験4】室内照度調査	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する。	実験シートの作成	60
24	【実験4】室内照度調査	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60
25	【実験4】室内照度調査	照度計を用いて教室環境の明るさを評価する。	実験結果の考察	60
26	【実験4】室内照度調査	照度計を用いて教室環境の明るさを評価する。	実験結果の考察	60
27	【実験4】室内照度調査	調査結果を基に、快適な教室環境を確保するために必要な手段を考察する。	実験ノートをまとめる	120
28	【実験4】室内照度調査	調査結果を基に、快適な教室環境を確保するために必要な手段を考察する。	実験ノートをまとめる	120
29	まとめ	各種調査・実験で得られた成果を考察し、快適な住環境および居心地の良い住まいを提案する。	全ての実験ノートを見返して復習する	120
30	まとめ	各種調査・実験で得られた成果を考察し、快適な住環境および居心地の良い住まいを提案する。	全ての実験ノートを見返して復習する	120

授業名	生活環境実験	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎影山 志保			
開講期	前期			
授業の概要	生活習慣病が国民の健康に重要な問題となってきた。国民の死亡率一位は悪性新生物であり、部位別では肺の疾患が高齢者の直接の死亡原因になっている。この講義では、健康日本21で問題となる健康障害に対する対策を検討する。それら病原因子である化学物質や病原微生物・ウイルスの生活環境中での分析結果の文献調査試料に基づき、その対策を考察する。対象とする生活環境は、水・大気・土壌・食品・嗜好品などを取り扱う。生活環境特論を基礎に生活環境の評価実験を行ない、身の回りの生活環境のメカニズム知り深く理解することを目的とする。国立研究開発法人国立環境研究所での実務経験をもとに、環境問題について講義を行います。 [課題に対するフィードバック方法]レポート、課題発表に対しては紙面あるいは口頭によるコメント等のフィードバックを行います。			
授業の到達目標	生活習慣病が国民の健康に重要な問題となっている。国民の死亡率一位は悪性新生物であり、部位別では肺の疾患が高齢者の直接の死亡原因になっている。この実験では、健康日本21で問題となる健康障害の要因として水・大気・土壌・空気などの生活環境の評価を実験的に行う。生活環境を汚染している環境汚染物質が、食品や飲料水を介して、人間の健康にどのような問題を起こすのかについて実生活にあてはめ考えていくことを目標としている。			
履修条件	大学院修士課程の学生	成績の 評価方法・基準	①レポート100点	
テキスト	特になし ただし、資料や原著の活用			
参考書	特になし			
学生への要望	人間は環境からのストレスに影響を受けやすい集団が存在する。具体的には発達段階の子供であったり、高齢者、疾病の罹患者などである。幼児教育・栄養士・福祉士等はこれらの免疫弱者を対象とする職能であり、環境因子に影響を受けやすい人間集団の特性を化学的に理解しておく必要がある。環境因子や疾病については学生の要望を考慮する。			
位置付け・水準	なし			
ディプロマポリシーとの関係	なし			
オフィスタイム	月から金の5コマ目、食品衛生学研究室			
アクティブラーニング実施内容	実験結果について、結果の解析、ディスカッション、ディベートや発表などを行いながら進めていく。			
実務家教員の経歴	研究員として国立研究開発法人国立環境研究所に勤務			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	この科目を受講した理由と学びたい分野について説明していただく。テーマを個人的に設定する。テーマは病原菌(B)と毒性物質(C)を各1つ設定する。	自身の興味がある分野について、書籍、文献調査を行う。	60
2	テーマ(B)の基礎知識-1	病原菌（B）について実験計画を立案する。資料や原著を検討するために図書館を調査する。	自身の興味がある分野について、書籍、文献調査を行う。	60
3	テーマ(B)の基礎知識-2	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 テーマに関する概要：歴史経緯、危害	引き続き興味のある問題について、書籍、文献調査を行う。	60
4	テーマ(B)の基礎知識-3	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：環境分布、曝露条件、感染経路	興味のある問題について基礎知識をまとめ、講義で説明（発表）を行う。	60
5	テーマ(B)の基礎知識-4	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：病気の自然史など	興味のある問題について、最新の情報をまとめ、どんなことが問題なのかについて調	60
6	テーマ(B)の基礎知識-5	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：検出方法や毒性機構	興味のある問題について、その問題を調べるための方法を調べ考える。	60
7	テーマ(B)の基礎知識-6	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：生体の反応	興味のある問題について、実験を進めるための具体的手法をノートにまとめる。	60
8	テーマ(B)の実験-1	テーマ（B）について実験を行う。	結果の数値の示す意味について考える。	60
9	テーマ(B)の実験-2	テーマ（B）について実験を行う。	結果の数値の示す意味について考える。	60
10	テーマ(B)の実験-3	テーマ（B）について実験を行う。	結果から言えることを考え、文献によって裏付けする。	60
11	テーマ(B)の実験-4	テーマ（B）について実験を行う。	これらの問題について、結果からその問題点と解決するためにどんなことが提案できるのか考える。	60
12	テーマ(B)の実験-5	テーマ（B）について実験を行う。	これらの問題について、結果からその問題点と解決するためにどんなことが提案できるのか考える。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	テーマ(B)の実験-6	テーマ（B）について実験を行う。	報告会のプレゼンテーション資料の作成	60
14	テーマ(B)の実験-7	テーマ（B）について実験を行う。	報告会のプレゼンテーション資料の作成	60
15	テーマ（B）の発表会	8コマ目から14コマ目に行った実験結果をとりまとめたものについて報告会を行う。	報告会終了後、プレゼンテーションをまとめなおす。	60
16	テーマ(B)の基礎知識-1	毒性物質（C）について実験計画を立案する。資料や原著を検討するために図書館を調査する。	自身の興味がある分野について、書籍、文献調査を行う。	60
17	テーマ(C)の基礎知識-2	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 テーマに関する概要：歴史経緯、危害	興味のある問題について実際に実験を行った結果をまとめる。	60
18	テーマ(C)の基礎知識-3	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：環境分布、曝露条件、感染経路	実験結果を数値を解釈し、図表にまとめる。	60
19	テーマ(C)の基礎知識-4	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：病気の自然史など	結果の数値の示す意味について考える。	60
20	テーマ(C)の基礎知識-5	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：検出方法や毒性機構	結果から言えることを考え、文献によって裏付けする。	60
21	テーマ(C)の基礎知識-6	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：生体の反応	これらの問題について、結果からその問題点と解決するためにどんなことが提案できるのか考える。	60
22	テーマ(C)の実験-1	テーマ（C）について実験を行う。	結果の数値の示す意味について考える。	60
23	テーマ(C)の実験-2	テーマ（C）について実験を行う。	結果の数値の示す意味について考える。	60
24	テーマ(C)の実験-3	テーマ（C）について実験を行う。	結果から言えることを考え、文献によって裏付けする。	60
25	テーマ(C)の実験-4	テーマ（C）について実験を行う。	これらの問題について、結果からその問題点と解決するためにどんなことが提案できるのか考える。	60
26	テーマ(C)の実験-5	テーマ（C）について実験を行う。	これらの問題について、結果からその問題点と解決するためにどんなことが提案できるのか考える。	60
27	テーマ(C)の実験-6	テーマ（C）について実験を行う。	報告会のプレゼンテーション資料の作成	60
28	テーマ(C)の実験-7	テーマ（B）について実験を行う。	報告会のプレゼンテーション資料の作成	60
29	テーマ(C)の実験-8	テーマ（B）について実験を行う。	報告会のプレゼンテーション資料の作成	60
30	テーマ（C）の発表会	22コマ目から29コマ目に行った実験結果をとりまとめたものについて報告会を行う。	報告会終了後、プレゼンテーションをまとめなおす。	60

授業名	建築設計演習Ⅰ	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 4単位 選択	
担当教員名	◎佐久間 保一			
開講期				
授業の概要	住環境における安全と危険性を分析する。 住宅及び住環境におけるバリアフリー、ユニバーサルデザインの必要性を実際の建築物と法令を通して学ぶ。			
授業の到達目標	住環境における安全と危険性を分析する。 住宅及び住環境におけるバリアフリー、ユニバーサルデザインの必要性を実際の建築物と法令を通して学ぶ。			
履修条件	大学院修士課程	成績の 評価方法・基準	課題の提出と出席状況による	
テキスト	人にやさしいまちづくり条例 建築・都市のユニバーサルデザイン			
参考書				
学生への要望	建築環境におけるユニバーサルデザインの必要性を確認する。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1		授業ガイダンス、建築環境におけるユニバーサルデザインの現状。		0
2		住宅におけるバリアフリーと危険の予防。		0
3		住環境におけるシックハウスの予防と実際。		0
4		生活環境とユニバーサルデザイン		0
5		生活環境に求められる要素		0
6		バリアフリーデザインからユニバーサルデザインへ		0
7		多様な属性と環境		0
8		ユニバーサルデザインのプロセス		0
9		ユニバーサルデザインの手法		0
10		外部空間のユニバーサルデザイン		0
11		公共建築のユニバーサルデザイン		0
12		居住空間のユニバーサルデザイン		0
13		人にやさしい街づくり条例		0
14		①実際の建築図面においてユニバーサルデザインを取り入れる演習		0
15		②実際の建築図面においてユニバーサルデザインを取り入れる演習		0

授業名	建築設計演習Ⅱ	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 4単位 選択	
担当教員名	◎山形 敏明			
開講期				
授業の概要	建築設計演習Ⅰに引き続き、鉄筋コンクリート造や鋼構造、混構造の設計を、現代において必要とされる建築をテーマとして社会問題とリンクさせながら設計する。さらに、設計事務所等業務の一環であり、建築的思考およびその表現の効果的かつ集中的に実践できる建築コンペティションへの参加可能な作品制作をすることを目的とする。なお、この科目は一級建築士受験に係わる大学院における実務経験の要件となるインターンシップ科目である。			
授業の到達目標	高いレベルで自らの建築作品のコンセプト、計画の方法、その表現がなされていること。 優秀案選出を目指してコンペに応募することを目標とする。			
履修条件	修士課程1年	成績の 評価方法・基準	作品成果発表（コンセプト内容、計画方法の法的適正、斬新さ、表現の明解性、美しさ）で評価する。 評価項目は、知識力３０％、応用力・問題解決力７０％とする。	
テキスト	特に使用しない。			
参考書	課題説明時に適宜紹介する。			
学生への要望	実践的な知識と技術を持って、現実的な作品成果を目指すこと。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係	人間生活について総合的な視野を持ち、専攻分野に関する高度に専門化された知識で生活研究者として研究を進めることができる。 高度の専門性を要する職業等に必要の高度で卓越した能力を身につけている。 知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養がある。 広い分野の知識を統合して、専攻分野の特定の問題に対する解決策を示すことができる。			
オフィスタイム	水曜日13:00～16:10 本館3階 No.1住居学研究室			
アクティブラーニング実施内容	作成した課題について、プレゼンテーション・ディスカッションを実施			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス、課題説明	授業ガイダンス、課題説明	課題に取り組む	60
2	課題の主旨、関連事項のスタディー	課題の主旨、関連事項のスタディー	課題に取り組む	60
3	エスキスチェック	エスキスチェック	課題に取り組む	60
4	エスキスチェック	エスキスチェック	課題に取り組む	60
5	エスキスチェック	エスキスチェック	課題に取り組む	60
6	エスキスチェック	エスキスチェック	課題に取り組む	60
7	エスキスチェック	エスキスチェック	課題に取り組む	60
8	エスキスチェック	エスキスチェック	課題に取り組む	60
9	図面、模型作成	図面、模型作成	課題に取り組む	90
10	図面、模型作成	図面、模型作成	課題に取り組む	90
11	図面、模型作成	図面、模型作成	課題に取り組む	90
12	図面、模型作成	図面、模型作成	課題に取り組む	90
13	図面、模型作成	図面、模型作成	課題に取り組む	90
14	図面、模型作成	図面、模型作成	課題に取り組む	90
15	作品成果の発表、課題提出	作品成果の発表、課題提出	課題に取り組む	90
16	課題説明、資料収集	課題説明、資料収集	課題に取り組む	60
17	課題の主旨、関連事項のスタディー	課題の主旨、関連事項のスタディー	課題に取り組む	60
18	エスキスチェック	エスキスチェック	課題に取り組む	60
19	エスキスチェック	エスキスチェック	課題に取り組む	60
20	エスキスチェック	エスキスチェック	課題に取り組む	60
21	エスキスチェック	エスキスチェック	課題に取り組む	60
22	エスキスチェック	エスキスチェック	課題に取り組む	60
23	エスキスチェック	エスキスチェック	課題に取り組む	60
24	図面、模型作成	図面、模型作成	課題に取り組む	90
25	図面、模型作成	図面、模型作成	課題に取り組む	90
26	図面、模型作成	図面、模型作成	課題に取り組む	90
27	図面、模型作成	図面、模型作成	課題に取り組む	60
28	図面、模型作成	図面、模型作成	課題に取り組む	90
29	作品成果の発表、課題提出	作品成果の発表、課題提出	課題に取り組む	90
30	まとめ	本講座の総括をする。	課題に取り組む	90

授業名	建築設計特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎山形 敏明			
開講期				
授業の概要	建築分野における各種団体の業務や役割について学び、広く建築界の仕組みを知る。また、プロポーザルやコンペテーションの事例研究を通して、そのプロセスや社会的意義、コンセプトの立案手法、プレゼンテーションテクニックを学ぶ。なお、この科目は一級建築士受験に係る大学院における実務経験の要件となるインターンシップ科目である。 レポートは返却し、コメントによるフィードバックを行います。			
授業の到達目標	単位認定最低基準：講義内容 8 割を理解し、建築設計事務所等で業務に携わるための実践的手法及び技術者として倫理観を修得していること。			
履修条件	修士課程1年	成績の 評価方法・基準	レポート70％、プレゼンテーション30％の割合で評価する。	
テキスト	適宜、資料を配布する。			
参考書	適宜紹介する。			
学生への要望	今日の建築界の仕組みを把握するために、建設関連の新聞記事等に親しむこと。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係	人間生活について総合的な視野を持ち、専攻分野に関する高度に専門化された知識で生活研究者として研究を進めることができる。 高度の専門性を要する職業等に必要な高度で卓越した能力を身につけている。 知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養がある。 広い分野の知識を統合して、専攻分野の特定の問題に対する解決策を示すことができる。			
オフィスタイム	水曜日13:00～16:10 本館3階 No.1住居学研究室			
アクティブラーニング実施内容	作成した課題について、プレゼンテーション・ディスカッションを実施			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	授業のガイダンス、建築分野における諸団体の概要について解説する。	授業内容をテキストで復習	60
2	建築士の責務	建築士の責務及び、日本建築士会の業務及び役割について講義する。	授業内容をテキストで復習	60
3	日本建築学会について	建築関連業務に多くの基準を策定している日本建築学会の学術的位置づけについて解説する。	授業内容をテキストで復習	60
4	日本建築家協会について	JIA（日本建築家協会）の業務及び役割について講義する。	授業内容をテキストで復習	60
5	建設業協会について	建設業協会、福島県の木工組合他の業務及び役割について講義する。	授業内容をテキストで復習	60
6	防災と建築関連団体について	災害時における建築関連団体の役割と責務、及び活躍事例について講義する。	授業内容をテキストで復習	60
7	地方自治体との関係について	地方自治体と建築関連各種団体との関連について解説する。	授業内容をテキストで復習	60
8	入札制度について	プロポーザルやコンペテーションのプロセスについて講義する。	授業内容をテキストで復習	60
9	コンペテーションについて	コンペテーションの事例を紹介し理解を深める。	授業内容をテキストで復習	60
10	プロポーザルについて	プロポーザルの事例を紹介し理解を深める。	授業内容をテキストで復習	60
11	福島県の事例について	福島県におけるプロポーザルやコンペテーションにおいて建設された建築の事例研究を行う。	授業内容をテキストで復習	60
12	問題点について	プロポーザルやコンペテーションの事例における当落及び問題点等に関する議論する。	授業内容をテキストで復習	60
13	設計コンセプトと手法	プロポーザルにおける設計コンセプトの把握と立案手法について講義する。	授業内容をテキストで復習	60
14	表現テクニック	プロポーザルやコンペテーションにおける表現テクニックについて研究する。	授業内容をテキストで復習	60
15	まとめ	レポート発表を行い、本講座について総括する。	授業内容をテキストで復習	60

授業名	建築計画特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎山形 敏明			
開講期				
授業の概要	建築分野における各種団体の業務や役割について学び、広く建築界の仕組みを知る。また、プロポーザルやコンペテーションの事例研究を通して、そのプロセスや社会的意義、コンセプトの立案手法、プレゼンテーションテクニックを学ぶ。なお、この科目は一級建築士受験に係る大学院における実務経験の要件となるインターンシップ科目である。レポートを添削・返却し、コメントによるフィードバックを行います。			
授業の到達目標	単位認定の最低基準：「当講義内容の8割を理解していること」、「建築設計事務所等で業務に携わるための実践的手法及び技術者として倫理観を修得していること」			
履修条件	修士課程1年	成績の 評価方法・基準	レポート70%、プレゼンテーション30%の割合で評価する。	
テキスト	適宜、資料を配布する。			
参考書	適宜紹介する。			
学生への要望	今日の建築界の仕組みを把握するために、建設関連の新聞記事等に親しむこと。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係	人間生活について総合的な視野を持ち、専攻分野に関する高度に専門化された知識で生活研究者として研究を進めることができる。 高度の専門性を要する職業等に必要な高度で卓越した能力を身につけている。 知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養がある。 広い分野の知識を統合して、専攻分野の特定の問題に対する解決策を示すことができる。			
オフィスタイム	水曜日13:00～16:10 本館3階 No.1住居学研究室			
アクティブラーニング実施内容	作成した課題について、プレゼンテーション・ディスカッションを実施			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	授業のガイダンス、建築分野における諸団体の概要について解説する。	授業内容を復習	45
2	建築士の責務	建築士の責務及び、日本建築士会の業務及び役割について講義する。	授業内容を復習	45
3	日本建築学会について	建築関連業務に多くの基準を策定している日本建築学会の学術的位置づけについて解説する。	授業内容を復習	45
4	日本建築家協会について	JIA（日本建築家協会）の業務及び役割について講義する。	授業内容を復習	45
5	建設業協会について	建設業協会、福島県の木工組合他の業務及び役割について講義する。	レポート準備	60
6	防災と建築関連団体について	災害時における建築関連団体の役割と責務、及び活躍事例について講義する。	授業内容を復習	45
7	地方自治体との関係について	地方自治体と建築関連各種団体との関連について解説する。	授業内容を復習	45
8	入札制度について	プロポーザルやコンペテーションのプロセスについて講義する。	授業内容を復習	45
9	コンペテーションについて	コンペテーションの事例を紹介し理解を深める。	レポート準備	60
10	プロポーザルについて	プロポーザルの事例を紹介し理解を深める。	授業内容を復習	45
11	福島県の事例について	福島県におけるプロポーザルやコンペテーションにおいて建設された建築の事例研究を行う。	授業内容を復習	45
12	問題点について	プロポーザルやコンペテーションの事例における当落及び問題点等に関する議論する。	授業内容を復習	45
13	設計コンセプトと手法	プロポーザルにおける設計コンセプトの把握と立案手法について講義する。	授業内容を復習	45
14	表現テクニック	プロポーザルやコンペテーションにおける表現テクニックについて研究する。	レポート準備	60
15	まとめ	レポート発表を行い、本講座について総括する。	レポート準備	60

授業名	建築生産計画特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎堀井 勝典			
開講期				
授業の概要	1. 学科3年のときに学んだ施工を、さらに深く掘り下げ、施工のプロセスおよびその実務の関連などを有機的、絶対的に把握してもらうことを目的とする。 2. いずれ建築士を取得するための知識の習得。 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建築設計事務所社長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建築設計事務所社長を務める。			
授業の到達目標	1. 学科3年のときに学んだ施工を、さらに深く掘り下げ、施工のプロセスおよびその実務の関連などを有機的、絶対的に把握してもらうことを目的とする。 2. いずれ建築士を取得するための知識の習得。			
履修条件	修士課程 1 年生	成績の 評価方法・基準	授業20%、小テスト30%、小論文50%	
テキスト	図説建築施工入門、建築施工教科書			
参考書	特に指定しない			
学生への要望	少数なのでとにかく頑張ること。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	着工準備	設計、契約、営業活動、各種書類手続き		0
2	着工準備	建設産業の構造、施工管理、近隣関係		0
3	着工準備	敷地の確認、現場事務所、着工、測量		0
4	土工事、基礎工事	地下工事、根切り、近隣対策		0
5	土工事、基礎工事	杭打工事（最近の新工法）		0
6	躯体工事	鉄筋工事（加工図、製作図、検査）		0
7	躯体工事	現場における建方、鉄筋工事の流れ		0
8	躯体工事	コンクリート工事（躯体図、加工図、検査）		0
9	躯体工事	建物の解体		0
10	躯体工事	建築の工業化、設計の実務		0
11	仕上工事	躯体工事から仕上工事への移行		0
12	仕上工事	防水工事（下地、養生）		0
13	仕上工事	内屋の仕上工事（床、壁、天井）、施工例紹介		0
14	仕上工事	外部の仕上工事（タイル、吹抜）、施工例紹介		0
15	まとめ	最終まとめ、設計事務所の役割		0

授業名	建築構造計画特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎濱尾 博文			
開講期				
授業の概要	大学4年間で学んだ建築構造の基礎知識、または、これまで学んできた一般力学や物理学、数学の知識を結合して、建築デザインを行う上でこれらをどう活用し、どう計画していくのか、どのように応用、展開していくのか、具体的な事案、実際に直面する問題を交えながら学んでいく。 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所代表取締役を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所代表取締役を務める。			
授業の到達目標	大学4年間で学んだ建築構造の基礎知識、または、これまで学んできた一般力学や物理学、数学の知識を結合して、建築デザインを行う上でこれらをどう活用し、どう計画していくのか、どのように応用、展開していくのか、具体的な事案、実際に直面する問題を交えながら学んでいく。			
履修条件	大学院修士課程	成績の 評価方法・基準	試験100％	
テキスト	特に指定しない。			
参考書	特に指定しない。			
学生への要望	予習、復習を必ず行うこと			
位置付け・水準	GU1120			
ディプロマポリシーとの関係	内容の7割を理解していること			
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	「建築構造計画とは」建築設計との位置づけと社会的役割		1.5
2	構造計算モデル1	応用解析に用いる解析用モデルの作り方、基礎的ルール		1.5
3	構造計算モデル2	実物から解析可能なまでに単純化されたモデルの作り方		1.5
4	荷重と変形1	単純な架構モデルに力が加わった時の変形と曲げのモーメント		1.5
5	荷重と変形2	単純な架構モデルの応力図における釣り合いと反力		1.5
6	荷重と変形3	やや複雑な架構モデルの応力の求め方		1.5
7	荷重の考え方	建築設計で想定される荷重の種類と考え方		1.5
8	応用解析1	解析モデルの入力の方法		1.5
9	応用解析2	モデルの応力解析と結果の検証		1.5
10	応用解析3	実例に近いモデルの応力解析と結果の検証		1.5
11	断面算定1	応力度、断面に関する数値（断面2次モーメント）		1.5
12	断面算定2	応力度、断面に関する数値（断面係数）		1.5
13	座屈	座屈とは、座屈を起こすしくみ		1.5
14	たわみ	たわみが起こる仕組み、たわみ量と荷重の関係		1.5
15	保有水平耐力	保有水平耐力を求める意味と、必要保有水平耐力の決め方		1.5

授業名	建築材料特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員名	◎藤田 延幸		
開講期			
授業の概要	授業の到達目標及びテーマ 建築材料のもつ基本的特性を説明した上で、それが実際の建物でどのように組み合わせて施工されているかを理解してもらう。 将来の建築材料として、どのようなものが考えられるか予想する。 授業の概要 「材料」の理解を容易にするため、各種材料を構造的なものから、仕上の、機能的なものの順に説明し、基本を理解してもらう。次いで応用編、材料の組合せによってどのような効果が生まれ、その配慮をすることで醸し出される空間の色々を実例で示す。 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。		
授業の到達目標	授業の到達目標及びテーマ 建築材料のもつ基本的特性を説明した上で、それが実際の建物でどのように組み合わせて施工されているかを理解してもらう。 将来の建築材料として、どのようなものが考えられるか予想する。 授業の概要 「材料」の理解を容易にするため、各種材料を構造的なものから、仕上の、機能的なものの順に説明し、基本を理解してもらう。次いで応用編、材料の組合せによってどのような効果が生まれ、その配慮をすることで醸し出される空間の色々を実例で示す。		
履修条件	人間生活学研究科人間生活学専攻 1年生	成績の 評価方法・基準	定期試験により評価します。
テキスト	「建築材料（第四版）」編著：橋高義典、杉山央 市ヶ谷出版社 「建築材料教科書（第六版）」編著：建築材料教科書研究会 彰国社		
参考書	参考資料があれば配付します。		
学生への要望	積極的に授業に参加すること。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の概要説明	授業の概要説明		0
2	〔構造用材料〕 1. 木材	〔構造用材料〕 1. 木材		0
3	〔構造用材料〕 2. 構造用金属材料	〔構造用材料〕 2. 構造用金属材料		0
4	〔構造用材料〕 3. コンクリート	〔構造用材料〕 3. コンクリート		0
5	〔内外装材料〕 4. 非金属材料	〔内外装材料〕 4. 非金属材料		0
6	〔内外装材料〕 5. 石材	〔内外装材料〕 5. 石材		0
7	〔内外装材料〕 6. ガラス	〔内外装材料〕 6. ガラス		0
8	〔内外装材料〕 7. セラミック	〔内外装材料〕 7. セラミック		0
9	〔内外装材料〕 8. プラスチック	〔内外装材料〕 8. プラスチック		0
10	〔内外装材料〕 9. 左官材料	〔内外装材料〕 9. 左官材料		0
11	〔内外装材料〕 10. 塗装	〔内外装材料〕 10. 塗装		0
12	〔内外装材料〕 11. 外壁パネル	〔内外装材料〕 11. 外壁パネル		0
13	〔機能材料〕 12. 防水材料、防耐火材料、断熱材料	〔機能材料〕 12. 防水材料、防耐火材料、断熱材料		0
14	〔機能材料〕 13. 音響材料、免震・制振材料	〔機能材料〕 13. 音響材料、免震・制振材料		0
15	各種建築材料の組み合わせの効果・実例紹介	各種建築材料の組み合わせの効果・実例紹介		0

授業名	実務実習Ⅰ（インターンシップ）	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 6単位 選択	
担当教員名	◎山形 敏明			
開講期				
授業の概要	建築設計事務所等において建築設計及び工事監理を体験しつづ一連の業務内容を理解し、これらの実務を建築士の指導下において実習することで、大学及び大学院で学修した建築技術を実践的なものにし、技術者としての職業倫理を身につけることを目的とする。なお、この科目は一級建築士受験に係る大学院における実務経験の要件となるインターンシップ科目である。			
授業の到達目標	建築設計及び工事管理について、一連の業務内容を理解していること。建築士の指導下で、大学及び大学院で学修した建築技術を実践的なものにし、技術者としての職業倫理を身につけていること。			
履修条件	人間生活学専攻修士課程	成績の 評価方法・基準	成績は、指定された実習報告書（実習内容とその成果や考察を記したもの）及び実習成果の報告会における発表内容と質疑応答によって総合的に評価する。なお、成績評価の配分は応用力 4 0 %，発想力・活用力 6 0 %とする。	
テキスト	必要な資料は適宜配布する。			
参考書	必要な書籍や指針などは適宜紹介する。			
学生への要望	学生が建築士事務所に向向き、一級建築士の指導下において設計や工事監理に関わる業務の補助を行う。 実習期間中に実習日報を適宜提出し、実習終了後に実習報告書を提出して実習成果の報告会をおこなうこと			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係	人間生活について総合的な視野を持ち、専攻分野に関する高度に専門化された知識で生活研究者として研究を進めることができる。 高度の専門性を要する職業等に必要の高度で卓越した能力を身につけている。 知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養がある。 広い分野の知識を統合して、専攻分野の特定の問題に対する解決策を示すことができる。			
オフィスタイム	水曜日13:00～16:10 本館3階 No.1住居学研究室			
アクティブラーニング実施内容	実務実習を行う。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業計画	実習先にて一級建築士の指導下で建築設計と工事監理に関する実務訓練を行いつつ、その実務に必要な学習を行う。 学修時間は実習先の事務所における勤務時間内にて、計240時間の実習を行い、実習報告書の作成と発表を含めて270時間とする。実習内容の時間配分は概ね次の通りとする。実習の時期は、1年次の夏季及び春季休業の期間に行うことを原則とするが、実習先の業務の都合等により変更できる。 ・企画図面の作成実習（模型作成等を含む）：70～90時間 ・実習図面の作成実習（図面修正等を含む）：120～140時間 ・施工現場の工事監理実習：20～40時間 計230時間 ・実習報告書の作成と報告会：別途学内にて実施 総計240時間	実習報告書等の作成	60

授業名	実務実習Ⅱ（インターンシップ）	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 6単位 選択	
担当教員名	◎山形 敏明			
開講期				
授業の概要	建築設計事務所等において建築設計及び工事監理を体験しつづ一連の業務内容を理解し、これらの実務を建築士の指導下において実習することで、大学及び大学院で学修した建築技術を実践的なものにし、技術者としての職業倫理を身につけることを目的とする。なお、この科目は一級建築士受験に係る大学院における実務経験の要件となるインターンシップ科目である。			
授業の到達目標	建築設計及び工事管理について、一連の業務内容を理解していること。建築士の指導下で、大学及び大学院で学修した建築技術を実践的なものにし、技術者としての職業倫理を身につけるていること。			
履修条件	人間生活学専攻修士課程2年	成績の 評価方法・基準	成績は、指定された実習報告書（実習内容とその成果や考察を記したもの）及び実習成果の報告会における発表内容と質疑応答によって総合的に評価する。なお、成績評価の配分は応用力40％、発想力・活用力60％とする。	
テキスト	特になし。適宜参考図書を紹介する。			
参考書	必要な書籍や指針などは適宜紹介する。			
学生への要望	院生が実務実習Ⅰの学修内容を更に向上させるため、建築士事務所に出向き一級建築士の指導下において設計や工事監理に関わる業務の補助を行う。実習期間中に実習日報を適宜提出し、実習終了後に実習報告書を提出して実習成果の報告会をおこなうこと			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係	人間生活について総合的な視野を持ち、専攻分野に関する高度に専門化された知識で生活研究者として研究を進めることができる。 高度の専門性を要する職業等に必要の高度で卓越した能力を身につけている。 知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養がある。 広い分野の知識を統合して、専攻分野の特定の問題に対する解決策を示すことができる。			
オフィスタイム	水曜日13:00～16:10 本館3階 No.1住居学研究室			
アクティブラーニング実施内容	実務実習を行う。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業計画	実習先にて一級建築士の指導下で建築設計と工事監理に関する実務訓練を行いつつ、その実務に必要な学習を行う。 学修時間は実習先の事務所における勤務時間内にて、計240時間の実習を行い、実習報告書の作成と発表を含めて270時間とする。実習内容の時間配分は概ね次の通りとする。実習の時期は、1年次の夏季及び春季休業の期間に行うことを原則とするが、実習先の業務の都合等により変更できる。 ・企画図面の作成実習（模型作成等を含む）：70～90時間 ・実習図面の作成実習（図面修正等を含む）：120～140時間 ・施工現場の工事監理実習：20～40時間 計230時間 ・実習報告書の作成と報告会：別途学内にて実施 総計240時間	実習報告書等の作成	60

授業名	特別支援教育特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員名	◎小林 徹		
開講期	前期		
授業の概要	1. 特別支援教育を支える理念や歴史的変遷について理解する。 2. 特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。 3. さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもの理解の視点と方法について理解する。 4. 障がい児等の個別支援計画の作成、評価について理解する。 5. 特別支援教育の実際について理解を深める。 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。		
授業の到達目標	1. 特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。 2. 障がい児や特別な配慮を要する子どもの個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。 3. さまざまな障がいと障がい児や特別な配慮を要する子どもを支援するための視点と方法について理解できたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。		
履修条件	大学院人間生活学研究科人間生活学専攻修士課程の学生を中心とする	成績の 評価方法・基準	平常点50点（小テスト、提出物、授業態度による減点） 期末試験50点
テキスト	杉本敏夫監修、松井剛太他4名編著『シリーズ・最新はじめて学ぶ社会福祉 第23巻「特別支援教育と障害児の保育・福祉」』ミネルヴァ書房,2023		
参考書	授業内で紹介する。		
学生への要望	障がいや障がい児について関心をもち、学習を深めてほしい。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム	毎週水曜9：10～12：05、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		
アクティブラーニング実施内容	メンバーとのグループワークやディスカッションの場面で実施する。		
実務家教員の経歴	東京都の公立中学校において特別支援学級の担任教諭として25年間勤務した。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	特別支援教育の考え方	障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	特別支援教育の歴史	特別支援教育と障がい児保育の歴史的変遷について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	特別支援教育の制度と仕組み	特別支援教育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	発達障がいの理解と支援①	さまざまな発達理論の基礎概念と障がいとの関連について映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	発達障がいの理解と支援②	障がいの基礎概念とその発見、支援の流れについて映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	発達障がいへのアプローチ	映像を通して発達障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	障がい児の子育て	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実際を映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	知的障がい	映像を通して知的障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	自閉症	映像を通して自閉症に関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	その他の障がい	映像を通してその他の障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	障がい児支援の工夫	障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	他機関との連携	ゲストスピーカーを招いて、特別支援教育に関するさまざまな機関との連携について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	子ども理解と保育方法①	子どもとその特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	子ども理解と保育方法②	子どもとその特別な教育的ニーズから、個別の指導計画を作成し、適切で具体的な保育方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ	学習内容を振り返り、保育者として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

授業名	哲学的人間学特論 II	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 選択
担当教員名	◎齋藤 智志		
開講期			
授業の概要	【授業の目的・ねらい】 近代以降の哲学に決定的な影響を与えたドイツの哲学者カントは哲学の問いを、「私は何を知ることができるか」（認識論）、「私は何をなすべきか」（道徳論）、「私は何を望んでよいか」（宗教論）の三つに分類したうえで、これらを総合するのが「人間とは何か」という「人間学」の問いであるとしている。本授業は、主として認識論を扱う。道徳にせよ宗教にせよ、それを考えるにあたっては、まず認識論が土台となるからである。 【授業全体の内容の概要】 哲学的人間学的知見を生産的に継承し、人間学的に認識論を検討するうえで有益な見解を呈示しているO・F・ボルノーのテキストに沿いながら、「私は何を知ることができるか」という問題について考える。 【課題に対するフィードバックの方法】 毎授業ごとにレポートを課すので、次の時間にそれに関するフィードバックを行う。		
授業の到達目標	【達成目標】 ①合理論と経験論の内容を理解し、それらの問題点を指摘できる。 ②認識の哲学の課題を指摘できる。 ③ディルタイ、ベルグソン、デュエイ、ハイデガーといった哲学者の思想内容が理解できる。 【ディプロマ・ポリシー（DP）と授業科目との関連】 ①本授業は、DPにある「自立して研究を行うに十分な（……）人間生活に関する豊かな学識」を、認識論という切り口から陶冶する。 ②本授業は、DPにある「専門領域に関する問題解決のために取り組む態度」を、〈テキスト読解→レポート作成→フィードバック〉というサイクルを通して陶冶する。 ③本授業は、DPにある「新たな概念の構築に対して、十分な学識と革新性、自律性、倫理観を持って積極的に参画しようとする態度」を、抽象度の高い哲学のテキストを熟読し、読解・解明するという作業を通して陶冶する。 【単位認定方法の最低基準】 内容の8割を理解していること。		
履修条件	博士課程 1 年	成績の 評価方法・基準	
テキスト			
参考書			
学生への要望			
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

[illegible]

授業名	人間生体特論Ⅱ	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎西山 慶治			
開講期				
授業の概要	人体を構成する基本的構造と機能を学ぶため、細胞、組織、器官並びに系統別レベルで学修します。この学修によりヒトが進化して現在の構造と機能を獲得する過程で、人体に具現化された自然の法則を学びます。授業の中間（8回目終了時）に小問のレポートを課し、内容をフィードバックします。これには人体解剖（38年間の教授暦）と機能形態学を基盤に指導する。 ナンバリング 1、3			
授業の到達目標	人体について構造と機能を理解し、さらに人類の進化を学修することによりヒトの形態と機能を概説できる。内容の7割を理解することを希望します。			
履修条件	大学院に籍をおき、人類の進化に興味を抱くこと	成績の 評価方法・基準	レポート2回を50点ずつにして、計100点として成績とします。	
テキスト	講義プリントを配布して使用			
参考書	シンプル解剖生理学、入門人体解剖学、他			
学生への要望	人体の構造と機能を学び、ヒトの存在について考える。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	解剖学総論	人体とは、自然の法則が人体を借りて具現化されたものである。その法則を人体の基本構造から学ぶ。	人体の基本的形態、特徴、進化、系統、器官、組織、細胞などの基本的用語を確認する。	60
2	細胞学	生命の最小単位である細胞について、その構造と機能を学ぶ。	細胞の構造と機能、遺伝子の働きを復習する。	90
3	組織学総論	人体を構成する上皮組織、支持組織、筋組織並びに神経組織について学ぶ。	人体の4つの組織の概念を調べる。	30
4	骨格系Ⅰ	人体の支柱である骨格の組織構造と役割、発生、機能・経年変化、骨の連結を学ぶ。	骨の構造、組織、働き、連結、発生を調べる。	60
5	骨格系Ⅱ	各骨格の名称と形状を学び、各部位での役割を理解して人体の特徴を学ぶ。	主要な骨の名称と形状を学び、関節の動きを考える。	60
6	筋系	骨格筋の概略を学び、運動器としての役割を理解する。	筋肉の種類、筋収縮、主要な筋の作用を調べる。	60
7	消化器系Ⅰ	消化器の各部位の構造を学び、消化機能の概略を理解する。	消化器の各部の位置、名称、形、役割をまとめる。	90
8	消化器系Ⅱ	消化器の主要部位の組織構造と機能を学ぶ。	消化腺の名称、位置、役割をまとめる。	60
9	呼吸器系	呼吸器の各部位の構造を学び、呼吸機能の概略を理解する。	呼吸器系の主要部位の名称、位置、形態、働きを調べる。	60
10	泌尿・生殖器系	尿の生成と排泄を担う器官の構造と機能を学ぶ。生殖器の構造、性差、発生並びにその機能を学ぶ。	泌尿・生殖器の主要部位の名称、形状、役割をまとめる。	60
11	脈管系、内分泌系	心臓を中心とした循環器の構造と役割を学ぶ。ホルモンを使って情報を伝達する内分泌系の構造と働きを学ぶ。	体液の循環、心臓の位置、構造、全身の主要血管を調べる。	90
12	神経系Ⅰ	中枢神経系の脳と脊髄の位置、構造、機能について学ぶ。	脳と脊髄の形状、位置、働きを調べる。	60
13	神経系Ⅱ	末梢神経の脳神経と脊髄神経並びに自律神経について学ぶ。	末梢神経の主要なものの名称と分布を調べる。	30
14	感覚器系	人体の情報入力器官である感覚器の構造と機能を学ぶ。	5感の感覚器の名称、形、働きをまとめる。	60
15	発生学	人体の発生と形成を学び、人類の特徴を理解する。	人体の発生と成長並びに老化を考える。	30

授業名	健康生活特別研究	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 4単位 選択	
担当教員名	◎紺野 信弘			
開講期				
授業の概要	健康生活特別研究は「大学院博士課程」で開講しているので、博士論文の執筆指導と関連論文の講読である。			
授業の到達目標	【単位認定方法と最低基準】出席を重視します。英語論文の翻訳と論文執筆の進行状況に注目します。学術誌への投稿にも注目します。【デプロマポリシーと授業科目の関連】①知識の獲得とその理解、②総合的な学習経験と創造的思考の獲得			
履修条件	大学院博士課程の院生	成績の 評価方法・基準	英文講読20点、論文執筆80点 合計100点満点	
テキスト	特にありません。授業に必要な印刷物は配布します。			
参考書	国民衛生の動向 Healthy women, healthy lives. a harvard medical school book ISBN 978-0-7432-1774-3			
学生への要望	論文執筆に関連してできるだけ多くの学術論文を読むこと。			
位置付け・水準	ありません。			
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマポリシーに「自立して研究を行うに十分な専攻分野に関する最先端の知識と人間生活に関する豊かな学識を持ち合わせている」がある。従って、本授業では、博士論文を執筆しながら研究とは何かを教授する。			
オフィスタイム	アポイントメントを取ってもらえば、都合の良い時間を設定します。			
アクティブラーニング実施内容	予定はありません。			
実務家教員の経歴	ありません。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	健康とはなにかについて調べる	60
2	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	生活習慣病について考察する	60
3	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	疫学の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
4	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	疫学の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
5	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	疫学の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
6	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	疫学の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
7	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	疫学の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
8	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	疫学の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
9	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	疫学の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
10	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	疫学の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
11	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	疫学の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
12	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	疫学の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
13	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	疫学の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
14	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	疫学の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
15	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	疫学の問題点、注目点などを日常的に考える。	60

授業名	健康生活特論Ⅱ	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎紺野 信弘			
開講期				
授業の概要	人間の健康について、英文専門書の翻訳を通して学習する。翻訳の過程で疫学的な考え方についての講義も行う。集団の健康を扱うのに必要な統計の手法についても学ぶ。博士論文作成用の学術論文の講読。【課題に対するフィードバックの方法】博士論文執筆に必要と思われる英文の原著論文を読む。博士論文の、特に考察を記述するのに役立つ。			
授業の到達目標	人間の健康、特に人間集団の健康を知る上での疫学的考え方の重要性を学ぶ。講義を通じて博士論文作成の手順を学習する。【単位認定方法と最低基準】出席及び講義中で翻訳した英文のレポート提出。【デプロマポリシーと授業科目の関連】①知識の獲得とその理解、②総合的な学習経験と創造的思考の獲得			
履修条件	大学院博士(後期課程)の院生	成績の 評価方法・基準	英文講読の和訳の提出60点、レポート提出40点 合計100点満点	
テキスト	特にありません。			
参考書	特にありません。 多くの英文（原著論文）を読む。			
学生への要望	授業では、パソコンを使用することがあるので、パソコンは常に持参すること。			
位置付け・水準	ありません。			
ディプロマポリシーとの関係	デプロマポリシーの一つに「高度な専門的な業務に従事するに必要な高度な研究能力と豊かな学識を持ち、専門領域に関する問題解決のために取り組む態度を身につけている」がある。博士の学位論文執筆の過程で、学術雑誌を読み、教員と議論しながらこれらの能力を会得していく。			
オフィスタイム	アポイントを取ってもらえば都合の良い時間を設定します。			
アクティブラーニング実施内容	特に予定はない。			
実務家教員の経歴	ありません。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	健康の概念	健康とはなにかを、公衆衛生学の立場から、あるいはWHO憲章、日本国憲法の生存権から考える。	健康とはなにかについて調べる	60
2	健康の概念	健康とはなにかを、公衆衛生学の立場から、あるいはWHO憲章、日本国憲法の生存権から考える。	健康とはなにかについて調べる	60
3	疫学（１）	疫学とは。疫学の歴史。個人の健康から集団の健康へ。	疫学の概念について調べる	60
4	疫学（２）	疫学とは。疫学の歴史。個人の健康から集団の健康へ。	疫学の概念について調べる	60
5	保健統計（１）	集団の健康評価に必要な保健統計について。人口静態統計と人口動態統計について。	人口静態・動態統計の違いを調べる	60
6	保健統計（２）	集団の健康評価に必要な保健統計について。人口静態統計と人口動態統計について。	人口静態・動態統計の違いを調べる	60
7	英文講読（１）	健康系の英文原著論文の講読	講義の時間内にできなかったところを翻訳する。	60
8	英文講読（２）	英文講読（１）の続き。論文の解釈と解説	講義の時間内にできなかったところを翻訳する。	60
9	英文講読（３）	英文講読（２）の続き。論文の解釈と解説	講義の時間内にできなかったところを翻訳する。	60
10	英文講読（４）	英文講読（３）の続き。論文の解釈と解説	講義の時間内にできなかったところを翻訳する。	60
11	女性の健康（１）	英文講読"Healthy women, healthy lives"米国ハーバード大学医学部から出版されている「女性の健康的な生き方」についてのテキストをもとに"健康"について考える	与えられた部分の和訳を行う	60
12	女性の健康（２）	上記テキストの中にある、"看護師の健康研究とは"について英文和訳をしながら学習する。	英文和訳の継続	60
13	女性の健康（３）	"健康研究"を講読しながら疫学について解説、学習する。	和訳部分を解釈し意味の理解に努める	60
14	女性の健康（４）	"健康研究"を講読しながら疫学について解説、学習する。	和訳部分を解釈し意味の理解に努める	60
15	女性の健康（５）	"健康研究"を講読しながら疫学について解説、学習する。	和訳部分を解釈し意味の理解に努める	60

授業名	家政学原論特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 必修	
担当教員名	◎影山 彌			
開講期				
授業の概要	故関口富左名誉学園長が提唱された、「新しい家政学のパラダイム」について、現代における学問観、科学観及び家政学原論を通して、その今日的意味を検証するとともに、その発展的展開の可能性を探る。			
授業の到達目標	本学の「新しい家政学のパラダイム」のもつ、現在および将来の学問としての家政学に対する可能性について認識できること。			
履修条件	大学院 人間生活学研究科人間生活学専攻博士課程1年	成績の 評価方法・基準	発言力（20％） レポート（80％）	
テキスト	関口富左『家政哲学』家政教育社1977、関口富左編著『人間守護の家政学』家政教育社			
参考書	O.F.ボルノー著、大塚恵一他訳『人間と空間』セリカ書房1978 G.バシュラル著、岩村行雄訳『空間の詩学』思潮社1969 サン＝テグジュペリ著、山崎庸一郎訳『城砦』みすず書房1976			
学生への要望	参考文献を事前に読むことに努める。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	「家政学の新しいパラダイムについてⅠ」	1984年、オスロー大学で開催された国際家政学会で発表した、「家政学の新しいパラダイムⅠ」、すなわち新しい家政学の理念論について解説する。	講義資料について復習する。	60
2	「家政学の新しいパラダイムについてⅡ」	新しい家政学の構想における、独自の方法論の探求（構築）について解説する。	講義資料について予習・復習する。	60
3	「家政学の新しいパラダイムについてⅢ」	新しい家政学の構想における、公的政策の領域設定について解説する。	講義資料について予習・復習する。	60
4	『家政哲学』の理解（1）	関口富左編著『家政哲学』第三章人間守護の家政学を通して、「家政学の新しいパラダイムⅠ」の家政学の理念論を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
5	『家政哲学』の理解（2）	『家政哲学』第三章の理解を通して、「家政学の新しいパラダイムⅡ」の独自の方法論を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
6	『家政哲学』の理解（3）	『家政哲学』第六章人間守護と社会を通して、「家政学の新しいパラダイムⅢ」の公的政策の領域を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
7	サン＝テグジュペリ『城砦』の理解	『家政哲学』の思想の基盤の一つとなっている、サン＝テグジュペリにおける「住むこと」の意味を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
8	G.バシュラル『空間の詩学』の理解	G.バシュラルにおける「住むこと」の哲学的意味を捉える。	講義資料について予習・復習する。	60
9	O.F.ボルノー『人間と空間』の理解	『家政哲学』の大きな哲学的基盤となっている、O.F.ボルノーにおける「住むこと」の人間学的意味を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
10	O.F.ボルノー 「人間とその家」の理解	O.F.ボルノーにおける「住むこと」の人間学的意味を捉える。	講義資料について予習・復習する。	60
11	M.ハイデガー『建てる、住む、学ぶ』の理解	M.ハイデガー 晩年の思想の転換といわれる、彼の「住むこと」の意味を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
12	関口富左編著『人間守護の家政学』の理解（1）	『人間守護の家政学』第2部家政学原論を通して、本学家政学の理念、「人間守護」、目的を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
13	『人間守護の家政学』の理解（2）	第2部家政学原論を通して、本学家政学の定義・対象・方法を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
14	『人間守護の家政学』の理解（3）	第2部家政学原論を通して、本学家政学の独自性・体系構造・行為・技術などを理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
15	本学家政学のパラダイムの検証	本学家政学のパラダイムが妥当性を有するかどうか、現代の科学編、学問編から検証する。	講義資料について予習・復習する。	60

授業名	社会福祉学特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員名	◎村田 清		
開講期			
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、ジェントルティーチングなどの社会福祉の理論を学び、社会福祉の法制度がどのように整備・改正されてきたのかを踏まえて、社会福祉の現状と課題について理解する。さらに、児童家庭福祉。高齢者福祉、障害者福祉、地域福祉などの各領域について、実践に基づいた考察・研究を深める 〔授業全体の内容の概要〕 資料に基づいて講義をし、文献、映像、写真などを参考に理解を深め、質疑や討論を行って社会福祉の全体像を把握する。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 社会福祉の理論を理解し、福祉援助者として必要な基礎的知識・技術や倫理性を習得する。		
授業の到達目標	〔授業の目的・ねらい〕 ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、ジェントルティーチングなどの社会福祉の理論を学び、社会福祉の法制度がどのように整備・改正されてきたのかを踏まえて、社会福祉の現状と課題について理解する。さらに、児童家庭福祉。高齢者福祉、障害者福祉、地域福祉などの各領域について、実践に基づいた考察・研究を深める 〔授業全体の内容の概要〕 資料に基づいて講義をし、文献、映像、写真などを参考に理解を深め、質疑や討論を行って社会福祉の全体像を把握する。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 社会福祉の理論を理解し、福祉援助者として必要な基礎的知識・技術や倫理性を習得する。		
履修条件	大学院生	成績の 評価方法・基準	レポート(50)、授業態度や研究意欲等（50）により総合的に評価する。
テキスト	特に指定しない		
参考書	国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会発行）		
学生への要望	社会福祉の理念や意義を理解し、地域社会での人々の支えあいの在り方を学んでほしい。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション、社会福祉とは何か	オリエンテーション、社会福祉の基礎概念と現代社会について学習する。		0
2	社会福祉の歴史と変遷	社会福祉の歴史とその移り変わりについて、我が国と諸外国のあらましを学習する		0
3	社会福祉をめぐる近年の動向	高齢化・少子化の進展と時代の変化に対応した法律や制度の改正について学習する。		0
4	社会福祉基礎構造改革とノーマライゼーション	ノーマライゼーションやリハビリテーション理念の浸透や現代社会に影響を与えている社会福祉理論について学習する。		0
5	子ども家庭福祉の現状と課題	次世代育成や子育て支援・少子化対策など子供家庭福祉の現状と課題について学習する。		0
6	高齢者福祉の現状と課題	介護保険やさまざまな高齢者福祉サービスについて理解を深める。		0

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	障害者福祉の現状と課題	障害児者の福祉について、我が国の障害者施策や、ソーシャルインクルージョンの考え方を理解し、今後の障害者福祉を展望する。		0
8	地域福祉の現状と課題	地域の住民福祉の現状や社会福祉協議会の活動を学び、日常生活支援事業など地域の新しい支え合いについて学習する。		0
9	社会福祉サービス利用者の権利擁護	社会的に弱い立場にある人の人権を守る制度や思想について、また非暴力の支援理論であるジェントルティーチングを学習する。		0
10	社会福祉の行政組織と関係機関	社会福祉を担う行政組織や関係機関の役割や業務の内容について学習する。		0
11	社会福祉サービスの担い手	社会福祉サービスを担う専門職や従事者の現状と業務の内容について学習する。		0
12	社会福祉援助技術と援助の原則	社会福祉サービスを実施する理論や方法と基本的な原則について学習する。		0
13	社会福祉施設等の社会資源	社会福祉サービスを実際に行う施設や地域の社会資源、ネットワークについて学習する		0
14	社会福祉専門職の倫理と行動規範	社会福祉専門職の諸団体における倫理綱領等を通して求められる援助者の態度や理念について学ぶ。		0
15	まとめ	社会福祉の理念や制度についてまとめを行い、人間の地域生活や支えあうコミュニティのあり方を考える。		0

授業名	家族関係学特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎知野 愛			
開講期	後期			
授業の概要	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を家族社会学的視点から考察する。筆記試験を実施後、採点后それを返却しフィードバックする。			
授業の到達目標	達成目標は、最終の筆記試験で7割以上の得点をとること。 単位認定の最低基準:内容の7割を理解していること。			
履修条件	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年	成績の 評価方法・基準	筆記試験(50点)、課題提出物(50点)	
テキスト	木下謙治監修『家族社会学 基礎と応用』九州大学出版会 2019年			
参考書	随時提示			
学生への要望	授業に関連するテーマの新聞記事や書籍を積極的に読むこと。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム	火曜Ⅱ限10:45-12:05、Ⅲ限13:05-14:25 地域創成学科No.1研究室(芸術館1階)			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の進め方と概要	シラバスに基づき、授業概要、授業目標、成績評価の付け方、今後の授業予定等を説明する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
2	家族とは何か	人間と家族、家族と世帯、家族構成、家族の変容について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
3	家族の変動	家族変動論、産業化と家族変動の諸側面、家族変動の行方について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
4	配偶者選択と結婚	配偶者の選択、結婚選択への過程、結婚について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
5	夫婦関係	夫婦関係に関する社会学的視点、家制度と夫婦関係、近代家族と夫婦関係、夫婦の勢力関係と情緒関係等について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
6	親子関係	社会学から見た親子関係、家族周期と親子関係、ひとり親世帯・ステップファミリー・事実婚における親子関係について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
7	高齢者と家族	現代社会における高齢者、高齢者の家族構成、高齢者と家族の関係性、老親扶養と家族関係について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
8	結婚の多様化と家族	近代的な結婚、日本における近代的な結婚規範、企業社会と結婚等について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
9	生殖補助医療と家族	生殖補助医療とは、諸問題、日本での状況、生殖補助医療をめぐる裁判事例他について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
10	少子化と子育て環境	日本の少子化の状況、第二の少子化期の社会的動向、少子化対策、少子化の要因と背景等を考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
11	青少年問題と家族	青少年の定義と最近の若者たち、青少年問題としての非行、非行少年と家族、青少年問題からみた現代家族等について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
12	高齢者介護の諸問題	高齢者介護の動向と家族の抱える諸問題、家族政策と高齢者介護等について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	授業全体の振り返り・筆記試験	授業全体の内容を振り返り、理解度を確認するために筆記試験を実施する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
14	補足	国際養子縁組における親子関係、アメリカにおける状況等について学ぶ。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
15	筆記試験の結果講評・フィードバック	筆記試験の結果を返却し講評、フィードバックする。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60

授業名	生活技術特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 必修	
担当教員名	◎山形 敏明			
開講期				
授業の概要	生活技術においては衣食住の観点から分野別に捉えられがちだが、生活技術の定義として「自己の生活を守り、より人間らしい関係を互いが創っている条件づくり（略）」とあることから、人間が生活する上でのあらゆるカテゴリーを複合しての技術を獲得し人間的自立を目指す領域であると考え。よって授業では人が生活すると言うことを「住む」という視点から、人間生活上の総合的考察等を講義する。授業の方法は、あらかじめ指定の資料を用意し、その内容について受講生が報告する形式で授業を進める。またレポートの提出を求めることもある。レポートは確認後その内容に基づき討論する。			
授業の到達目標	単位認定最低基準：「生活分野における科学技術について、基礎理論、応用技術他について現状と課題点について80％以上理解し、課題解決に当たる能力を有していること」			
履修条件	博士課程1年	成績の 評価方法・基準	討議50%、プレゼンテーション20%、レポート30％で評価。	
テキスト	特に用いない。			
参考書	必要に応じてプリント配布または参考文献を紹介する。			
学生への要望	問題の解決にあたって、すでに身に付けた技能を適用するだけでなく、講義の諸過程で出る現象や結果に対する深い洞察力と考察力を自ら養成することを心がけること。各テーマの最終回には、講義内容に関するレポートの提出を求める。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係	自立して研究を行うに十分な専攻分野に関する最先端の知識と人間生活に関する豊かな学識を持ち合わせている。 高度に専門的な業務に従事するに必要な高度な研究能力と豊かな学識を持ち、専門領域に関する問題解決のために取り組む態度を身につけている。 新たな概念の構築に対して、十分な学識と革新性、自律性、倫理観を持って積極的に参画しようとする態度を身につけている。			
オフィスタイム	水曜日13:00～16:10 本館3階 No.1住居学研究室			
アクティブラーニング実施内容	作成した課題について、プレゼンテーション・ディスカッションを実施			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	講義の内容と進め方の説明。	次回テーマの予習。	60
2	生活技術の定義	生活技術の定義について概説し、①生理物理的機能、②心理的機能、③社会的機能、のそれぞれの意味することの機能は社会的文化やライフスタイルの変化とともに変化することを理解する。	講義内容の復習。	60
3	高度経済成長と社会的変化 (1)	高度経済成長期における家庭生活の変化、変革について解説する。	講義内容の復習。	60
4	高度経済成長と社会的変化 (2)	住まいにおける生活形態の変化について、解説と討論を行う。	講義内容の復習。	60
5	住居形態の変遷	明治以降の住居形態の変遷と家族関係の変化について解説する。	講義内容の復習。	60
6	住まいに必要な環境整備	住まいの熱環境、空気環境と湿気、光環境、音環境についての特性について解説する。	講義内容の復習。	60
7	子育て世代の住まい方	子育て世代に必要な生活技術について解説、討論する。	講義内容の復習。	60
8	高齢者と住まい	高齢化社会におけるサステナブルな住まいと心身機能の特性について解説し、討論する。	講義内容の復習。	60
9	自立支援のため住居	自立支援のための住居改善について解説し、討論する。	講義内容の復習。	60
10	人生100年時代の生活	人生100年時代と言われる現代において、青年期、子育て期、老年期、介護期についてどのように生活技術は昇華すべきか討論する。	講義内容の復習。	60
11	IT化における現代家庭の生活機能	IT化が進む現代社会において、生活機能および技術の変化に対する対応の課題について討論する。	講義内容の復習。	60
12	断捨離について	住まい生活においての断捨離のメリットとデメリット、プライオリティの評価について考察し、討論する。	講義内容の復習。	60
13	技術と技能	生活技術としての衣食住、福祉について理論修得から技術及び技能の発展のシステムについて考察し、討論する。	講義内容の復習、並びにプレゼンテーションの準備。	80
14	まとめ	これまでの講義で得た基礎理論、応用技術、課題可決についてまとめプレゼンを行う。	課題点の復習。	60
15	総括と評価	生活技術におけるこれまでの講義内容を総括し、14回目で行われたプレゼンテーションについて評価する。	レポート提出準備。	60

授業名	生活情報特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎宮崎 正俊			
開講期	前期			
授業の概要	情報は私たちの生活に深く浸透し、限りなく重要な役割を担っている。 もはや情報を正しく認識し、情報を有効に活用することが、豊かで充実した生活や社会活動には必要不可欠な時代になっている。 本講義ではそのような情報を多様な視点から考察する。 最終授業では、全体に対するフィードバックを行う。課題・レポート提出後、フィードバックの時間を設定し連絡する。			
授業の到達目標	情報の重要性を深く理解し、生活や社会活動において正しく有効に活かすことができる。 単位認定の最低基準ディプロマ・ポリシーとの関係：課題探求力、創造的思考力、総合的発想力は内容の7割を理解していること。 ☒ ☒ ☒			
履修条件		成績の 評価方法・基準	出席とレポート レポートは自分の言葉で書くこと	
テキスト	使用しない			
参考書				
学生への要望	問題意識をもって授業に出てほしい☒			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	情報とは何か（1）	情報の意味と役割について考察する。		0
2	情報とは何か（2）	同上つづき。		0
3	情報の科学（1）	情報の科学的側面を学ぶ。		0
4	情報の科学（2）	同上つづき。		0
5	情報の処理	コンピュータの概要を学ぶ。		0
6	情報の蓄積	データベースの意義とその構築を学ぶ。データサイエンスの概要		0
7	情報の流通	コンピュータネットワークの仕組みと利用を学ぶ。		0
8	経営と情報	企業のための情報活用のあり方を考察する。 DX（デジタルトランスフォーメーション）の実現		0
9	教育と情報	情報教育と教育における情報技術の活用を考察する。		0
10	地域と情報	地域振興のための情報活用を考察する。		0
11	産業と情報	さまざまな産業における情報活用のあり方を考察する。 IOT(internet of things)の概要		0
12	家庭と情報	暮らしの中の情報を考察する。		0
13	情報技術の潮流	最新の情報技術を俯瞰する。		0
14	情報社会論	情報社会の恩恵と情報セキュリティを考察する。		0
15	まとめ	講義のまとめとこれからの社会を考察する。		0

授業名	高齢社会特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎紺野 信弘			
開講期				
授業の概要	高齢化を背景に健康寿命の延伸は個人及び社会にとって喫緊の課題であることから、健康寿命を阻害する主な生活習慣病の概略を述べ、根拠に基づく予防法について解説する。福祉の分野では、介護の問題について介護保険制度と関連させて解説する。建築の分野では、「高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）が施工されている。高齢社会を考慮した住宅計画上の構成要素について扱う。			
授業の到達目標	【デプロマポリシーと授業科目の関連】①知識の獲得とその理解、②総合的な学習経験と創造的思考の獲得。③博士論文執筆用に研究しているテーマの考察に資するようにする。			
履修条件	大学院博士課程の院生	成績の 評価方法・基準	出席とレポート提出（100点）。レポートは3つの異なる課題が課せられる。	
テキスト	特に指定はない。			
参考書	特に指定はない。			
学生への要望	この授業は、「高齢社会」をキーワードに公衆衛生、福祉、建築の3分野の教員が分担して担当しているので、欠席しないようにすること。			
位置付け・水準	ありません。			
ディプロマポリシーとの関係	デプロマポリシーの一つである、「新たな概念の構築に対して、十分な学識と革新性、自律性、倫理観をもって積極的に参画しようとする態度を身につけている」を学位論文執筆を通して、文献あるいは教員との議論の中で会得する。			
オフィスタイム	アポイントを取ってもらえば都合の良い時間を設定します。			
アクティブラーニング実施内容	ありません。			
実務家教員の経歴	ありません。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	健康の概念（紺野）	「高齢社会」を考える上で高齢者の健康問題は避けて通れない。初めに健康とは何かを公衆衛生の面から考察する。	健康問題は日々の新聞記事やニュースなどに取り上げられるので、関心をもってそれらに接して欲しい。	60
2	疫学とは（紺野）	疫学は集団の健康を考える上で有力なツールとなる。疫学の歴史、種類等を学び健康問題に対する利用について考える。	疫学の概念について調べる	60
3	保健統計（紺野）	人口動態・静態統計をもと（少子）高齢化問題を考える。	我が国の少子高齢化について調べる。	60
4	成人期の健康（紺野）	成人期の健康はそれに続く高齢期の健康維持にも関係する。生活習慣病を基に成人期の健康について考える。	興味ある生活習慣病について調べる。	60
5	高齢者の健康（大西）	老化とは何かを考察し、加齢による生体の生理的变化や生活の質について考える。	高齢者の生活の質（QOL）について調べる。	60
6	健康寿命と平均寿命（紺野）	主な死因と人口動態。	寿命・死因・人口動態などについて予習・復習をしましょう。	60
7	高齢者の健康管理（大西）	高齢者の健康と死因。	高齢者の疾患・死因などについて予習・復習をしましょう。	60
8	栄養と代謝 糖尿病の諸問題（大西）	栄養と代謝。 糖尿病の定義、分類、合併症、治療、予防。	糖尿病について予習・復習をしましょう。	60
9	認知症（影山）	認知症の定義、分類、症状、治療、予防。	認知症について予習・復習をしましょう。	60
10	運動器（紺野）	運動器の構造と機能。 サルコペニア。 ロコモティブシンドローム。 廃用症候群の概要と予防。	運動器の主な疾患について予習・復習をしましょう。	60
11	バリアフリー法とは（山形）	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）の成立の経緯と背景について解説する。	バリアフリー法について調べる。	60
12	バリアフリーとユニバーサルデザインについて（山形）	バリアフリーとユニバーサルデザインの共通点と相違点について解説し、本質的方向性について考察する。	ユニバーサルデザインについて調べる。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	旧ハートビル法について (山形)	バリアフリー法制定により廃止された高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律（旧ハートビル法）について解説する。	ハートビル法について調べる。	60
14	高齢者と障害者の特性 (影山)	高齢者、障害者の特性について整理し、双方に配慮した環境整備の促進について解説する。	高齢者の生活行動について調べる。	60
15	建築設計標準について (山形)	高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準について解説し、設計標準の不十分な点を考察する。	高齢者、障害者の生活に考慮した住宅例を調べる。	60

授業名	食物栄養学特別研究	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 4単位 選択	
担当教員名	◎大西 弘太郎			
開講期				
授業の概要	論文作成における仮説の設定，材料と方法の選定，検定，エビデンスの評価などについて学ぶ。 論文の構成，図表の作成，考察の方法などについて理解する。 英語学を初めとした語学力を培う。 担当教員；大西 弘太郎，岡部 聡子，西山 慶治。			
授業の到達目標	単位認定の最低基準：(必ずしも独力でなくてもよいが)研究の発題、文献検索、研究計画の立案、材料と方法の確立、論文作成の一連の流れを習得することができること。			
履修条件	大学院博士課程1年	成績の 評価方法・基準	小テスト (20%) レポート (80%)	
テキスト	特になし。			
参考書	文献等を検索する。			
学生への要望	(可能な範囲で)英語論文の作成を行う。基礎となる英文医学用語の習得に努めること。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム	月曜日：13:00～16:00。 火曜日：13:00～16:00。 木曜日：13:00～16:00。			
アクティブラーニング実施内容	随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。			
実務家教員の経歴	実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。 実務経験：医師として医療機関に勤務している。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	興味のあるテーマ、研究方法、研究報告などを挙げてみる。	興味を持っているテーマを列挙してみる。	60
2	論文収集①	興味を持っているテーマについての情報の収集を行う。 文献の調査方法について学ぶ。	文献検索。	60
3	論文収集②	興味を持っているテーマについて文献検索を行う。その上で必須な論文，参考になる論文，違った見解が記載されている論文などに振り分ける。	文献検索。	60
4	文献閱讀①	テーマにあった論文を選出する。論文は原著論文が望ましい。	文献閱讀。	60
5	文献閱讀②	論文を輪読する。出来れば総説から始めるのが望ましい。	文献閱讀。	60
6	文献閱讀③	論文を輪読する。出来れば総説から始めるのが望ましい。	文献閱讀。	60
7	文献閱讀④	論文を輪読する。出来れば総説から始めるのが望ましい。	文献閱讀。	60
8	文献閱讀⑤	論文を輪読する。出来れば(letter, note, reportなどではなく)full paperが望ましい。	文献閱讀。	60
9	文献閱讀⑥	論文を輪読する。出来れば(letter, note, reportなどではなく)full paperが望ましい。	文献閱讀。	60
10	文献閱讀⑦	論文を輪読する。出来れば(letter, note, reportなどではなく)full paperが望ましい。	文献閱讀。	60
11	文献閱讀⑧	論文を輪読する。出来れば(letter, note, reportなどではなく)full paperが望ましい。	文献閱讀。	60
12	研究テーマの決定	研究のテーマを決定する。	文献検索。	60
13	研究計画の立案①	研究計画を(主として材料と方法について)立案する。	文献閱讀。	60
14	研究計画の立案②	研究計画を(主として期待される結果と考察について)立案する。	文献閱讀。	60
15	研究活動①	計画に基づき、研究を進める。	文献とデータのまとめ。	60
16	研究活動②	計画に基づき、研究を進める。	文献とデータのまとめ。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
17	研究活動③	計画に基づき、研究を進める。	文献とデータのまとめ。	60
18	研究活動④	計画に基づき、研究を進める。	文献とデータのまとめ。	60
19	研究結果のまとめ①	結果を(主として図や表などに)まとめる。	文献整理。	60
20	研究結果のまとめ②	結果を(主として文章に)まとめる。	文献整理。	60
21	研究結果のまとめ③	結果を(主として引用文献などと絡めて)まとめる。	文献整理。	60
22	研究発表の準備①	研究発表に向けて、(主として図や表の)プレゼンテーションの準備を行う。	プレゼンテーションの準備。	60
23	研究発表の準備②	研究発表に向けて、(主として文章も含めたスライドの体裁などの)プレゼンテーションの準備を行う。	プレゼンテーションの準備。	60
24	研究発表の準備③	卒業研究発表会に向けて、(主として発表原稿の)プレゼンテーションの準備を行う。	プレゼンテーションの準備。	60
25	研究発表(口頭発表)	口頭発表の予行演習を行う。	口頭発表の準備。	60
26	研究論文作成①	研究内容を論文に(主として題目、要旨を中心に)まとめる。	論文をまとめる。	60
27	研究論文作成②	研究内容を論文に(主として図や表を中心に)まとめる。	論文をまとめる。	60
28	研究論文作成③	研究内容を論文に(主として本文を中心に)まとめる。	論文をまとめる。	60
29	研究論文作成④	研究内容を論文に(主として引用文献を中心に)まとめる。	論文をまとめる。	60
30	まとめ	論文作成，語学力の向上などについて、まとめを行う。	論文作成のまとめ、レポート作成。	60

授業名	食物栄養学特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎大西 弘太郎			
開講期				
授業の概要	ヒトの健康における特徴について学ぶ。 栄養と疾病の関わりについて理解する。 英語学を初めとした語学力を培う。 担当教員；大西 弘太郎、岡部 聡子、西山 慶治。			
授業の到達目標	単位認定の最低基準：(必ずしも独力でなくてもよいが)研究の発題、研究計画の理解、文献検索、論文要旨の把握とプレゼンテーションの一連の流れを習得することができること。			
履修条件	大学院博士課程1年	成績の 評価方法・基準	小テスト (20%) レポート (80%)	
テキスト	特になし。			
参考書	文献等を検索する。			
学生への要望	英語論文の輪読を行う。基礎となる英文医学用語の習得に努めること。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタйм	月曜日：13:00～16:00。 火曜日：13:00～16:00。 木曜日：13:00～16:00。			
アクティブラーニング実施内容	随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。			
実務家教員の経歴	実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに研究を行う。 実務経歴：医師として医療機関に勤務している。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション。	興味のあるテーマ、研究方法、研究報告などを挙げてみる。	興味を持っているテーマを列挙してみる。	60
2	論文収集①	興味を持っているテーマについての情報の収集を行う。文献の調査方法について学ぶ。	文献検索。	60
3	論文収集②	興味を持っているテーマについて文献検索を行う。その上で必須な論文、参考になる論文、違った見解が記載されている論文などに振り分ける。	文献検索。	60
4	文献閱讀①	テーマにあった論文を選出する。論文は原著論文が望ましい。	文献閱讀。	60
5	文献閱讀②	論文を輪読する。出来れば総説から始めるのが望ましい。	文献閱讀。	60
6	文献閱讀③	論文を輪読する。出来れば総説から始めるのが望ましい。	文献閱讀。	60
7	文献閱讀④	論文を輪読する。出来れば総説から始めるのが望ましい。	文献閱讀。	60
8	文献閱讀⑤	論文を輪読する。出来れば(letter, note, reportなどではなく)full paperが望ましい。	文献閱讀。	60
9	文献閱讀⑥	論文を輪読する。出来れば(letter, note, reportなどではなく)full paperが望ましい。	文献閱讀。	60
10	文献閱讀⑦	論文を輪読する。出来れば(letter, note, reportなどではなく)full paperが望ましい。	文献閱讀。	60
11	文献閱讀⑧	論文を輪読する。出来れば(letter, note, reportなどではなく)full paperが望ましい。	文献閱讀。	60
12	論文閱讀⑨	論文を輪読する。研究計画、研究方法などで独創的な論文が望ましい。	文献閱讀。	60
13	文献閱讀⑩	論文を輪読する。研究結果、研究討論などで独創的な論文が望ましい。	文献閱讀。	60
14	論文閱讀⑪	論文を輪読する。写真、図表の表し方などで独創的な論文が望ましい。	文献閱讀。	60
15	まとめ	論文の読み方、結果の解釈、討論の進め方、語学力の向上などについて、まとめを行う。	文献閱讀のまとめ、レポート作成。	60

授業名	空間環境計画学特別研究	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 4単位 選択	
担当教員名	◎山形 敏明			
開講期				
授業の概要	空間環境計画学特論に連動させ、院生個々人の研究の新規性、学術性、家政学的効果に関する目標を明確にするため、俯瞰的視点から関連する応用対象分野の評論や最新の研究成果に基づく自己学習、教員からの講義、院生・教員の共同論考、小論文の整理体系化、さらには関連するシンポジウム等への参加など、効果的と考えられる多様な方法を広範囲に活用し、博士論文作成の発展的展開を図る。小論文は討議によるフィードバックを行います。			
授業の到達目標	自立して研究を行うための専攻分野に関する最先端の知識と周辺領域に関する豊かな学識を十分に持ち合わせていること。また自らの研究の意義や新規性を明確化させていること。 単位認定最低基準：「授業内容の理解度が80％以上であり、独立して研究を進められる基礎を有していること」			
履修条件	博士（後期）課程	成績の 評価方法・基準	プレゼンテーション20％、討論30％、レポート提出20％、小論文 30％で評価する。	
テキスト	特に使用しない。			
参考書	必要に応じて、文献や関連資料を指定する。			
学生への要望	問題解決にあたって、すでに身に付けている知識・技能を適用するだけではなく、研究の諸過程で出現した現象や結果に対する深い洞察力、考察力、応用力を自ら養成することを心がけること。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係	自立して研究を行うに十分な専攻分野に関する最先端の知識と人間生活に関する豊かな学識を持ち合わせている。 高度に専門的な業務に従事するに必要な高度な研究能力と豊かな学識を持ち、専門領域に関する問題解決のために取り組む態度を身につけている。 新たな概念の構築に対して、十分な学識と革新性、自律性、倫理観を持って積極的に参画しようとする態度を身につけている。			
オフィスタイム	水曜日13:00～16:10 本館3階 No.1住居学研究室			
アクティブラーニング実施内容	作成した課題について、プレゼンテーション・ディスカッションを実施			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	講義の進め方、講義内容の説明を行い導入とする。	講義内容の復習	60
2	関連分野に関する整理	関連分野における研究開発・導入例の整理（教員からの講義）	講義内容の復習と次回の準備	90
3	関連分野に関する整理	関連分野における研究開発・導入例の整理（教員からの講義・討議）	討議結果による問題点の整理	60
4	関連分野に関する整理	関連分野における研究開発・導入例の整理（院生による自己学習の報告・討議）	論点整理	60
5	関連分野に関する整理	関連分野における研究開発・導入例の整理（教員からの講義）	論点整理と小論文作成	90
6	関連分野に関する整理	関連分野における研究開発・導入例の整理（小論文提出・討議）	教員の指摘に基づく再整理	60
7	社会効用的意義の調査	研究内容の社会効用的意義の整理（教員からの講義）	講義内容の復習と次回の準備	60
8	社会効用的意義の調査	研究内容の社会効用的意義の整理（教員からの講義・討議）	教員のコメントによる再整理	60
9	社会効用的意義の調査	研究内容の社会効用的意義の整理（院生による自己学習の報告・討議）	論点整理と小論文作成	90
10	社会効用的意義の調査	研究内容の社会効用的意義の整理（小論文提出・討議）	教員の指摘に基づく再整理	60
11	学術的新規性の調査	研究内容の学術的新規性の整理（教員からの講義）	講義内容の復習と次回の準備	60
12	学術的新規性の調査	研究内容の学術的新規性の整理（教員からの講義・討議）	討議結果による問題点の整理	60
13	学術的新規性の調査	研究内容の学術的新規性の整理（院生による自己学習の報告・討議）	論点整理と小論文作成	90
14	学術的新規性の調査	研究内容の学術的新規性の整理（小論文提出・討議）	教員の指摘に基づく再整理	60
15	研究テーマの成果と既存の理論	研究テーマの成果と既存の理論・実験結果との照合及び考察（教員からの講義）	講義内容の復習と次回の準備	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
16	研究テーマの成果と既存の理論	研究テーマの成果と既存の理論・実験結果との照合及び考察（教員からの講義・討議）	討議結果による問題点の整理	60
17	研究テーマの成果と既存の理論	研究テーマの成果と既存の理論・実験結果との照合及び考察（院生による自己学習の報告・討議）	論点整理と小論文作成	90
18	研究テーマの成果と既存の理論	研究テーマの成果と既存の理論・実験結果との照合及び考察（小論文提出・討議）	教員の指摘に基づく再整理	60
19	研究テーマの論点、付加的価値	研究テーマの論点、付加的価値、適用範囲などの整理（教員からの講義）	講義内容の復習と次回の準備	60
20	研究テーマの論点、付加的価値	研究テーマの論点、付加的価値、適用範囲などの整理（教員からの講義・討論）	討議結果による問題点の整理	60
21	研究テーマの論点、付加的価値	研究テーマの論点、付加的価値、適用範囲などの整理（院生による自己学習の報告・討議）	論点整理と小論文作成	90
22	研究テーマの論点、付加的価値	研究テーマの論点、付加的価値、適用範囲などの整理（小論文提出・討議）	教員の指摘に基づく再整理	60
23	まとめ方の調査	学術論文のまとめ方（教員からの講義）	講義内容の復習と次回の準備	60
24	まとめ方の調査	学術論文のまとめ方（教員からの講義・討議）	討議結果による問題点の整理	60
25	まとめ方の調査	学術論文のまとめ方（院生による自己学習の報告・討議）	論点整理と小論文作成	90
26	まとめ方の調査	学術論文のまとめ方（小論文提出・討議）	教員の指摘に基づく再整理	60
27	プレゼンテーション	プレゼンテーション方法の調査（教員からの講義）	講義内容の整理とプレゼンテーション準備	90
28	プレゼンテーション	プレゼンテーション（学生からのプレゼンテーションと教員との討議）	指摘に基づく再整理	60
29	プレゼンテーション	プレゼンテーション（学生からの2回目のプレゼンテーションと教員との討議）	総合評価を受けるための面談準備	60
30	総合評価	研究内容の総合評価（討議・教員よりの評価）	指摘に基づくまとめ	60

授業名	空間環境計画学特論	配当年次 単位数	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎山形 敏明			
開講期				
授業の概要	自然（空間）環境学分野では、人間生活の衣食住や自然環境を対象として、人間の健康や社会背景について文献調査や実際の測定を通して、人間生活における問題点や課題を評価する。また、人間生活の安全安心を目指した改善方法も模索する。住（空間）環境分野においては、住空間、都市空間について計画学の観点及び環境工学の観点から講義する。住空間では、空間の構成原理、技術と住宅計画など計画分野の構成要素について扱う。都市空間については、都市の空間計画、都市インフラに関する基礎知識、都市防災、ユニバーサルデザインについて扱う。環境工学分野では、住空間の熱性能、温熱環境の計測、空気環境の測定法などを講義する。 授業の方法は、各専門分野の授業を数回ずつ各教員がオムニバス形式で行う。あらかじめ指定の資料を用意し、その内容について受講生が報告する形式で授業を進める。またレポートの提出を求めることもある。レポートは確認後その内容に基づき討論する。			
授業の到達目標	単位認定最低基準：「各専門分野における科学技術について、基礎理論、解析手法、設計技術、応用システム他について現状と機能や役割を80％以上理解し、自らの研究において課題解決に当たる能力を有していること」			
履修条件	博士（後期）課程	成績の 評価方法・基準	討議50%、プレゼンテーション20%、レポート 3 0 % で評価。	
テキスト	特に用いない。			
参考書	テーマ毎に担当教員から指定する。			
学生への要望	問題の解決にあたって、すでに身に付けた技能を適用するだけでなく、講義の諸過程で出る現象や結果に対する深い洞察力と考察力を自ら養成することを心がけること。各テーマの最終回には、講義内容に関するレポートの提出を求める。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係	自立して研究を行うに十分な専攻分野に関する最先端の知識と人間生活に関する豊かな学識を持ち合わせている。 高度に専門的な業務に従事するに必要な高度な研究能力と豊かな学識を持ち、専門領域に関する問題解決のために取り組む態度を身につけている。 新たな概念の構築に対して、十分な学識と革新性、自律性、倫理観を持って積極的に参画しようとする態度を身につけている。			
オフィスタイム	水曜日13:00～16:10 本館3階 No.1住居学研究室			
アクティブラーニング実施内容	作成した課題について、プレゼンテーション・ディスカッションを実施			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス（山形）	講義の内容と進め方の説明	次回テーマの予習	60
2	住空間の構成原理（山形）	建築物及び都市空間における構成原理について解説する。	講義内容の復習	60
3	住宅計画の構成要素（山形）	住宅計画についての基本概念と空間構成について解説する。	講義内容の復習	60
4	都市空間の計画プロセスと構成要素（山形）	都市空間の計画プロセスと構成要素について確認する。		60
5	都市防災とインフラ（山形）	都市防災の現状とインフラ整備に関する相互作用について解説する。	講義内容の復習とレポート提出	60
6	社会と健康①（伊藤）	社会階層と健康への学際的アプローチについて解説と討議を行う。	社会と健康についての最新の情報を収集する。	60
7	社会と健康②（伊藤）	階層と健康について解説と討議を行う。	社会と健康についての最新の情報を収集する。	60
8	社会と健康③（伊藤）	健康格差のメカニズムについて解説と討議を行う。	社会と健康についての最新の情報を収集する。	60
9	社会と健康④（伊藤）	社会連帯の形成について解説と討議を行う。	社会と健康についての最新の情報を収集する。	60
10	社会と健康のまとめ（伊藤）	社会と健康についてレポートにまとめる。	社会と健康についての最新の情報を収集する。	60
11	環境と住空間（阿部）	住空間は自然環境の他、生活様式や社会的・文化的・歴史的背景によって異なる。そこで、多様な展開を見せるパナキュラーな住空間を「自然環境」「生活様式」「社会的背景」の3つの関係から考察する。	風土と住空間について多面的に捉え理解を深める。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	住宅の熱取得と熱損失（阿部）	住空間の「快適性」や「省エネルギー」の観点から、住宅の熱性能を評価する指標について解説する。	住空間の断熱性と気密性を数値化し、熱性能について評価する。	60
13	温熱環境の評価指標（阿部）	温熱環境の6要素に基づき、代表的な温熱感覚指標である予測平均温冷感申告PMV、標準新有効温度SET*を算出するプロセスについて解説する。	温熱環境を数値化した指標をもとに、環境評価を行う。	60
14	空気環境の測定法（阿部）	空気環境の測定法について解説する。また、室内空気中の汚染物質濃度を許容濃度以下にするための必要換気量を算定する。	空気環境の基準と空気質の測定法による評価法について理解する。	60
15	バリアフリーとユニバーサルデザイン（阿部）	さまざまなタイプのハンディキャッパーを想定し、物理的バリアのみならず多角的な視点からバリアを除去することを検討するとともに、ユニバーサルデザインについて考察する。	バリアフリー及びユニバーサルデザインの概念を基に、生活環境を評価する。	60